





中卷  
338

袖珍醫便序



有生也内犯七



情外觸六氣雖聖賢

不能必其無病故神

農嘗藥品以療之黃

帝論病源以證之所

以醫道之興起也凡

醫如制敵之將藥如

退敵之兵醫之用藥



猶將之用兵也善劍  
勝者練兵於平時善  
養生者蓄藥於未病  
矣玉札丹砂青芝赤  
箭牛溲馬勃敗鼓之  
皮俱收並蓄待用無  
遺者古人稱之醫師  
良也若夫醫使之俚  
語拙解為不足覽之

則非醫之良況如庸  
醫者謂之照肺腑之  
一助亦可肯  
享保十龍集し己八  
月望

華洛 蘆桂洲識





袖珍醫便凡例

一此書至て俗語を以て書し  
みす事片郷の野巫醫或  
は醫療し志ある俗家の  
其理を知らざる事と欲  
してなり

一醫學の心得藥調劑乃次  
第ハ一溪翁の切紙又は老  
醫の證語を以て逐一小書  
しける所なり

一按摩導引の法且養生の大  
要ハ諸書を考へ其簡要を  
みとのと擧てこまこと記す



此人日小動なりて病を  
去年と延ぶの法かり

一凡そ諸病門小舉の所の藥

方ハ名醫方考醫學正傳

醫學入門萬病回春壽世

保元濟世全書證治要訣

等の書ハ中より勝て効あり

方と抜出して記す所なり

本より諸老醫の日小用ゆ

るの方なり

一眼目の諸方ハ銀海精微を

以て主として諸方書の中

より名方と載る所なり

一婦人の諸方ハ婦人良方産

法百問と本として諸家の

奇方と記すものなり小兒ハ

諸方ハ小兒直訣保赤全書

嬰童百問其外 本朝乃

明醫の家々傳る所の名方

と畧載るものなり

一末卷雜方の部ハ是 本朝

古より良醫家或ハ諸の家

家秘し傳へて深く藏せし

所の方にして其効ハ世に流

布する所なり故小其傳る

所の姓名と藥方の下小記す



記さよこの八類方のうち其  
 正しきとれと載る所なり必  
 す以て疎ふ思ふへす廣  
 衆人々濟ふと醫師の本務  
 とせり故に秘して家寶と  
 せりしとくが妙方記して  
 世に傳ふものなりこれと  
 用ひば必ず余が言の誤らざ  
 ることん知べきこと

凡例畢

袖珍醫便卷之一目錄

醫學次第	初	醫師心得	二
診脈次第	三	藥劑調合次第	五
外包式法	六	藥煎様事	八
書方銘之法	九	按摩導引法	十三
養生論	十四	養性調氣篇	十八
行壯修用篇	十六	行壯制禁篇	十八
十二月禁食	十九	飲食相反	二十
月令攝養	二十		

袖珍醫便卷之一目錄畢



袖珍醫便卷之一

醫學次第

醫道小志と淺く一治療と業と  
 せんと思ふ者ハ儒學のほとん  
 なくてハ醫書ハ宗明りケル  
 四書五經の文理大方小すま  
 其後素問難經の理と逐一明  
 め極じ一如此る時ハ入門回  
 春等の療治書ハ理自ら明  
 して病を治すハ誤まらざること  
 然まども近代醫と業とする者  
 學問ハ功をばして脈象經絡  
 明り藥を施す者ハ甚々稀なり  
 て渡世のとめ一丁向ハ文蒙る



族一二の妙藥聞書の醫書を  
 以て療治する者甚ど多し  
 醫へ人の命は生死のあがらぬ者  
 されば平生心づく醫書の起  
 と極め知らんし肝要のこころ  
 先講談と聞へきの書素問靈  
 樞難經本義運氣論十四經發  
 揮格致餘論源病式洋洞集正  
 傳或問大成論等なり療治書の  
 常に見べきものハ名醫方考醫學  
 正傳醫學入門萬病回春壽世  
 保元等日本の述作醫方口訣衆方  
 規矩壽世囊等又ちるりりて  
 治療のよめ小便あふ者なり脈

象のしハ崔紫の脈訣王叔和の  
 脈經滑伯仁の診家樞要本綱  
 小載の所の脈學等窺ひるべし  
 藥性ハ本より本艸綱目或ハ本  
 艸約言本艸原始約マウて見  
 やと凡そ醫學小志より漢書  
 らん者ハ左小記す所の書を一  
 通ハ見よ

- 素問次注張介賓
- 同類經張介賓
- 運氣論
- 沖洞集
- 局方發揮
- 千金方
- 同注證發微馬元
- 難經本義
- 十四經發揮
- 源病式
- 甲乙經
- 三因方陳無擇



○證治要訣 ○證治準繩

○古今醫統 ○醫學綱目

○醫學入門 ○醫學正傳

○名醫方考 ○萬病回春

○壽世保元 ○濟世全書

○薛已十六種 ○名醫類案

○本草綱目

○醫師心得

凡そ醫者之者ハ貴賤親疎小  
大一様小心を以てして藥  
を治すべし貴人或ハ富家  
人親人の病とハ大事小つけ貧  
賤の人ハ病をハおろそかすは  
こやしハ戒めの第一なり藥料の

多少と論じて心小慎り含むハ大  
なる誤なり陰濇とて專ら慈悲

の心ありと醫者の本務とハすこと

なり其上又婦人或後家或比丘

尼摠して若き女と療治すハ彼

ふとても近所ハ人あり時とハ

べし少くも人ハ不審と立らる

は一生の害とあるなりと成りし

くくけしむべきなり又いふ心  
易き間よむのはあると墮胎  
の藥などハ調合すべし墮胎  
とハ子と命すことなり

○診脈次第



病人男ハ左の手女ハ右の手先  
 こん先中指を關骨と探り定  
 めく次小寸部と指と下し又尺  
 部と指と下すなり初ハ軽く次  
 第小重く按て候ハ物上へ按上  
 下へ按下て考へざるなり寸關  
 尺とも輕中重の三段は候ハ  
 故小三部九候と云り左右とも  
 小同一心得なり又反關の脈と  
 て腕の外れ方へ回してわ人あ  
 り氣とけけ候ハ一又厥冷  
 或ハ霍亂なるの脈伏し候ハ時  
 ハ手とらむしけく診べし貴人  
 の脈と診すハ醫者さく

の臂とけけく平伏して診べし  
 都て脈と診し病人の負と  
 うく見ざるハ不敬ハこと  
 なり脈と候ハの圖左の如し

右



左



關骨



二十四脉

浮 沉 緊 抃 滑 瀦 實 虛 弦 弱 洪 細 長

表 按不足なり

裏 舉不足なり

榮有寒邪安てカ甚し

脉中失血 四指より三指まであり

多血少氣 喘急なり

三部玉の動が如し

少血多氣 滯りて順流せん

氣血實 滿舉て實按ても又實

血氣俱虚 舉て虚按ても又虚

脉中有邪 力主拘急 弓の弦の如し 按てたゞま

物と按すこゝろ 風邪ありよまき

浮大なり 洪水の來るが如し 熱と主なり 氣血過なり

來性細小なり 血氣の不及なり

來性長たけなり 三息太過なり

往來たけなり 三焦不足なり

氣熱血閉 寸す小至りて來りたまはく

氣虚結 遲して一動づらなり

骨中痛 寸をひらく 按てもたまはく

元氣虚 一々力衰ふ 舉るときハ無按ときハ有が如し

関小あつて往來口ん 陰陽搏なり

食癖積聚 寸と寸と見ず

寒氣血冷 一息三至

息急風結 四動あり 遅く三動なり

陽氣已虚 一々氣痞 有力無力

一藏絶極の止脉なり 五至十至の間ニ留止して又來る

七死脉

彈石 解索

筋肉皮を石と彈くが如し 是肺死の脉なり

筋肉の上より散乱して索と解が如し 五藏の死脉なり

短 促 結 牢 濡 動 伏 遲 緩 微 代



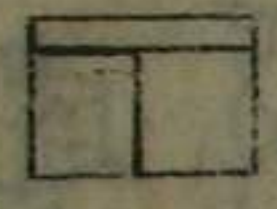
雀啄 屋漏 蝦遊 魚翔 釜沸

筋肉の食と啄し如し心絶死脈こ  
筋の雨の漏れ如し心肺絶の脈あり  
皮毛に在りて浮て又退て在所を  
蝦の水に遊如し脾胃絶の脈こ  
皮肉の上より魚の行ず如し但  
尾と如し如し胃絶の脈あり  
皮肉の上より金の沸上り  
如し六死に加て七死の脈あり

藥劑調合次第

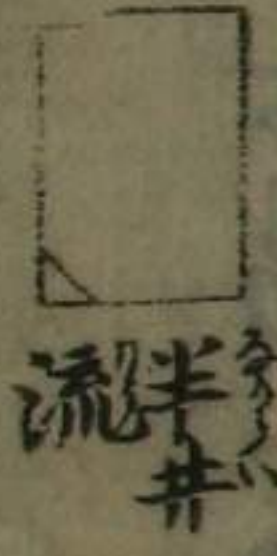
藥箱の蓋を仰のり其上に小包紙  
と左より右に方へるなりなるに  
ええハ壓尺を置たり壓尺をき  
時ハ合たりと置下多く調  
合する時ハ前より向へ左より右  
へとより左より調合するき方を  
書り考へ其書を向へ置一  
々藥味の箱より取り出し並

べたき敬と存して調合するべし  
一服の重きは藥味の多少より  
よび大方一匁より一匁四五分  
小至る又方よりして二匁余ハ  
大服に調合するもあり小兒の  
藥小服に合せ水一盃と七分小  
煎一盃と一盃入三分煎ト  
用ゆるもあり調劑包にやうの家  
ふよりかりあきども多くハ

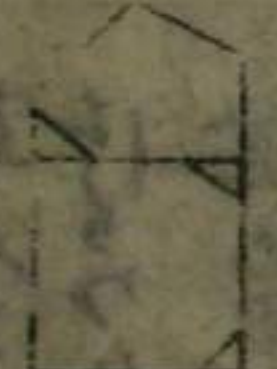


如此に包しなり

又



半井流

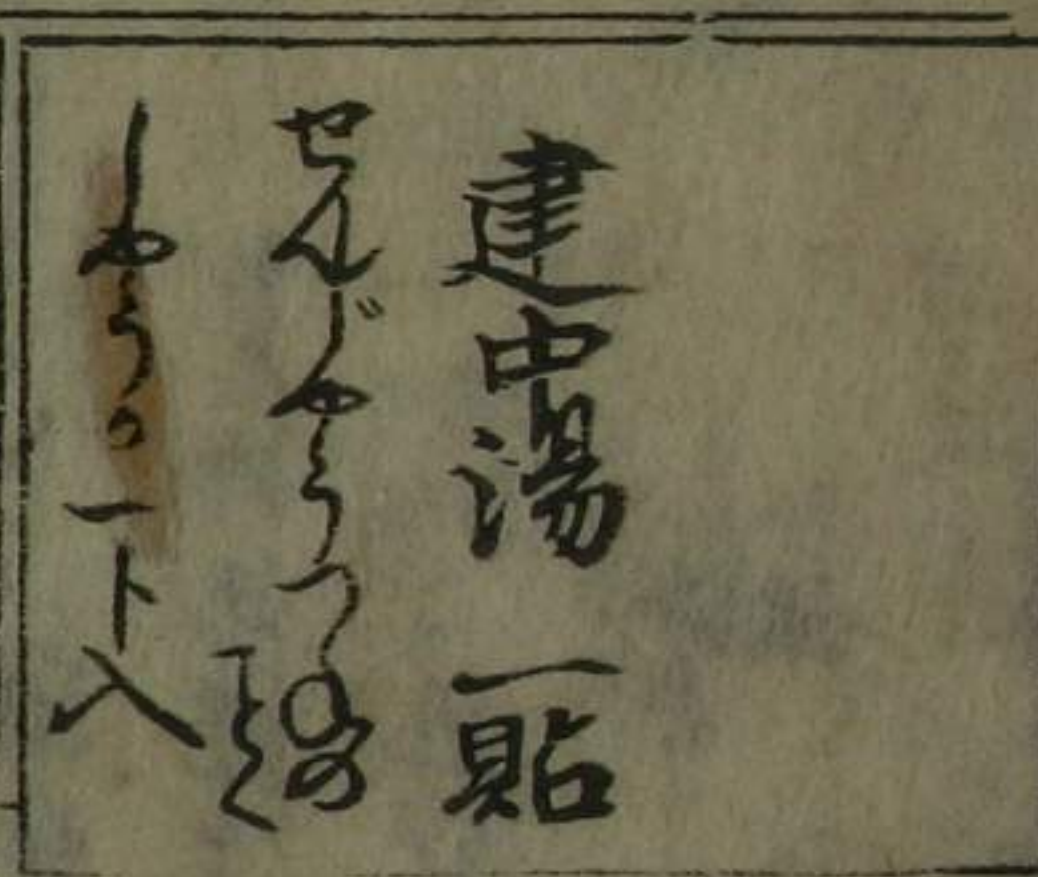


五雲子流

是外色々包にやうあかり  
粉藥丸藥など用也



○外包式法



平人初て  
はらうん時の  
認めらるる  
杉原三枚と  
用也

此角とらうふ折べり俗



上はせんやう  
と書とあり  
医の名ハ書ざ  
らう印と姓  
名あり

男子

女子



如此認り  
とあり



杉原一枚の  
時奥と折  
りす

凡そ當時の法式物の手輕きや  
うやとすもさう一枚ははじり  
儀なり初てはらうん時ハ銘を書  
け二度めらうハ前方或ハ同方



前劑同劑をどし書ことあり加減あり加減方と書べし

大裏の裏れふうじめを醫の名或ハ表号又壽の字驗れ字封の字かどを印より付押すべし丸きか又ハ壺の印をくよ百來すよこなり四角なり俗に四の字と嫌ふ故に用ひす難産催生の藥又ハ胞衣下さし時の藥など小ハ封の字とさしゆふ押こやと嫌ふ驗の字と書べしと道三の切紙を見たり大便秘結小便不通の藥をとも右の心得あり都て病家の氣よくけさるやう

小ことと簡要なり至て貴人へ御藥上るふハ

御煎劑幾貼

- 一はこみ小水御天目
- 一色も入一盃よせん
- 一は減やうきと
- 一はけてるやう

中高或ハ大杉原

如此調ふべきなり生姜末など入るときハ其謂きと書べし入らざるハ其沙汰を一包ミて上ふハ

御藥

醫師名

如此とくじ

べきなり



藥煎様事

藥と煎す。と敬んでおろそかり  
す。くぐ水ハ井華水とて曉初  
り汲水と用かべ。此外病小  
らく煎す。水とかりあふ  
とらり發散瀉下の藥ハ火とほ  
くく煎すべ。補養蒸潤の  
藥ハ火とゆるく煎すべ。  
藥鍋ハ銀或ハ土鍋と佳とん唐  
金鍋を用ひ古びるハ大毒  
を新しきハ其毒は藥の反す  
く多煎藥袋ハ絹或ハ濃布と  
用也。世間の人茶れ會又は  
酒と醸るハ様々と水を吟味

一命とほ多く藥とハ水の穿  
儀となく奴婢に任せて疎略お  
す。こと大なる誤りなり父母の  
藥など下人の手ふけ煎すこと  
不孝の罪すくかりん能々謹  
むべきことなり

書方銘之法

藥方の銘と書くと其病の品小  
つとくくの理ふるへ銘とつ  
く。なり古來より解衆が  
名と書へく初やくのとき小  
銘と書へ同方とも同劑と書  
へす或ハ初め書へ如く名と書  
七あり加減の時別名と書



千聚 勝真  
**金**  
 眉 凡 機  
 樞 鎖 銀

**鎮**  
 驚 軍 志 精  
 氣 衛 胎 紅  
 補 顛 心 悸  
 躁 心 悸

**平**  
 治 胃 肺  
 氣 脾 源  
 聚 疳 順  
 養 和 元

分 消  
 痲 飲 腫 穀 蠱 痞  
 鬱 食 毒 毒 疔 塊  
 癩 疔 蛇 聚 脹 驚

**快**  
 鬱 煩 痰  
 衛 腸 積 淋  
 氣 脾 積  
 中 膈 榮  
 滋 心 疑  
 明 喘 疔

勝 三 客  
**神**  
 聖 佐 助 劑  
 鑑 効 授 數  
 賜 驗 秘 傳

如 通 三 二  
**聖**  
 助 授 効  
 神 草 馬

益 益  
**潤**  
 榮 燥 枯 肺 榮  
 精 養 下 源 精  
 筋 和 酒 金 神 筋

**寬**  
 急 胸 腸 虫  
 痛 鬱 脹 中  
 脾 和 胃 聚

**養**  
 筋 肺 榮 肌  
 氣 精 胃 脾  
 血 元 中 補

あり又加減方と書くしるる某  
 湯某飲を、三字、五字、書  
 べし四字、嫌ふより左に記  
 す所と考へ知べし



萬

安

立

金

玉

銀

潮虫采

淋裏中

胎腸氣

泉鎖

機樞

露壺

骨神

脾肝

源流

征

蟠邪痰

聚塊

氣玄衛

潤精

睛視

痰虫

風癩聚

寒熱積

心快  
順預  
通飯  
和双  
兩交

解

悶肌勞  
擦蒸毒  
鬱煩利

神

秘

通

大

順

四

精元  
肌勝  
玄府

血氣解

衛經生

補通脾

大  
鎮  
潤  
平  
如  
滋

補

脾心腎  
脾陰陽  
真髓源  
損中血  
榮衛元  
建玄氣

滋

液潤  
榮腎  
陰髓  
源元

健

脾胃  
步中  
營元

驅

寒熱積  
蟠邪疳  
濕疽毒  
風癩聚  
痰虫

益

氣玄衛  
潤精  
睛視  
多中泉

征

蟠邪痰  
虫痰  
疳疳  
聚塊



建

元髓 脾明 中胃

固

本源 提元 腸精

勝

德神 駿仙 金紅

調

營腸 經胃 中榮

如勝地 仙

金壽 傳通 助授

通

神痞 心秘 痰氣 滯鬱 腸  
仙 關 膈 經

二

奇 妙

合効 助授 秘手 香救

經

快散 聚

妙衛 金神 仙寶

温

胞和元 腸經膽 肺中胃

散

癖痰解 聚脹癥 滯毒痰

保

精安命 暉肺真 重嬰兒 和神中

神功

卒捷 聖奇 高異



順 快

利

痰氣 腸膈 紅和

理

怔忡氣 膈噎淋 心痛元

化

痰涎 毒斑 虫癥

和

中解 氣血 榮胃 監毒 虫痛

實

腸髓 精脾 液肌 中元

定

志肺 喘悸 心神 血源

右の上下れ文字と考へて中

の大字と用ひく病證相應の

方名とくべし是れ餘る所と

類と推て知べきなり

○按摩導引之法

○半夜子の時陽正興時節又ハ

朝起んとす時正座して

目とやと口と閉舌先と上腭

小けけ齒と叩くこと三十六兩

の手と以て耳を閉氣をすま

暫くあつく手と一所より

の閉き目と摩り面と上下へ

とくとも左右の手一所ふか

と入て上へ指と組てさしわけ



物後へ膏膏の骨の行合あひありふ  
おろして前まへに膝の上ふなき物右  
の手てとて少すこしかみく左ひだりに握り  
背せの十四じゅうしの椎つばねの左ひだりの方かたと十六じゅうろくを  
ろくと撃うつ又左ひだりの手てとて少すこし  
かみ右みぎの手てと握り十四じゅうしの椎  
れ右みぎの方かた十六じゅうろくとろくと撃うつ物  
両ふたの手てみく胸むねより腹はらへ順ゆに摩すり  
下したに腿ひざと両ふたの方かたともふさすり膝ひざと  
立た願ねがひ両ふたの膝ひざ頭あたまに載のり両ふたの手てと  
組くみ両ふたの足あしの心こころとけ両ふたの方かたへ引ひ合あ  
やふ二三さん度たびして其後そのちこつと  
両ふたの方かたともさすりてすぶふ両ふた足  
とそりへてよとの仰あおき卧ふ両ふたの

手てと両ふたの方かたへひろげ暫しばく卧ふて  
氣きをちぢめ心こころとおさめく起た出でへ  
一いっ如此ごと毎まい朝あす時ときハ一いっ生な病びやうを  
一いっ長ちやう生せいれ秘ひ術じゆつなり  
○一いっ法はふ遺い精せい不ふ禁きんの証しやうと治ちす  
卧ふ時とき身みをひめ弓ゆみとせ如ごとくふ  
して卧ふ両ふたの膝ひざと臍へしれ所ところふ縮ちぢめ  
或あるハ左ひだり或あるハ右みぎに側たがひち卧ふ一いっの手てと  
用もちて陰いん囊のうとひき一いっの手てと丹に  
田でんと膈かくの下した覆おひ心こころと掌てのひらとて  
静しずに卧ふべ一いっ是これ精せいと固かたく洩しさ  
ず身みと保たもつ妙たう術じゆつなり

○養性論

素問そもん曰い夫そ陰陽いんやう四時しじ八萬物はつばんぶつの



終始死生の本なりこれ逆ハ  
災害生ト云ふ從ハ疾病起ラ  
す是ト道ト得ト云ふ是故ハ聖人  
ハ已病ト治セズ未病ト治ス  
前ト治ス上古天真論曰黃帝  
天師ト問テ曰余聞上古の人ハ春  
秋ミテ百歳ト度トモ動作セズ  
へハ今時の人ハ年五十トテ動  
作ス衰少ハ時世異クヤ人  
コレト失ヘヤ岐伯對ヘク曰上古  
の人ハ道ト知者多ク陰陽ト法リ  
術數ト和シ飲食節あり起居  
常ありク妄リ少ク勞ト作ス故ト形  
ト神トとも盡テ其天年を終

百歳ト度リテ死ラズ今時の  
人ハ然ラズ酒ト漿ト醉テハ  
房事トナクテ以テ其精ト竭ス  
五十トテ衰少ト迫キ多ク

○養性調氣篇

老子の曰人生ミテ百歳ト以テ  
限トシ節護の者ハ千載ト至ル  
ベ人事ト以テ意ト累ハズ淡  
然トシテ無爲トシテ神氣自ら  
満テ不死の藥ト云ハカク○彭祖  
ク曰人身虚無トシテ衣ト思フ食  
ト思フ聲色ト思フ勝負ト思フ  
得失ト思フ榮辱ト思フ心勞セ  
テ神極ラズ但再ミテ千載ト



得べきなり。○論曰百病ハ  
氣キノリ生ナズ其始ハ必ず喜怒哀  
憂思悲恐驚ウノ由喜ハ時ハ氣  
緩ユニ甚シキ者ハ心シト傷ケル怒イカ  
トキハ氣逆キス甚シキ者ハ肝シを  
傷ケル憂ウハトキハ氣聚マル甚シキ  
者ハ肺シト傷ケル思シトキハ氣結マス  
甚シキ者ハ脾シト傷ケル悲ヒトキ  
ハ氣消ヤス甚シキ者ハ心胞絡シト  
傷ケル恐ウトキハ氣下ル甚シキ  
者ハ腎シト傷ケル驚キトキハ氣亂マル  
甚シキ者ハ膽シト傷ケル七證殊ニ  
アリトキハ氣ノ踰ルトキハ  
○孫思邈ノ曰怒ハ偏スル氣ト傷ル

思ハ多クバ神ト損ズ神ヲ傷ルハ  
心ノ没ルヤハ氣ノ弱クマルハ病ノ相シ  
榮テ悲觀極ラシトキハ

○行壯修用篇

四季調神大論曰春三月此ノ發  
陳ト云天地俱ニ生ス萬物以テ榮  
なり夜ニ卧シ早起ス廣庭ニ步シシベ  
○夏三月ニ蕃茂ト云天地氣  
交リ萬物華ニト云實ノ夜ニ卧シ  
一ニ早ク起ス雞ト俱ニ興ベ○秋三  
月ニ此ノ容平ト云天氣以テ急ニ  
地氣以テ明ニなり早ク卧シ早ク  
起ス雞ト俱ニ興ベ○冬三月を閉  
藏ト云水氷地折ル早ク卧シ晚ク起ス



必ず日光を待べし。○平明起令  
 欲す。時床を下ふ。左に脚を  
 先せし。一日災害なき。終日唾  
 へ常ふ。含みて嚙じ。精氣を  
 留め。面目光あり。早く起常  
 二両手こて頭より摩らる。摠身  
 とこらる。名て乾  
 浴と云。顔色と澤し。風寒と勝衰  
 病を除く。○常ふ晦日朔日と以て  
 沐。寅の日手れ爪と剪。牛の日  
 足の爪と剪べし。○望日十五日と  
 東に方へさる。桃の枝ととり  
 剉。湯煎。浴す。時氣悪  
 氣と避る。○養生要集小曰

常し陰日と以て沐浴とくべし  
 壽と増たり

陰日ハ丁巳辛癸の日なり

○又曰 正月二日 二月三日

三月六日 四月八日 五月一日

六月廿日 七月七日 八月八日

九月廿日 十月八日 十月廿日

十二月廿日

右此日と以て枸杞と取て湯煎  
 ト沐浴せれば顔色と増年と延  
 る。善性。養ふ者ハ飢ふ先つ  
 て飲寒ふ先つく衣熱ふ先つて  
 解凡。食少くこしく食すべし  
 飽中。飢飢中ふ飽しむ。やう



小ぶく。○凡そ眠ふハ先心を  
臥し、後、眼と卧し、空しく  
反覆く、膝と屈め身と側て卧  
べ、口を開て卧べ、開ハ氣と失ひ  
邪氣ハ入る、髪ハ細々、櫛けら  
るゝ、風と去目と明く、不死  
の道なり。○凡そ悪き夢を見  
る時ハ咒く、悪夢ハ木と著好  
夢ハ宝玉と著、東ハ向うて三た  
び唱之、悪氣去り、吉くと幸ひ  
至る道術なり。○凡人四十歳以  
後、常、目實べ、要事わ  
ずんハ昔て開くことなる事。

○常、小夜半已後、齒と叩くと三

十六數、夜道と行くと如此  
と、邪氣と去り、兼て齒と固  
ふす。なり。○仙經、曰、長生と  
求る者ハ先三尸と去べ、と、なり  
三尸とハ人の身中、三尸蟲  
とて、虫あり、人身のわ、悪  
事とことごとく、天帝へ告訴す。  
と、なり。故、壽命長くと是と去  
術ハ庚申の夜半、小身と淨め、商  
小じり、く、再拜く、咒、曰、彭侯尸  
彭常、命兒尸、悉く、窈冥、入去  
て、我身と離、と、三、及、唱、て、終夜、寢  
ると、なり。如此、毎度、すんハ、三尸、虫  
遂、去、と、なり。大清、經、見、と、り







ろれ ○凡そ大風暴雨大霧  
 雷電皆是諸龍鬼神行動經過  
 の致すところあり宜しく室へ入て  
 香と焼静坐し心と安んじて以て  
 これと避べし ○凡そ人夜厭る時  
 八燈をたててこれと喚起すこと  
 是間してこまと喚べし急し喚  
 べし臥所の頭へ邊へ火鉢と置  
 こやまらむ

○十二月禁食

正月	生蓼	生葱	梨子
二月	蓼子	梨子	兔肉
三月	蓼子	百草	小蒜
四月	胡蔥	大蒜	雉子

五月	煮餅	韭菜	雞肉
六月	生菓	油臘	鴨馬
七月	蓴菜	芡實	鴈肉
八月	生姜	胡蒜	螃蟹
九月	新姜	蔡菜	雉肉
十月	山椒	韭菜	猪肉
十一月	生薤	鴛鴦	黃鼠
十二月	生椒	牛猪	蟹螯

○飲食相反

鮫魚と	野雞と	癩病と生す
野雞と	猪肉と	吐瀉す
猪肉と	生姜と	大風と生す
生姜と	兔肉と	霍亂と生す
螃蟹と	灰酒と	血と吐



鯽魚と	芥子と	黃腫と
鯽魚と	夏菜と	驚癢と
鯽魚と	砂糖と	疔と
糖蜜と	小蝦と	暴下と
雉肉と	菌薑と	痔と
獺肉と	兔肉と	遁尸と
麥將曹と	鯉魚と	咽瘡と
粟米と	杏仁と	吐瀉と
柳子と	螃蝦と	腹痛と
酒後ふ胡桃と	食す	血と吐く
酒後ふ芥菜と	食す	筋骨と緩す
酒後ふ紅神と	食す	心痛と

○月令攝養  
古今醫統卷之九十八と出る

○正月

○元日平旦一鹽豆豉七粒と吞  
 八年中誤りて蠅子と食らん  
 ○元日自己小便と用ひて肢氣  
 と洗へば必ず愈効あり  
 ○元日赤小豆と以て煮熟せしめ蜜  
 と入まじけし和し空心一舉家こ  
 せと食へば一年疾ひる  
 ○元日嫩槐枝七寸紫蘇一束と用ひて  
 酒に入まじ煎して一家且く起て各  
 一盃と飲とき一年中患へる  
 ○正月甲子日白髪と髪は髭  
 鬚白くしむ

○二月

○丁亥の日桃李の花とどろく陰



乾みくおらなし戊子の日赤花  
水と和く方寸じと服すれば  
婦人の子なきを療す大に驗わ  
るかりの社日の酒と飲ハ聾を  
開く杜子美の詩は為寄治聾  
酒一盃と云りの二月夜寅の日魚  
と食とるこまうれ大に悪し  
二月八日黄昏に沐浴すれば人  
として軽く健うなりし日は日  
白髪と抜ハ神仙とる良日なり  
○二月上旬の寅は日土ととりて蚕  
屋で泥まハ蚕一室し二月  
二日枸杞菜ととりて湯煎  
沐浴すれば人として光澤ふ  
しと痒くす老きしじ

○三月

○三月三日桃の花ととり乾し末  
してこれと收め七月ふ至りて烏  
雞の血ととり和して面ふぬま  
ハ光白潤色をかくと玉の如し  
○三月二日桃の葉ととりて晒  
し乾くして末とるし用おれば心  
痛と治す毎服一匁酒調へて  
下す○三月十三日白髪と抜ハ  
永再び生ずん○清明の節に交  
つるとき井の水ととりて淨き器  
小貯へ眼薬に製すれば大に能  
目と明らふん○寒食の日細袋



と以て麩と盛風の當處に掛  
おき暑氣の中者八井の水と  
以て一本許と調へ服すこれを  
寒食麩と云三月三日苦棟花  
或ハ葉ととりおさめ席の下に鋪  
ハ蚤虱と避ふなり

○四月

四月七日ふ沐すれハ人として大  
小富ひじりなり八日枸杞の苗  
ととり湯と煮沐浴ハ人として  
て光澤あり老ざし一じの九日  
日入時沐浴すれハ人として長命  
なり一じの四月雞の肉と食ふ  
ととるれ生の韭と食ふととるれ

○四月十六日白髪と抜ハ即ち  
黒髪と生す

五月

五月五日午の時百草の嫩苗を  
とり汁と搗石灰と和し餅とを  
し陰乾とせしめて收り貯へ凡て  
金瘡跌打と遇とき末とせしこ  
まきと敷まハ即ち愈し是日髪  
沖と以て火と棄ト束子一つ二つ  
と床の下ふ焼ハ蚊と避ふなり○  
是日午の時朱砂と用て茶の字  
と書し門柱に倒貼ハ蛇蝎  
を避ふなり○是日午の時太陽と  
望倒し柱脚の上れ四處に貼こ



きハ蠅ハ○又の法ハ儀方ハの二  
字ト書シ倒シ貼ス○是日葵ハの  
子ヲ收メ炒シ末トシテ淋病ト治ス  
毎服一酒ヲ調ヘ下ス○是日  
日未出タル時ニ東ヘ向フ桃ノ  
枝ヲとりテ一寸ノ作衣ノ領ニ中  
小置ハ人ヲして物忘マセムノ是  
日明禁一塊ヲとり且夕ニ晒シ晚  
小至リてこれヲ收メ凡テ百虫ノ  
嚙ル時ニ此ノ傳マハ即チ愈  
○五日午の時ニ艾ヲ採用スハ  
百病ト治ス○五日鯨魚ノとら  
收メ衣領ノのうらふおかけ人ヲ  
て物忘マセムノ○午の日赤靈

符ヲ作りテ心前ニ著マスハ五兵ト  
避ル事ト主ス○赤靈符日本ハ  
其事傳リテ  
○二十五日空ニく白毛ヲ拔ベト  
○五月戊辰の日猪頭ト用ヒて社  
と祭マスハ人ヲして百事通泰カ  
らシひシかり

○六月

六月六日青梅葉トとり搗末ト  
井水ヲ用ヒ磁盆ニこれヲ晒シ  
乾シて磁瓶ニ貯ヘ水ヲ注シ目ヲ  
洗ヒ是日齋戒沐浴スハ其言  
俗ト絶ス○是日土ヲ動スて  
まシ○六月七日八日二十一日小浴ス  
ハバ人ヲして疾穰災ヲ去リ



び〇六日烏梅漿と飲じべ湯  
と止其梅漿と造子の法烏梅の  
肉と用ひ搗沙糖蜜と以てこれと  
浸湯これ調へ飲じり〇十  
九日白髪と抜バ永く生せん〇二  
十四日老子白と抜日

〇七月

七月七日烏鷄の血ととり三月三  
日の桃の花と和し面と塗まば  
瑩白玉の如し是日赤小豆と  
とり男ハ二七粒と吞女ハ二七粒  
と吞バ歳畢まで疾ひる〇是  
日夜と晒ハ虫なく書と晒セバ蠹  
る〇蜉蝣和りの〇七日守宮と採

陰干し一合す〇井花水と以  
て和して女の身と塗まバ文章あり  
丹と以てこれと塗ま去る者ハ  
淫せん去るのハ毒あり〇七夕  
の且烏鷄ととり血と點トて  
手面と塗まハ玉の如し身上と  
傳るも亦然り三日温湯と以て  
こまこ浴す〇七夕の夜螢火虫  
十四ととり髪と搦まハ自ら黒  
し〇七夕の日蜘蛛一つととり夜  
領の中と著まハ人として忘ま  
ざしトじ〇二十五日と浴すれば  
人として長壽あり〇二十八  
日白と抜ハ身と終るまで白か



○八月

七日沐浴すれば人として聰明を  
らしむ。十日朱砂を以て小兒の  
頭の上へ貼す。名て天灸や  
云以て病を厭む。辰の日錢一  
文を施すべし。利を倍するなり。○  
八月生蒜食ふ。ちうれ神安し。  
す。○韭を食し。並小露葵を食べ  
し。○生果を食し。ちうき人として  
て瘡多し。し。○八月十九日白  
髪を抜ば永く生む。

○九月

九日菊の花をちうり酒を醸すれば  
甚し香ばし。且頭風を治し。目

と明くふす。○九日菜菔を佩菊  
花の酒を飲めば人として長壽を  
しむ。○九日枸杞を收め酒を浸  
し。これと飲めば老す髪白く  
兼て風疾を去ふ。○二十日空く  
齋戒沐浴す。大い吉なり。○  
十六日老子白く抜日

○十月

並びに房ふ入る。しと得され。○  
純陰事を用中。しとを避る。なり  
○十月初の一日空しく沐浴す。べ  
し。吉なり。○十日空く白く抜べし。  
○十三日老子白く抜日。十四日  
枸杞をちうり湯。煎し沐浴すれば



ハ人々て光澤ありて病す老ざ  
らじじ〇十八日鷄鳴の時沐浴  
浴せられハ人々て長壽ありじ  
〇上己の日槐の子とりこれ服  
すべし槐ハ虚星の精より百病を  
去り神明に通ず

〇十一月

冬至の日寅此時宜しく起て坐  
して東を向生氣を受て口丹田不  
嚥入べし人々て長壽ありじ〇  
十日十一日白と抜ハ永く白髪と  
生ぜん〇十一日枸杞とり湯に  
煎し沐浴すればおろそ光澤不  
して老ざらじ〇十六日沐浴す

冬は吉きなり〇冬至の日北壁の下ふ  
於て厚く草を鋪敷し元氣を受  
冬至の日多事多言す〇これ  
一陽方小生して大用あり〇  
冬至の後第三の戌は臘日とす臘  
前番雪これ臘前の三白と云大  
小葉麥小空一語云麥と麥セ  
ハ三白と見え又云臘雪ハ是被  
〇春雪ハ是鬼なり又云臘雪ハ蝗  
虫を殺し一寸の雪ハ虫土入ると  
一尺一尺の雪ハ虫土入ると云り

〇十二月

二日宜しく沐浴して吉なり〇臘  
月芝麻油を打てこれと收じれば



久しく留りく壞す燈を點すれ  
八日と明ふ膏をか一効あり  
婦人頭を抹ハ髪を黒ク潤ハ  
熾す風垢を生ぜ久○除夜に安息  
香並に蒼赤を焚ハ來歲疫病を  
一○七日白と抜ハ永く白髪を生  
ぜ久○十五日沐浴すれば災と去  
ふ○二十四日床の底小燈を點す  
これと照虚耗と云○十二月癸の  
丑の日門と造きハ賊敢て來らん  
○除夜花椒廿一粒と以て井の中  
小投すれば瘟疫と除く○臘後除  
日○遇とき鼠の頭をとらて灰に焼  
子の時小於て土地にこれと埋めハ

永く耗す一○臘月藥餌と合す  
○子好一久きと經て晴らん○  
臘月青魚膽を收り陰乾中如  
喉痺及び骨哽と患ふ時膽を一  
許と以て粥小含めハ津を下て即  
ち愈む○歲暮の日合家各髪を  
一根抜井の中小投し呪して曰  
勅使某合家清眷と一年傷寒瘟  
疫と患へす○除夜家中小用さる  
所の藥を收り庭中焚以て疫  
氣を避るなり○除夜室を薪と  
庭小積これと焚へ邪を避陽氣  
と助く○除夜神前及び各房中  
小於て皆燈を明りて旦り達











人參各 甘州五分

右生薑入水煎服す。もし痰盛なり半夏を加へ生薑を倍す。中風の證色々別ありきと大なる氣虚濕痰の者これと病り故小肥盛なり人ふ然く瘦燥の人少は希なり

●烏藥順氣散 中風遍身麻痺

痺 語言しかりん口眼ゆり

ひきけりかたどるを治す

麻黄 白芷 桔梗

川芎 枳壳 陳皮

烏藥各 白強蚕 炮姜各

甘草

右生薑入水煎服す。一身

と小麻せば人參白朮當歸麥

門冬を加ふ。久しく左少と右

少くもなてかちんじんハ麻黄

を去り天麻防風羌活半夏南

壁當歸木香を加ふ。眼口ひき

けりふと連翹羌活防風荊芥

竹瀝姜汁を加ふ。遍身痛ふ

當歸肉桂乳香沒藥を加ふ。臂

痛ふハ羌活防風肉桂茯苓紫蘇

を加ふ。脚膝腫ふと牛膝獨

活五加皮を加ふ。腰痛ふハ牛

膝杜仲茴香を加ふ。手足冷痺

ふと肉桂を加ふ。虚汗あり



小竹麻黄と去て黄芩を加ふ。  
 拘攣ふと木瓜草薢瓜加ふ。  
 心腹刺痛如く小痛じふは茴香  
 と加ふ。  
 ●大蒸丸湯 中風手足かたむ  
 ず舌強くても語ふくなくさると  
 治す。

秦朮 石膏 當皈  
 芍薬 羌活 黄芩 酒炒  
 生地黄 熟地黄 川芎  
 白朮 白芷 茯苓  
 獨活 細辛 五苓 甘草 炒  
 右生姜入水煎す。天陰雨少多  
 時節々生姜と倍す。春夏ハ知

冊を加ふ。心下痞へば枳實と  
 加ふ。

●小續命湯 中風外邪あつて  
 頭疼く身熱く脊強くと治す

麻黄 人参 黄芩 酒炒  
 川芎 杏仁 防己  
 桂枝 防风 附子 炮  
 甘草 三分

右生姜入水煎す。日久しく大  
 便せざるハ枳殼大黃を加ふ  
 ○語言小舌まじり手足掉ふ  
 中々石菖蒲竹瀝を加ふ。口濕  
 入八麥門冬瓜蒌仁天花粉を加  
 ふ。○身疼搐ふく羌活を加ふ。



汗多き小々麻黄と云。〇心

くくとせだは神遠志を加ふ。

嘔逆 腹脹小々人参と倍す。

夏と加ふ

●加減除濕湯 右半身くま

十手足たへ筋骨痛じと治す

白朮 茯苓 當歸

赤芍藥 陳皮 半夏

蒼朮 黃連 黃芩酒炒

烏藥 枳壳 羌活酒炒

白芷 人参 川芎

桔梗 防風 甘草三分

右生薑入水煎。身疼小々姜黃

を加ふ。足痛じ小々半膝附巴威

●加減潤燥湯 左り半身遂ハ

十手足癱瘓 呵嚏り眼口ゆぐ

目暈痰火盛小筋骨時々痛頭

痛心悸とらと治す

芍藥酒炒 川芎 白朮

茯苓 天南星 半夏

天麻 當歸 陳皮鹽炒

生地黃 熟地黄 酸枣仁

黃芩酒炒 牛膝 羌活

●紅花 防風 桂枝各

右水煎 竹瀝姜汁と加へ服



す○手遂々少々黄芩桂枝  
を倍加す○足遂々少々黄柏  
牛膝と倍加す

●勻氣散 腰腿疼手足伸屈

方用人半身遂々眼口少々

と治す凡々風氣中風中

氣小風藥と用ひく愈々小此

方と用ひく即ち効あり

白木四 烏藥 天麻各

人參 沉香 白芷

青皮各 紫蘇 木瓜

取州各

右藥を水煎す○心脾疼小ハ  
茯苓半夏陳皮木香羌活各

尤も効あり

●補中益氣湯方ハ虚証中風の

証内傷小因之ハ外ハ風邪小

あす多々ハ勞役各の是

くして真氣を奪各或ハ憂怒

あやあつ各其氣を傷者率小

目眩で倒各手足各なる者ハ眼

口ひきけり各舌各なる者

語言が各等の証を治す○

左右なる者ハ防風羌活天

麻半夏南星木香各加ふ○語言

あとな人遊各ふ石菖蒲竹瀝

加ふ○口眼各ハ黃連炒

羌活防風荆芥竹瀝姜汁各加ふ



○面目十の指俱小麻るハ氣虛  
なり附子木香羌活防風烏藥芬  
門冬を加○善湯水と飲舌あん  
けりて語言清きる脾虚  
濕熱なり神麴麥芽葛根澤  
瀉を加

○傷寒門附感冒傷風

脈陽浮し陰弱を傷風し

○浮緊し汗を傷寒と

す○脈浮し頂痛と腰脊強

なり病太陽經あり○脈長

して身熱し鼻乾し目疼し卧し

と得ず病陽明經あり○

脈弦し胸脇痛し耳聾寒熱

の往來あり病少陽經あり

○脈沉細し咽乾し腹滿し自

利あり病太陰經あり○

脈微緩し口燥し舌乾し渴

るは病少陰經あり○脈沉

濡し煩滿し陰囊縮しハ

病厥陰經あり○凡て傷寒

熱盛し脈浮大なり者は

生脈沉小なり者は死す已し汗

と脈沉小なり者は生浮大なり

者は死す

●香蘇散 四時の感冒風邪頭  
痛發熱惡寒の者を治す

紫蘇 香附各 陳皮一



甘州二分

右生姜入水煎す。○頭痛小ハ川芎白芷を加へ芎芷香蘇散を名く専ら氣虚の頭痛を治す。○頭劈々如く痛む小ハ石膏葱白を加へ。○頭常小痛小ハ細辛薄荷石膏を加へ。○太陽の穴痛小ハ荊芥石膏を加へ。○惡寒小ハ蒼朮を加へ。○發熱小ハ柴胡黃芩を加へ。○寒慄小ハ桂枝を加へ。○虚熱退む人參枝を加へ。○潮熱小ハ人參黃芩と加へ。○咳嗽小ハ桔梗五味子と加へ。○咳嗽止む人參半夏杏仁

を加へ。○鼻塞と聲重く咽喉和む小ハ桔梗を加へ。○胸膈痞塞小ハ枳壳半夏と加へ。○嘔吐惡心止む人參丁香半夏と加へ。○飲食化さむ小ハ縮砂青皮を加へ。○腰痛伸屈し難き小ハ肉桂桃仁を加へ。○腹痛小ハ木香を加へ。○脾寒小ハ良姜青皮草菓と加へ。○腹中水の如く小瀉小ハ藿香肉豆蔻と加へ。○癰疾小ハ楨榔子草菓。○瘡小ハ枳壳黃連を加へ。○甘州と去る。○久しく瀉る小ハ木香訶子を加へ。○身疼小ハ芍藥肉桂



を加ふ。○心氣痛。延胡索。烏  
 藥。茴香。加ふ。○脚氣。小。檳榔。  
 木瓜。加ふ。檳榔。蘇散。名。○濕  
 氣。脚。膝。痛。小。忍。冬。木。香。芍。藥。加  
 加ふ。○疝氣。陰。丸。痛。寒。加ふ。  
 熱。加ふ。○茴香。木。香。二。稜。菝。  
 木。木。通。○小。兒。傷。寒。食。滯。加ふ。  
 驚。風。加ふ。○小。青。皮。葛。根。  
 香。葛。散。名。○酒。毒。胸。小。支  
 一。或。ハ。嘔。一。或。ハ。吞。酸。一。及。丁。香  
 肉。豆。蔻。加ふ。  
 ●參。蘇。飲。四。時。感。冒。頭。痛。咳。嗽。  
 聲。重。涕。粘。者。治。す。  
 紫。蘇。 前。胡。 桔。梗。

枳。殼。 葛。根。 陳。皮。  
 半。夏。 茯。苓。各。 人。參。七。分。  
 木。香。 五。分。 甘。州。 三。分。  
 右。姜。棗。入。水。煎。す。○常。小。用。小  
 人。參。木。香。と。去。初。感。冒。一  
 小。用。小。ハ。必。す。人。參。と。去。べ  
 一。○肺。小。熱。ハ。杏。仁。黃。芩。桑  
 白。皮。加ふ。○肺。寒。咳。嗽。小。用  
 五。味。子。乾。姜。加ふ。○痰。多。く。ハ  
 瓜。蒞。仁。加ふ。○氣。促。喘。嗽。ハ  
 知。母。貝。母。加ふ。○發。熱。少。ハ。柴  
 胡。黃。芩。加ふ。○頭。痛。ハ。川。芎。 細。辛。加ふ。○咳。嗽。久。く。止。ま  
 不。ハ。勞。熱。ハ。知。母。貝。母。麥。門。



冬を加ふ。懷妊の傷寒、六半夏  
 を去て香附、黄芩を加ふ。衄血  
 ふく鳥梅、麥門冬、茅根を加ふ。  
 咳嗽吐血、小升麻、牡丹皮、生草  
 を加ふ。痘疹、いけれと疑ハ  
 き間、小赤色用也。陰虚痰  
 嗽、或ハ吐血、衄血、めハ四物湯、小合  
 しく茯苓補心湯と名く

●敗毒散 四季の傷寒、瘟疫  
 熱はく寒はく、頂あはく、身  
 疼じ者と治す

羌活 獨活 前胡  
 柴胡 川芎 枳壳  
 桔梗 白茯苓 人參 各等分

甘州減半

右生姜入水煎。風邪の人、小初  
 て用也。とき大方先人參、去用  
 也。病人氣實と。小去て、  
 氣弱く、藥力と運、かきみへ去  
 らん。傷寒、頭疼、身痛、頂強  
 了、熱さ、ん小惡寒、口乾、き心中  
 熱と蘊、ゆ、黄芩を加ふ。傷風  
 鼻塞り、聲重く、咳嗽、く痰、吐  
 小々半夏、杏仁を加ふ。眼腫痛、  
 と風寒、以感、る所、な、防風、荆芥  
 當歸、尾赤芍、藥、加へて、人參、茯苓  
 苓、去る。酒毒、發熱、渴、と、さ、ハ  
 葛根、黄連、加ふ。瘧頭、疼、身



痛小蒼木葛根草葉楨柳加小

○風熱濕毒腰痛小續斷天麻

薄荷木瓜加小○風熱大腸小入

下血止加小桑白皮薄荷烏梅

生姜加小兼加小衄血加小麥門冬

を加小若酒毒小因加小黃連を加小

小○皮膚癢痒加小蟬退加小

○熱加小紅小腫加小木瓜

蒼木加小○大便實加小大黃

を加小凡加小時疫赤白の痢病

發熱加小口乾加小身痛小黃連陳

倉米生姜束加小倉廩散加小名

く○噤口痢小陳倉米蓮肉加小

加小○痢後手足痛木瓜楨柳

子加小○臂痛加小冷手甚加小遂

か加小五積散加小合方加小て

交加散加小名加小木瓜牛膝姜束加小

加小○諸の瘡毒腫痛加小或加小癰

疽疔腫發背乳癰腫瘡等寒熱

小加小甚加小頭痛加小傷寒加小似加小た

る加小荊芥防風連翹忍冬加小

人參加小去加小荊防敗毒散加小名加小○

小兒急驚風初加小起加小發熱手足加小比

く加小上竅加小て加小て加小て加小

證並加小一切の感冒及加小瘡疹の序

病小搗搗加小發加小小天麻全蝎白

強蚕地骨皮附子加小加加小方加小

●十神湯 外寒風寒加小治加小の



主劑なり

川芎

麻黃

赤芍

葛根

升麻

白芷

陳皮

香附子

紫蘇各五分

甘草減半

右生姜入水煎

發熱頭痛破

如き小細辛石膏加小○心腹

脹滿加小枳實半夏加小○潮

熱加小定時あつ加小ふ加小黃芩

麥門冬加小○咳嗽咽加小り加小

小桑白皮桔梗半夏加小○泄

瀉加小白木花加小○瘧疾加小

草菓楮柳加小○痢病加小○秋

黃連加小○腹痛加小○芍藥加小

加小○飲食進加小縮破加小白豆

菴加小○嘔逆加小丁香香艸菓

を加小○衄血止加小人加小烏梅加小葛

根加小○疹毒加小肉桂人參

茯苓加小

●九味羌活湯 春分後の傷

寒傷風加小桂枝湯麻黃湯加小代

て加小用也冬用也加小亦可

羌活 防風 蒼朮五分

白芷 川芎 生地黃

黃芩各 細辛四分 甘草少

右姜東入水煎す○太陽の症加小

羌活加小葛根加小○陽明の症加小

升麻加小葛根加小白芷加小○少陽加小



症中柴胡黃芩半夏加小。  
 太陰之症小蒼朮厚朴枳實加小。  
 少陰之症小枳梗知母黃柏加小。  
 汗わくハ細辛去。此藥を服して汗を發せんとハ紫蘇加小。  
 惡風自汗加小ハ桂枝加小。  
 夏乃中加小ハ桂枝加小。  
 芍藥加小。  
 嘔逆加小ハ姜汁加小。  
 痰わく加小ハ生地黃去。  
 夏加小ハ肌熱加小。  
 葛根柴胡加小。  
 虚煩加小。  
 知母麥門冬竹加小。  
 胸中飽悶加小。  
 枳壳桔梗加小。  
 大便閉結加小。  
 大黃加小。  
 渴甚加小。  
 知母石膏加小。

加小

●不換金正氣散 四氣之感冒

傷寒瘟疫或ハ山嵐瘴氣加小。  
 深山又ハ濕氣深所加小。  
 行其氣加小。  
 小あて加小。  
 寒熱往來加小。  
 霍亂吐瀉赤白痢病又ハ遠方加小。  
 出水加小。  
 のか加小。  
 病者加小。  
 治す加小。

厚朴炒 陳皮 藿香  
 半夏 蒼朮各 甘草少

右姜朮入水煎。  
 頭痛加小。  
 川芎加小。  
 白芷加小。  
 寒氣加小。  
 小あて加小。  
 腹痛加小。  
 小ハ乾姜肉桂加小。  
 潮熱加小。  
 小ハ柴胡黃芩加小。  
 嘔逆加小。  
 小ハ丁香縮砂加小。  
 口燥心煩加小。  
 柴胡葛



根と加ふ。○氣塊小三稜枳壳枳榔  
 茴香を加ふ。○冷て腹瀉久く止  
 むんば木香訶子肉豆蔻を加ふ。○  
 瘧疾小常山旃檀草菓を加ふ。  
 ○腹脹小香附枳壳白豆蔻加ふ。  
 ○痢病小黃連枳壳加甘草と  
 去之。○胸脇脹滿小枳實縮砂  
 莪朮を加ふ。○咳嗽小桔梗杏仁  
 五味子加ふ。○喘急小麻黃  
 紫蘇子桑白皮を加ふ。○兩足浮  
 腫小木瓜大腹皮五加皮加ふ。  
 ○身痛小麻黃桂枝赤芍藥加ふ。  
 ○濕症聲出小石菖蒲加ふ。  
 ○寒症聲出小肉桂加ふ。

○腸胃濕をうけく下血止むんば  
 黃連烏梅加ふ。○濕小あぐり骨  
 節疼小咳嗽小木瓜加ふ。  
 ○霍香正氣散 四時不正の氣  
 をうけ或ハ内傷小外寒を挟み  
 頭痛惡寒發熱食傷を治す

大腹皮 白芷 白茯苓

紫蘇 藿香 白朮

陳皮 厚朴炒 桔梗

半夏各 甘草炒二分

右姜枣入水煎。○霍亂轉筋小  
 木瓜加ふ。○腹痛小肉桂  
 加ふ。○冷下薑各小干姜加ふ。  
 ○食各心あき小



香附子縮砂を加ふ○米食この  
ざれをと神麩麥芽を加ふ○魚  
鳥の肉化されふと山查子を加ふ  
○心けくく積實青皮○暑氣う  
あらりたくも香薷白扁豆を加  
ふ○時疫は柴胡葛根を加ふ  
○發熱あれも麥門冬竹葉を  
加ふ○口がとと小便通しくき  
ハ五苓散を合方に○腹きりく  
痛ゆ木香を加ふ○大便通さり  
あく通せきも積壳を加ふ○霍  
亂嘔あれも白芷を去り半夏  
姜汁を加ふ○瘧疾初て發す汗  
からふ此方を用ゆふと汗を  
を發して必ず愈す

●升麻葛根湯 傷寒目傷こ  
鼻乾て眠らん汗かかりて惡寒を  
發熱しる者ハ陽明經の証なり  
此方をれを主とすなり

升麻 葛根或ハ倍

芍藥各 甘草減半

右生薑入水煎す○咳嗽ゆ利  
白皮杏仁を加ふ○上焦の熱こ  
黃芩薄荷を加ふ○汗ありもな  
麻黃を加ふ○咽痛ハ桔梗を加へ  
甘草を倍す○丹毒ゆ玄參を  
加ふ○冬月ハ紫蘇を加ふ○手足  
冷ハ桂枝を加ふ○表ハ熱ありも



柴胡を加ふ。○内熱少く黄芩を加ふ。  
○熱甚き小山梔子黄連或は連翹天花粉を加ふ。○大便通じざるは枳壳大黃を加ふ。○身痛少く羌活を加ふ。○痰あり少く半夏を加ふ。○發斑老人は芍薬を去り柴胡茯苓人参を加ふ。

●桂枝湯 頭痛發熱汗出て風を惡し脉緩る者ハ太陽經風小中みゆる此方をも主る。

桂枝二分 芍薬一分 甘草五分

右姜枣入水煎す。○傷寒汗を發し後身痛脉遲弱なるハ黄芩一味飴糖一匕を加ふ。黄芩建中湯と

名く。○汗の後身痛は脉沉じ小く人参を加ふ。○汗多小ハ白朮を加ふ。○汗止むんハ黄耆を加ふ。○喘小ハ柴胡杏仁を加ふ。○桂枝芍薬防風羌活川芎白朮甘草各等分回春の桂枝湯なり。

●麻黄湯 太陽の傷寒頭痛發熱身疼腰痛惡寒して汗なく脉緊なり者を治す。

麻黄二分 桂枝一分 杏仁五分 甘草五分

右姜を入先麻黄を煎し沫を去り後餘藥を入煎し服す。  
○右の二方冬に即病太陽乃



傷寒小用の春分後ハらまは  
忌敗毒散九味羌活湯の類と用  
てこれ代るなり

●小柴胡湯 傷寒四五日寒熱

往來胸滿脇痛心煩喜嘔  
脈弦と邪少陽經小あり  
を以表半裏の証と云又雜病肝  
膽の二經小屬と云者此方と  
治す

柴胡五分 黃芩 人參各

半夏八分 甘草五分

右姜朮入水煎す ○温瘧又は下  
痢便毒囊癰の類前陰不在病小  
あきと用ひく主方と云るなり ○

凡そ寡婦又く未嫁の娘寒熱往  
來あつて頭痛胸脇痛は苦く

用水其時々來存飲してくさひ  
瘧小似て瘧小あり傷寒に似  
て傷寒小ありと熱入血室

と云此方を以て主薬と云るなり  
○渴者には半夏と去て

人參栝蒡根を加ふ ○腹痛小  
し黄芩と去て芍薬を加ふ ○小

便せなく腹滿る小ハ茯苓を加ふ  
○湯水と飲して過多胸の下痛し

小ハ桔梗枳殼牡蠣を加ふ ○寒熱  
往來し咳嗽脇滿る者小ハ五味子

乾姜を加へく人參と去る ○身熱



一々焙、如く小く湯でる、  
 人参と去て桔梗を加ふ。○牡丹  
 皮山梔子を加へく加味小柴胡湯  
 と名く諸熱肝膽小屬と名く者小  
 柴胡を用ひく解せざる者小此  
 方を用也。○夜静し、晝發熱  
 こと者、熱氣分小あり、梔子黃  
 連知母地骨皮を加ふ。○晝夜發  
 熱こと者、熱氣血の分小あり、  
 四物湯を合して黃連梔子を加ふ  
 ○痘疹出て快からん身の熱甚  
 一き者、少く生地黃を加ふ

●大柴胡湯 傷寒陽邪裏り

入表証未除ざる小裏証又急り

内實大便通どがく惡寒せん  
 一々惡熱こと者治す

柴胡四 黃芩二 芍藥二

半夏二 枳實一 大黃二

右姜枣入水煎一服す大便の利

を以て度らん。○昏亂譫語せば

黃連山梔子を加ふ。○痞滿せば枳

壳桔梗厚朴を加ふ。○夏月熱病

燥熱脉洪大なる者、知母麥門冬

石膏を加ふ。○發斑小生地黃山

梔子玄參を加ふ。○熱小くして黃

色を發する小茵陳黃柏を加ふ

○鼻衄小犀角を加ふ。○大便通

せざる小芒硝を加ふ



●小養氣湯 傷寒腹脹滿潮熱  
狂言々喘々者治す

大黃酒浸 厚朴 枳實各六分

右姜入水煎○凡そ下るべきの証

ありしと未大養氣を用ゆるべ

先小養氣を用ゆるべ利を得て

先小鞭く後小澹者ハ此裏熱い

まご甚ツクハかす慎ヒシてあること利を

取トりかきこも利を得て只一

くび結糞來て後來ノチと或る清

水下て即ち止々此内小燥糞わ

るなり大養氣を用ゆるべ

●大養氣湯 傷寒陽邪裏入

痞滿燥實堅全く備る者又少

陰經の病古乾口乾日の晡ト

發熱脈沉實なる者治す

大黃酒浸 厚朴 枳實各

芒硝半分

右枳實厚朴二味を煎ト滓

を去り大黃入再び煎ト滓

去り芒消ト入又三沸煎ト温

服す○痞滿燥實堅れ者小用ト

べ輕クくさきを用ゆるべ

●黃連解毒湯 傷寒大熱止レ

乾嘔煩渴語言ト正カら

呻吟ト安卧トる者ト得ル

る者ト治ス

黃連

黃芩

黃柏



山柘子 等各

右水煎 腹滿嘔吐逆或利

者小半夏厚朴茯苓

生姜加小三焦的實火内

外みか熱煩渴小便赤く口

小瘡を生ぜん連翹芍藥柴胡

加小狂亂一うく笑て休ざりハ

心火盛なりわく半夏竹瀝竹葉

姜汁を加小臟毒の下血ハ心

糞後ふあり連翹槐花細辛甘

艸加小八寶湯と名く

●白虎湯 傷寒傳て胃小入

惡寒セどて及て惡熱汗あ

つ渴とわ脈大少て長ゆる

者を治す

石膏 二分 知母 二分 甘草 二分

粳米 一撮

右水煎人参を加へく人参白虎

湯と名く○瘧疾表裏とより

熱し時々惡寒汗あつくと大小

渴き口乾く小々人参を加小○

盛夏暑熱小因て遺尿とくハ

人参黃柏を加小

●行氣香蘇散 内生冷厚味小

傷き外風寒濕氣小感ト惡寒

發熱腹脹疼むを治す

紫蘇 陳皮 香附子

烏藥 羌活各 川芎



麻黃 枳壳各 甘草二分

右水煎服

●八解散 脾胃虛弱、飲食進ず、或ハ食消化せぬ、或外邪を挾者と治す

人參 白朮 陳皮

半夏 厚朴 藿香

茯苓各 甘草二分

右生姜入水煎

○凡ハ傷寒外邪已去、正氣必虚、虚を過下、なると、八解散異功散六君子湯補中益氣湯八物湯十全大補湯の類、其症小随つて、これを用ひ、元氣を保養とす、

時々多くハ病の多し、この時、

○中寒門

脈緊瀋ハ陰陽とも盛なり、法

當ハ汗と多し、となり、汗われ

ハ命と傷る

●理中湯 五臟寒、口中口噤

ト、語言し、たり、が、手足強

ク、冷氣刺如小痛、又臟毒下寒、泄

利、腹脹大便、或ハ黄、或ハ白、或

黒、或ハ清穀あり、を治す

人參 白朮炒 干姜炒

甘草炒 各等分

右姜枣入水煎 ○寒氣濕氣、



く于さる者中々附子を加へく

附子理中湯と名く○霍亂吐瀉

ゆ々青皮陳皮と加へく治中湯と

名く○嘔吐の者ゆ々治中湯と

丁香半夏生姜と加へく○泄瀉

陳皮茯苓と加へて補中湯と名く

○瀉泄して止むんば補中湯小附

子を加へく○飲食と好ず米穀化

せざる中々縮砂香附子陳皮茯

苓と加へく○霍亂吐下して腹痛み

手足厥冷せば白朮を去て附子を

加へ四逆湯と名く○心膈急り

痛みて手と逆くべしゆ々あゆり

枳實茯苓と加へく○渴て水を飲

んば天竺粉と加へく○慄せ

ば茯苓と加へく冷ハ干薑と加へ

○酒を飲して多く或は灸肉熱

食して血をなまむ川芎と加へ

○痼冷れ症ゆ々附子肉桂茯苓

を加へく○胃寒して噎氣せば人參

と去て木香陳皮益智香附子厚

朴と加へく○胃の氣虚寒して悪心

く及船暈者ゆ々甘草と去て陳

皮半夏と加へく○既逆小丁香柿

蒂と加へく○寒濕黄と發ゆ々小

々茵陳と加へく  
●五積散 寒濕小中者の主方  
かり



蒼朮五合 桔梗二合 陳皮

麻黃 枳壳各 白芷

川芎 茯苓 肉桂

芍藥 當歸各 厚朴

乾姜 半夏各 前胡一分

右姜入水煎。○足浮腫五加皮

大腹皮加。○遍身痛乳

香沒藥細辛加。○己小風痺

手足濕痺烏藥順氣散

合す。○腰痛桃仁茴香加

○手足攣拳小檳榔子木瓜牛

膝加。○咳嗽杏仁桑白

皮加。○婦人經水調

催產少艾葉加。○難產小

麝香桂心加。○遍身壯熱

手足の骨節痛虛寒小因

八着活獨活穿山甲加。○醉飽

の後色慾節疝氣

小腹腰膝へ切痛小延胡

索加。○婦人經水の來と

小身痛手足麻痺。○或寒熱

て頭痛巴干姜を去て着活獨活

牛膝生姜蔥白加。○泄瀉

ら枳壳を去て肉豆蔻白木加

○赤白帶下虛寒小。○香附子

苗香吳茱萸加。○寒疝氣小

吳茱萸加。○婦人淋病小



前子木通を加ふ。死胎腹痛。熱して脈數なる者。干姜附子を加ふ。體虚して瘧と發し寒多。く汗らるる者。麻黄を加ふ。夏至より麻黄を加ふ。

●四逆湯 即病大陰の傷寒自利して渴らば脈沉細にして遲身痛。四肢逆冷なる者。治す。

乾姜 五分 附子 生二枚 五分 甘草 一寸五分  
右水煎涼して飲用也。○利止脈出るとんハ人參を加ふ。○腹痛小ハ芍薬を加ふ。○嘔吐止るとんハ姜汁を加ふ。○泄瀉止るとんハ針麻黄茎を加ふ。○咽痛しハ桔梗を加ふ。

●回陽救急湯 中寒身冷四肢冷腹痛吐瀉して脈伏して無者。此寒陰經小中氣也。此方は

- 人参 白朮 茯苓
- 陳皮 半夏 乾姜炒
- 肉桂 附子炮 五味子各等分
- 煎炒

右姜入水煎。涎沫と嘔吐。或ハ小腹痛。小ハ吳茱萸を加ふ。

○中暑門 阴霍乱 脈虚微細。弦。孔。遲。みな中暑なり。

汗下して人但熱を解し小便を利しハ肝要なり。○霍



亂ハ脈微少して澁<sup>ア</sup>或ハ代<sup>イ</sup>一  
て散<sup>エ</sup>或隱<sup>ウ</sup>伏<sup>エ</sup>或ハ大<sup>オ</sup>少<sup>カ</sup>して虚<sup>キ</sup>  
脈<sup>ク</sup>大<sup>ク</sup>者<sup>ノ</sup>生<sup>ズ</sup>微弱<sup>シ</sup>して  
漸<sup>ク</sup>遅<sup>ク</sup>者<sup>ノ</sup>死<sup>ス</sup>  
○五苓散 氣<sup>ノ</sup>小傷<sup>ル</sup>身<sup>ノ</sup>熱<sup>シ</sup>  
熱<sup>シ</sup>口<sup>ノ</sup>乾煩<sup>シ</sup>渴<sup>シ</sup>心<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>寧<sup>シ</sup>也  
かり小便<sup>赤</sup>赤<sup>ク</sup>澁<sup>リ</sup>大便<sup>瀉</sup>瀉<sup>ス</sup>  
者<sup>ノ</sup>と治<sup>ス</sup>

澤瀉<sup>一</sup>五分 白木<sup>一</sup>

赤茯苓

猪苓<sup>各</sup> 肉桂<sup>五分</sup>

右姜朮入水煎<sup>ス</sup>或ハ散<sup>ル</sup>藥<sup>ト</sup>分  
して服<sup>ス</sup>○熱<sup>甚</sup>甚<sup>シ</sup>くは肉桂<sup>ト</sup>  
去<sup>リ</sup>黄芩<sup>ヲ</sup>を加<sup>ス</sup>○喘<sup>咳</sup>煩<sup>心</sup>心<sup>ノ</sup>  
眠<sup>シ</sup>なり<sup>ク</sup>吐<sup>レ</sup>涎<sup>ヲ</sup>阿膠<sup>ヲ</sup>を加<sup>ス</sup>

○身腫汗<sup>カ</sup>れ<sup>ル</sup>中<sup>ノ</sup>着<sup>テ</sup>活<sup>シ</sup>倍<sup>加</sup>す  
○水腫腰<sup>ノ</sup>以下<sup>ノ</sup>俱<sup>ニ</sup>小腫<sup>ル</sup>木<sup>ノ</sup>  
香茵陳<sup>ヲ</sup>加<sup>ス</sup>○虚汗小便<sup>通</sup>通<sup>セ</sup>  
ざる<sup>ハ</sup>當<sup>ニ</sup>飯<sup>後</sup>枳<sup>殻</sup>牛<sup>膝</sup>木<sup>通</sup>甘<sup>艸</sup>  
燈<sup>心</sup>艸<sup>ヲ</sup>加<sup>ス</sup>○虚弱<sup>シ</sup>て小便<sup>頻</sup>  
禁<sup>ゼ</sup>ざる<sup>ハ</sup>小<sup>ノ</sup>四物湯<sup>ヲ</sup>合<sup>シ</sup>五味<sup>子</sup>  
子<sup>ノ</sup>山<sup>菜</sup>黄<sup>ヲ</sup>加<sup>ス</sup>○濕瀉<sup>ハ</sup>水<sup>ト</sup>  
瀉<sup>ス</sup>と<sup>シ</sup>多<sup>ク</sup>腹痛<sup>シ</sup>腹<sup>ノ</sup>痛<sup>ム</sup>と<sup>シ</sup>く  
と鳴<sup>ル</sup>脈<sup>細</sup>細<sup>カ</sup>る<sup>ハ</sup>小<sup>ノ</sup>山<sup>藥</sup>陳<sup>皮</sup>蒼<sup>朮</sup>  
核<sup>肉</sup>豆<sup>蔻</sup>訶<sup>子</sup>縮<sup>砂</sup>甘<sup>艸</sup>生<sup>姜</sup>烏<sup>頭</sup>  
梅<sup>燈</sup>心<sup>艸</sup>加<sup>ス</sup>○頭<sup>目</sup>痛<sup>ム</sup>ハ  
川<sup>芎</sup>藎<sup>白</sup>加<sup>ス</sup>○咳<sup>嗽</sup>小<sup>ノ</sup>五<sup>味</sup>子<sup>ヲ</sup>  
加<sup>ス</sup>○熱瀉<sup>ハ</sup>小<sup>ノ</sup>柴<sup>胡</sup>湯<sup>ヲ</sup>合<sup>ス</sup>



一七黄連を加ふ。小便通せざる  
 少々藜麥滑石を加ふ。大便通  
 せざれば黄芩を加ふ。小便血山  
 梔子を加ふ。身痛し小の蒼朮を  
 加ふ。疝氣し小の茴香川棟子楸  
 榔子桂枝生姜を加ふ。女子此  
 紅汗し小の桃仁牡丹皮を加ふ。

●十味香薷飲 暑氣小中  
 身體倦神昏く頭をこく吐川  
 瀉し小の瓜を治す  
 香薷一合 人參 陳皮  
 白朮 茯苓 黃芪  
 木瓜 厚朴 白扁豆各  
 甘草少 右水煎す。○麻虛弱

加ふ。心煩ハ黄連山梔子を加ふ  
 ○胸脹し小の枳壳桔梗を加ふ。痰  
 と扱し小の南星半夏を加ふ。嘔  
 吐し小の藿香姜汁を加ふ。渴し小  
 葛根天花粉を加ふ。搐搦し小  
 卷活を加ふ

●清暑益氣湯 長夏濕熱大  
 勝人あまこ小感して手足困倦心  
 氣短く動作小懶く身熱し氣  
 高り心煩し小の蒼朮を治す

人參 白朮 陳皮  
 神麩 澤瀉各五分 黃芪  
 蒼朮 升麻各



麥門冬 當歸 黃柏各

五味子 九 青皮 乾姜各

甘草一分 石水煎 汗多くと

黃芪を倍す 飽悶せば縮砂白

豆蔻を加ふ 惡心ハ烏梅蓮肉

粳米を加ふ 乾嘔ハ竹茹を加

煩燥ハ辰砂酸棗仁竹茹と

加ふ 小便赤く少きハ木通山

梔子を加ふ 飲食を思ふハ

厚朴白豆蔻益智縮砂蓮肉を加ふ

腰痛ハ杜仲茴香破故紙を加ふ

腿酸力乏ハ牛膝杜仲を加ふ

頭目眩暈ハ川芎を加ふ

虚汗ハ酸棗仁を加ふ 夢遺ハ

山藥牡蠣辰砂を加ふ 口苦ハ

舌乾ハ山梔子烏梅葛根を加ふ

生脉散 暑氣小中ア暴

目まへ付き息絶んことと治す

人參 麥門冬 五味子 炒各

右水煎服す 查再び煎トて一日

の茶ふくんで飲べ 夏月暑氣

甚き時分ハ老人虚人ハ養生

薬ふられと服まへ 精神を固く

暑氣傷まらぬ 脚弱者

小ハ黄柏を加ふ

藿香正氣散 方ハ傷寒 暑熱甚

き時納涼て 其外を傷て 生冷

の物を食して 其内を傷て 頭



痛身痛之發熱惡寒惡心嘔吐泄瀉腹痛等の証を治す

○中濕門

脈浮して緩なるは濕表ありあり

沉して緩なるは濕裏ありあり

●羌活勝濕湯 濕不傷き一身

あしくく痛むとのと治す

羌活 獨活 藁本

防風 川芎 蔓荊子

甘草 炒一分

右生姜入水煎す○身重く腰

痛者み酒洗上防已を加ふ○

身重く腰をくみき小柴胡湯

木を加ふ

●獨活寄生湯 濕地ふ脚腰背ひ

きけり筋骨を痛む物行か

かゝ或ハ歴節風痛を治す

獨活 桑寄生 斷續

牛膝 杜仲 蒸朮

細辛 桂心 川芎

白芍 茯苓 人參

當歸 熟地黄 防風等各

甘草 右生姜入水煎す○是

腰痛の主方なり凡そ虚小因て中

濕脚氣痛風腰痛等の証用ひて

効あり

●不換金正氣散方ハ傷寒内外濕

小ぬきり惡寒發熱吐瀉腹痛



身體だれく重き瓜治す

○火症門附發熱

●脉浮すく洪數を虚火らん○

沉みく實火らん○實火や身

●涼膈散 大熱少く面赤く火

上焦不鬱す瓜を治す

黄芩酒不浸 山梔子炒 薄荷各

連翹各 大黃酒不浸 芒硝各

甘州五分 右水煎服す或ハ散

藥をかくて用て之可

●升陽散火湯 冷く物なきと

多く食陽氣伸す一身あま

く熱肌燎如く瓜を治す

升麻 葛根 獨活

人参 白芍藥各 柴胡各

防風三分 甘州生 炙甘草三分

右生姜入水煎服す

●清上防風湯 上焦の火と清

一頭面小瘡を生ト風熱を腫

痛を治す

防風 荊芥 薄荷

山梔子 黄連酒不浸 枳壳各

黄芩炒 川芎各 連翹各

白芷 桔梗各 甘州

右水煎食後小服す○風熱濕熱

みく齒痛眼腫 瓜生 茶加

瓜風眼赤眼 瓜小 菊花加

酒鼻紅 瓜腫 瓜小 荊芥薄



荷桔梗と去て并麻葛花人參  
紅花と加ふ

●加味逍遙散 肝經小血少

く脾胃はゆるきて肝火うごき熱  
の往來あるを治す

當飯 芍藥 白朮

茯苓 牡丹皮 山梔子各

甘草二分

右姜末入水煎

●黃連解毒湯 三焦の實火内

外なる熱を去る者と冷方八傷寒

○内傷門 附補益

●補中益氣湯 形神の衰或

ハ飲食小やうき倦くく身熱

ハ脈洪大なりて虚頭痛或

ハ惡寒して渴き自汗出たりか

きを治す

黃芪 蜜炙一分 人參 一匁

白朮 當飯 陳皮 各七分

柴胡 升麻 五分 甘草 二分

右姜末入水煎 〇冬はく嗽止

肺小火ある人參を去る 〇虚

証の瘡小用ひて効あり 〇身刺

痛し 〇當飯を倍す 〇頭痛

ハ蔓荊子川芎と加ふ 〇頂のこみ

腦痛 〇藁本細辛と加ふ 〇咳嗽

ハ五味子麥門冬と加ふ 〇秋冬は

麻黃款冬花と加ふ 〇膝腹痛



小八熟地黄加止するは是寒  
 力り肉桂を加のの嗝痛の領腫  
 面赤の黄芩結便加甘草  
 倍す陰虛火動小知母黄柏  
と加元氣弱腰痛知  
 母黄柏牛膝芍藥加夢遺  
 小八牡蛎龍骨加怔忡驚  
 やこ扶神遠志酸棗仁石  
 藜蒲栝子仁加  
 ●升陽補氣湯 飲食節す  
 飢飽勞役胃の氣足す氣く  
 くしてかく寒熱ふたく手足  
 小熱あ等の証と治す

厚朴三分升麻七分  
 白芍藥 獨活 防風  
 澤瀉五分 柴胡二分 生地黃七分  
 散艸二分 右姜東入水煎腹く硬あり  
 厚朴を加

●七味白朮散 中氣損津液  
 足す肌熱身く舌乾或  
 吐瀉後渴す者を治す  
 人參 白朮 茯苓  
 葛根各 木香 藿香各  
 散艸各  
 右水煎大人小兒と用ひて



● 參苓白朮散 脾胃虛弱、  
飲食進まず或ハ嘔吐瀉利す  
と治す

人参 白朮 茯苓

山藥 白扁豆 各一匁

桔梗 薏苡仁 蓮肉

縮砂 甘草 各一匁

右水煎 ○ 大病の後養生藥  
用ひく尤も

○ 食傷門 附痞滿

脈氣口の脈緊盛れ傷食とん

● 平胃散 脾胃化せん飲食す

まぐ或ハ食滯の者を治す

蒼朮 厚朴 陳皮 各一匁

散劑 三分 右藥煎入水煎 ○

濕小中て腹くぐらぬ茯苓香

白朮と加ハ調胃散と名く一方

ハ藿香半夏夏に加ハ瘧疾ハ柴胡

と加ハ婦人の帶下ハ黄芩と

加ハ冷物と食して傷みふり

良姜と加ハ滑小瀉と因豆蔻

を加ハ白朮ハ吳茱萸と加ハ

赤痢ハ黄連を加ハ胃冷て嘔

吐とハ茯苓丁香干姜と加ハ

○ 雨氣ハ濕少と時ハ猪苓澤瀉

と加ハ

● 香砂平胃散 宿食消せん飲

食ハ自ら倍とと治す是脾胃の



傷

香附子 蒼木 陳皮各

枳壳 藿香各 縮砂七分

木香五分 甘艸二分

右姜入水煎 肉食化せざらんハ山

查子草果を加ハ 麩食化せずん

ハ神麩麥芽を加ハ 生冷瓜果

化せざらんハ干姜青皮を加ハ

酒ハ傷 黄連葛根烏

梅を加ハ 食鬱少 饋雜セハ枳

壳藿香と去テ 黄連山梔子川芎

芍藥を加ハ 食積ハ 腹痛ハ

小青皮板榔子を加ハ

葛花解醒湯 大ク酒ヲ飲ム

吐 心煩乱 胸塞 手足冷

不食 小便通 吐瀉腹痛

葛花 砂仁 白豆蔻各

木香 青皮 陳皮

茯苓 猪苓 人參各

白朮 神麩 澤瀉各

右姜入水煎

●不換金正氣散 方ハ傷寒 生冷

濕麩等小傷 吐瀉腹痛

神麩山查子を加ハ 用也

●藿香正氣散 同前 食傷寒熱頭

痛腹痛 治す

●香砂六君子湯 方ハ諸虛 脾胃

食小中 用也



六君子湯（香附子宿破藿香）  
加へり（このなり）

○泄瀉門

脈風（傷）ふ（れ）浮寒（ふ）傷（ふ）六  
沉細暑（傷）ふ（れ）六沉微濕（ふ）傷（ふ）  
れ（れ）八（八）沉（沉）緩（緩）

●胃苓湯 濕ふ（れ）り泄瀉す  
ふ（れ）もの又ハ傷食（く）り泄瀉（す）  
の（と）治す

蒼朮 厚朴 陳皮  
猪苓 澤瀉 白朮各  
白朮 茯苓 肉桂 三分  
甘草 右姜朮入水煎す  
水瀉（れ）り滑石（と）加ふ（）痢病赤白

相き（ら）りり腹痛裏急後重（小）肉桂（と）去（り）木香（換）榔黃連（を）加ふ  
○久（く）瀉（す）ふ（れ）ハ升麻（を）加ふ

●理中湯 寒瀉の症腹痛（止）  
こ（の）か（く）色青（く）脈沉遲（を）治す  
人參 白朮 乾姜（炒）各

肉桂（六）分 陳皮 藿香  
茯苓 良姜（各） 烏梅（二）分  
甘草（一）分 右姜朮入水煎（）寒

極（つ）手足冷脈沉細（を）ハ附子  
と加へ（て）良姜肉桂（を）去（す）○腹痛  
ふ（り）砂仁厚朴木香（を）加へ（て）人參

を去（す）○嘔噦惡心（ふ）丁香半夏  
と加へ（て）良姜肉桂（を）去（す）○瀉止



じん 蒼朮 山藥 加ふ

● 參 苓 白 朮 散 内傷 氣虚の

泄瀉 并 小産 後 此 泄瀉 を 治す ○

嘔 噦 惡 心 心 半 夏 烏 梅 を 加ふ

○ 小 便 ち ぢ ぢ 木 通 車 前 子

を 加ふ ○ 瀉 甚 し く 止 ぎ ん ば

訶 子 肉 豆 蔻 を 加ふ ○ 久 瀉 小 升

麻 芍 藥 を 加ふ

● 胃 風 湯 風 冷 虚 小 乘 脾 胃

を 治す 泄瀉 腹 痛 濕 毒 下 ず 赤 白

黒 豆 汁 入 如 く 或 痰 血 膿 血 を

下 ず を 治す

常 飯 川 芎 白 芍 藥 炒

肉 桂 各 右 粟 米 一 撮 入 水 煎

す ○ 腹 痛 小 木 香 を 加ふ ○ 腹

痛 瀉 一 煤 血 の 如 く 赤 白 下

白 朮 を 減 し 木 香 檳 榔 を 加ふ

○ 老 人 曉 瀉 小 木 香 砂 仁 を 加

ふ ○ 小 兒 豆 汁 の 如 く 瀉 腹

痛 身 熱 小 木 香 肉 桂 を 去 り 柴

胡 黃 芩 を 加ふ

● 除 濕 健 脾 湯 久 瀉 色 蒼 小

齒 根 寸 寸 倦 怠 一 寸 食 減 寸 寸

者 を 治す

蒼 朮 茯苓 芍 藥 炒 當 歸 陳 皮 各 白 朮 二 分 防 風 厚 朴 各 柴 胡



升麻五分 猪苓 澤瀉各七分

甘州四分 石姜各五分 入水煎

○久瀉つ々 天南星を 加し の 泄瀉

瀉久 時元氣 必ず 虚す 補中益氣湯

中益氣湯を用ひて 補之

痢病門泄瀉の方 交へ

脈多 滑なり 沉細の者 吉な

了洪弦 者ハ凶

●行和赤痢 湯赤痢 白痢さい

く圓 行いき けみ くら残 ころう

やく 度數 多き 等の 症を 治す

白芍藥 當歸 黃連

黃芩各五分 大黃七分 枳實各五分

木香 桂心各五分 甘草三分

右水煎一方 小大黃枳心 去て

枳壳 を加 小後 重甚 一き 小ハ

大黃倍 芒硝を 加し

●調和飲 痢病久 愈さ 小

用也

芍藥三分 當歸五分 川芎

黃連 黃芩 桃仁各五分

升麻五分 右水煎赤痢

本方より 白痢なり 吳茱萸を 加し

小赤白 下す 小白木 茯苓

陳皮香 附子を 加し

●真人養臟湯 痢病久 愈

赤白の下 下す 小も 虚寒を 治す

脱肛の出 治す



芍藥六分 當歸二分 人參二分

白朮二分 肉豆蔻二分 木香各二分

罌粟殼蜜炙二分 訶子二分

甘草二分 右姜水入水煎〇臟

寒の者ハ附子を加ふ

倉廩散 痢病熱さり一家或

ハ一里ミル其氣亦流テ病ト疫痢

ト云ハ此方レト治ス

〇人參數毒散小黃連陳倉米を

加テ方カク 〇痢後手足痛じ

ムハ檳榔木瓦ト加ム 〇噤口痢ト

テ食物を咽テ喰ム 〇蓮肉

ト加ム

補中益氣湯 痢病久ト 愈

ト或ハ痢病の後ト 元氣ト

ト弱ト 小用也

〇瘡疾門

脈弦數ハ多クハ熱弦遲ハ多ク

ト寒ト 〇

九味清脾湯 寒多ク熱少

ト口苦ト 咽乾ト 大便秘ト 小便

赤ト 澁ト 脈弦數ト 〇ト治ス

靛皮 厚朴 白朮

黃芩 半夏 柴胡

茯苓 草薢各二分 甘艸二分

右姜水煎 〇瘡久ト 常山

ト加ム 體弱ト 人參ト 〇汗ト

〇汗ト 〇麻黃ト 〇汗ト



肉桂を加し、咽乾、小半夏と去  
て、人參、天花粉、麥門冬を加し

●七味清脾湯 寒冷なるものを多し、食、脾小滞、鬱、七瘧、と發、を脾瘧、食瘧、と云、此方

厚朴 青皮 半夏

烏梅 良姜各 草果五

甘草 右姜朮入水煎

●人參養胃湯 脾胃虚、弱

人の瘧ふ、此方、一

半夏 厚朴 陳皮各

藿香 草果 茯苓

人參各 蒼朮五 烏梅三

甘州 右姜朮入水煎

回春の方、當飯川、熱多ハ柴胡を加し、寒多ハ肉桂

を加し、汗多クハ蒼朮、藿香

と去て、黄芩、白朮を加し、嘔噦

せば、草果、厚朴、蒼朮と去て、縮

砂、白朮、山藥、炒米を加し、内熱

盛、六半夏と去て、黄芩を加し

○暑氣盛、時ハ半夏、藿香

と去て、香薷、白菹豆を加し、脈

が、あつ、熱多、黄芩、黄

連、柴胡、加し

○諸氣門 附、諸症

脈、代、氣衰、細、氣少、浮、



一、絶る心ハ氣絶んとし、〇氣鬱ハ沉りて瀰濕鬱を沉りて緩熱鬱ハ沉敷痰鬱を弦滑血鬱を乳りて結促食鬱ハ滑

分心氣飲 男女諸氣和せし鬱

結留滯し病を治す

木通 肉桂 半夏

茯苓 桑白皮 青皮

陳皮 紫蘇 大腹皮各

卷活石 赤芍藥 甘草三分

右姜連燈心を入水煎 〇枳壳枳

椰子香附子と加て氣鬱の百病を治す 〇面目浮腫せば猪苓

澤瀉車前子木朮麥門冬を加ふ

〇性急者ハ柴胡を加ふ 〇多怒

者ハ黄芩と加ふ 〇食進まざる

ハ砂仁神麴を加ふ 〇翻胃小沈

香を加ふ 〇氣滯腰疼ハ木瓜

枳壳と加ふ 〇咳嗽者ハ桔梗半

夏を加ふ

〇正氣天香湯 婦人一切の諸

氣痛を治す 或ハ寒熱往來眩暈

嘔吐等の証を治す

烏藥 香附子 陳皮

紫蘇 乾姜 六分

右姜入水煎

〇六鬱湯 六鬱を解し火を清



痰之化一氣之順一胸膈之開

香附子二 半夏一 蒼朮

川芎各五分 陳皮一 山梔子

赤茯苓各五分 砂仁五分 甘州炙

右姜入水煎

●沉香降氣湯 陰陽壅滯一

て氣升降せし胸膈痞塞心腹脹

痛と治す

香附子二 沉香一 砂仁三

甘州五分 右水煎

○痰飲門

火痰ハ色黒く老痰ハ膠の如く

濕痰ハ色白く寒痰ハ清し

●二陳湯 凡諸病痰飲ある者

治す

陳皮一 半夏二 白茯苓一

甘州五分 右姜入水煎○痰

頭小在て痛とらんハ川芎薑本

升麻柴胡蔓荊子細辛薄荷の

類と加ふ○痰腰膝の下小在て腫

痛ふハ黃柏防己木通木瓜牛膝

と加ふ○痰胸腹の中小あつて痛と

取或ハ痞滿ハ白朮枳壳桔梗

砂仁神麩麥芽を加ふ○痰胸の

下小あつて痛とハ聲あふハ紫

胡青皮川芎山梔子白芥子の類

を加ふ○酒と大く飲嘔噦痰と吐

しハ砂仁烏梅を加ふ○痰不血



あつ子は黄芩芍薬を加ふ○食積  
の痰を山査子神麩香附子枳  
實黄連を加ふ

●瓜蒌枳實湯 痰結を吐き  
も出一胸膈痛を或ハ蒲悶  
氣急等の証を治す

瓜蒌仁 剝を去り 枳實 炒

桔梗 茯苓 貝母

黄芩 陳皮 山梔子 各

當飯 各 縮砂 木香 各

甘草 三分 右姜入水煎○片

心小迷て語さふハ木香を去て

石菖蒲を加ふ○息たこしく喘

くわり桑白皮此紫蘇子を加ふ○發

熱ハ柴胡を加ふ○痰結を胸

痛ミ久しく治せられハ胸癭を

桔梗黄芩と去て白芥子青皮茴

香を加ふ

○咳嗽門

脈 緊ハ肺寒○弦ハ寒○浮ハ

て緊ハ虚寒○細ハ濕○數ハ熱

○沉數ハ實熱

●清肺湯 痰盛りて咳嗽止

さふ者治す

陳皮 茯苓 桔梗

貝母 桑白皮 黄芩 酒炒

杏仁 炒 天門冬 山梔子



當歸各五分 五味子生 甘州二分

右姜朮入水煎。痰咯と出せ。

瓜蒌實竹瀝と加へ五味

子と去る。咳嗽喘急ふ紫蘇子

竹瀝と加へ桔梗を去る。久嗽

喉痛聲清か。心中薄荷

生苳紫菀竹瀝加へ貝母杏

仁五味子去る。

●杏蘇散 上氣痰喘咳嗽面目

浮腫す者と治す。

紫蘇七分 五味子大腹皮

烏梅杏仁各五分 陳皮桑白皮炒

桔梗麻黃 桑白皮炒

何膠各二分 紫菀三分 甘州二分

右姜朮入水煎。

●寶鑑瀉白散 咳嗽して口乾

煩熱して胸膈利せん喘す治す

桑白皮二分 地骨皮知母

陳皮桔梗各 細辛

青皮黃芩酒 甘州各

右姜朮入水煎。

●參蘇飲方ハ傷寒風引咳嗽

す。小四等こも用ゆ人參と去る

杏仁桑白皮加へ一〇肺寒ト

て咳嗽す。小ハ五味子乾姜加へ

○發熱ふ黃芩と加へ

譜雜門

●消食清鬱湯 譜雜悶亂惡心



發熱頭痛等を治す

陳皮 半夏 茯苓

神麴 山查子 香附子

川芎 蒼朮 麥芽

枳壳 山梔子 黃連

藿香等分 甘草中

右藥入水煎

●化痰清火湯 體雜痰ありて

火動小因者を治す

煎 半匙 陳皮

黃連 黃芩 山梔子

知母 蒼朮 白朮

芍藥等分 甘草少

右藥入水煎

●二陳湯 方ハ痰飲 痰火少之錯

すゑを治す (一) 嘔吐門 胸翻胃吞酸呃逆

●順氣和中湯 嘔吐吞酸體雜

壅膈翻胃等の症を治す

陳皮 香附子 炒酢 山梔子 各

茯苓 白朮 各 黃連 薑炒

枳實 神麴 各 縮砂 炙

煎 右水煎或ハ竹瀝 薑

汁に加ふ ○氣虛小ハ人參 黃芪を

加ふ ○血虛小ハ當歸 川芎を加ふ

●清鬱豁痰湯 噎氣吞酸 乃

ち胃中熱あり 膈上小痰ありて 清

水と嘔吐の症を治す



陳皮 半夏 茯苓

黃連 蒼朮 川芎

香附子 縮砂 神麩

山查子 木香各等分 甘艸少

右姜入水煎。嘔吐止むんを藿

香加ふ

●丁香柿蒂湯 胃口冷手足

力冷て呃逆すと治す

丁香 柿蒂 良姜

桂心 半夏 陳皮

木香 沉香 茴香

藿香 厚朴 砂仁各等分

乳香末にたして後入る 甘艸少

右姜入水煎す

○諸虛門 附虛勞

●四君子湯 諸病氣虛の者

と治す

人參 白朮 白茯苓各

甘艸炙五分 右姜末入水煎○

吐瀉小藿香白豆蔻加ふ○嘔

吐小藿香砂仁加ふ○泄瀉小

八木香肉豆蔻○咳嗽桑白皮五味

子杏仁加ふ○心熱の瓜小香門

冬茯苓神蓮肉加ふ○孕婦淋病

をなんふ當飯芍藥加ふ

●六君子湯 氣虛く痰の者

脾胃衰へ濕の者と治す

人參 白朮 茯苓



陳皮 半夏各 甘草炙

右姜枣入水煎

●四物湯 諸病血虛の者治す

當歸 熟地黄各 川芎

芍藥 右水煎 ○經水

雷滯 桃仁 紅花 玄胡索 肉桂

加 ○經水期小先ハ血虛熱あ

る於 黃芩 香附子 黃連 阿膠

知母 黃柏を加 ○經水期過

て來らん痛となくハ桃仁 紅花

香附子 肉桂 蘇木 不通を加 ○

經水來んこして痛を多くハ桃

仁 紅花 黃連 香附子 延胡索 牡丹

皮 蘇木 青皮を加 ○金瘡血出

多し 參 黃芪を加

●八物湯 氣血と虚す者

者を治す

當歸 川芎 白芍

熟地黄 人參 白朮

茯苓 各 前州少

右姜枣入水煎

●十全大補湯 氣血虚と寒

と者元氣衰と者治す

人參 白朮 熟地黄各

黃芪 茯苓 芍藥炒

川芎 各 當歸 五分 甘草 三分

右水煎 ○發熱ふと柴胡を加

○虚勞の發熱ハ柴胡 地骨皮



藜蘆（加ふ）○手足麻木（或ハ痛

小ハ黄芩（去テ）陳皮半夏藜蘆

牛膝羌活附子（加ふ）○遺精小山

茱萸山藥五味子麥門冬（加ふ）

●蒸陰降火湯 陰虛（火動キ

咳嗽口乾盜汗（の証）治す

當歸二分 白芍酒炒二分 生地黃八

熟地黃姜汁炒 天門冬（去

麥門冬（去 白朮（各 陳皮七分

黃柏蜜炒 知母（各 甘州（各

石薺（入水煎）○骨蒸勞熱小地

骨皮柴胡（加ふ）○咳嗽痰の中

小血（大事）此症（カ）黃芩牡丹

皮阿膠山梔子紫苑犀角竹瀝（各

加ふ○血虛（腰痛）牛膝杜

仲（加ふ）○夢遺泄精（ハ）山藥

牡蠣杜仲破故紙牛膝（加へて）天

門（去）○陰虛火動足常小

熱（ハ）山梔子牛膝（加へて）

麥門冬（去）

●獨參湯 陰虛（陽暴）小絶（一

眩（ハ）治す

人參（二） 水（一合）半合（ハ）

煎（下）温服す○真陽不足（一）手

足厥冷暴絶（ハ）附子（五分）

加へて參附湯（名）

●諸血症門

犀角地黄湯 凡血熱（ハ）者



死に吐血衄血咳血咯血等を治す

犀角一匁 牡丹皮一匁 赤芍各一匁

生芍二匁 右水煎熟して茅根

汁を入服 吐血を天門冬黄芩

山梔子阿膠各加小 衄血小 黄芩

山梔子阿膠各加小 咯血小 黄芩

山梔子麥門冬黄柏知母當歸各加小

小 唾血小 山梔子麥門冬黄柏

知母當歸各加小 熟地黄加小

●加減四物湯 吐血衄血咯血

小便血大便血等並小治す

生芍 當歸 白芍藥

山梔子 貝母 知母

黄柏 牡丹皮 陳皮

白朮 玄參 麥門冬各分

甘草少 右水煎 身熱小

地骨皮黄芩各加小 嘔吐小 知

母各加小 衄血咳血茅根黄芩

を各加小 吐血衄血止むんば炒黒

芍薬乾姜柏葉茜根大薊小薊

と各加小 大便血止む小 槐花

地榆各加小 小便血止む小 小

山梔子を停一車前子小薊黄

連各加小

●積聚門

大七氣湯 積聚胸ふこ一匁

心腹痛 小腹痛を治す

三稜 莪朮 青皮



陳皮 藿香 桔梗

肉桂 益智 香附子各等分

甘州少炒 右姜入水煎 心

脾痛少々烏藥枳壳各加少冷

て腹痛は半夏乾姜を加少

○三和散 諸積聚行久痛を

かんと治す 方ハ疝氣

○水腫門

●分消湯又實脾飲 中滿脹と

或脾胃虚して腫とかすを治す

蒼朮 白朮 茯苓

陳皮 厚朴 枳實各

香附子 猪苓 澤瀉

大腹皮各 縮砂七分 木香三分

右姜燈心入水煎 腫脹少々羅

葡子と加少 ○脇痛小 白朮と去

て青皮を加少 ○泄瀉少 枳壳と

去て 芍藥と加少

○黃疸門

●清熱除濕湯 濕熱脾を鬱

蒸して 五疸と かんを治す

黃連 黃芩 山梔子

茵陳 猪苓 澤瀉

蒼朮 青皮 龍膽各等分

右水煎穀疸少々 三稜莪朮 陳

皮縮砂 神麴と加少 大便實口

大黃を加少 ○酒と飲人少 括婁

仁葛根と加少 ○虛弱かる人 少々



人參ひとじんを加ふ

○疝氣門

●三和散 疝氣脚氣上<sub>り</sub>攻腹

瀟大便通しょうだいべんとくわんを治す

大腹皮たいふくひ 薑活きやうかつ 紫蘇しそ

木瓜こけり 沉香せんこう 枳櫛しし

木香もくかう 陳皮ちんひ 川芎せんきやう

白朮びやくじやく 各各 甘州炙かんしゆう二分

右水煎 ○大便秘結だいべんひきやく七七枳壳しやくを加ふ

○食傷しょくきやうの者もの六山ろくさん查神せん麩ふを加ふ

●五積散 疝氣寒氣ぜんきさむかき小因せういんて

發はつと治す中寒

○汗症門

當飯たうはん六黃湯ろくわうたう 陰虛いんきよして盜汗たうあせ

とくわんを治す

當飯たうはん 生芎せいこう 熟芎じやくこう

黃芩わうじん 黃連わうれん 黃栢わうはく 等各各

黃芪わうぎ 用用 右水煎

●參芪湯 自汗じゆあせの症しやうを治す

人參じんじん 黃芪わうぎ 白朮びやくじやく

茯苓ふくろう 當飯たうはん 熟芎じやくこう 各各

甘州かんしゆう 芍藥しやくやく 酒酒 牡蛎ぼつれい

酸棗さんそう 仁にん 各各 陳皮ちんひ 七分 烏梅うまい 二分

浮小麥うきせうばく 三分 右水入水煎

○眩暈門

●清暈化痰湯 眩暈せんうんの圭方けいほうあり

陳皮ちんひ 半夏はんげ 茯苓ふくろう 各各 五分

川芎せんきやう 黃芩わうじん 酒酒 炒炒 白芷びやくち



着法七分 南星 防風

細辛各 枳實一各 甘草二分

右姜入水煎 氣虛六 人參 白朮

加一 熟一 黃連一 加一 血

虛一 川芎一 倍一 當歸一 加一

●歸脾湯 思慮一 脾一 傷一

或一 下一 血一 心一 虛一 怔一 忡一

驚悸一 物忘一 治一

人參 黃芪 白朮

茯神 龍眼肉 酸棗仁各

遠志一 木香 當歸各

甘草三分 右姜入水煎

●溫膽湯 心膽弱一 怔忡一 驚

やま一 治一

半夏 竹茹 枳實各

陳皮一 甘草五分

右姜入水煎

○消渴門

●黃連地黃湯 三消渴一 治一

黃連 生苈 天門冬

天花粉 五味子 當歸各

人參 葛根 茯苓各

甘草少 右姜入水煎

○大小便閉門

●潤燥湯 大便閉結一 通一

芍藥一 治一



桃仁 紅花 升麻  
大黃 麻仁 當歸各  
生薑 熟艾各 甘草二分

右水煎 腹痛小 木香加 〇  
血虛く 大便通せ 〇も 小は 當歸

地黃 桃仁 紅花 倍す 〇 氣虛く  
通せ 〇も 人參 郁李仁 在

木香加 〇 產婦ふ 桃仁を 去  
人參加 〇 當歸 地黃を 倍す

●八正散 小便通せ 〇も 小腹く  
痛く 治す 〇も 淋病を

五淋散 諸の淋病を 治す  
淋病を 治す 〇も 淋病を

主方なり

赤茯苓 赤芍藥 山梔子

當歸 黃芩 生薑

車前子 澤瀉 木通

滑石各 甘草少

右燈心と 水煎 〇 石淋の 石菖を

加し 〇 老人の 氣虛く 淋病を 治す

●八正散 小便赤く 溢閉して 通

せ 〇 及び 熱淋の 血淋の 或は 酒後の

事を 行ひ 〇 病者を 治す

車前子 蘆麥 篇蓄

滑石 木通 山梔子

大黃各 甘草少



右燈心丸を水煎す

○遺精門附遺瀉

●清心湯 遺精夢遺と治す

黃連 生苳 當歸

人參 茯苓 酸棗仁炒

蓮肉 遠志等各 甘州少

右水煎

●參茸湯 氣虛と遺瀉と治す

と治す

人參 黃耆 茯苓

當歸 熟苳 白朮

陳皮 升麻 肉桂各五分

益智各 甘草二分

右姜朮を水煎

○頭痛門

●半夏白朮天麻湯 痰厥の頭痛眩暈者と治す

黃柏酒炒五分 乾姜 澤瀉

茯苓 天麻 黃芪

人參 蒼朮各三分 神麴

白朮各五分 麥芽 半夏

陳皮各七分 右姜入水煎

●川芎茶調散 諸風頭目痛眼

痛鼻塞聲重を治す

薄荷四錢 荊芥 川芎各二分

羌活 白芷各五分 細辛二分

防風三分 甘草三分

右好葉茶を少入水煎



●當歸補血湯 頭痛左の方を  
治す 痛し治是風と血虚となり

當歸 香附子 芍藥

生地黄 黃芩 川芎

防風 蔓荊子 柴胡

荊芥 藁本 右水煎

●黃芪益氣湯 頭痛右の方を

治す 痛し治是痰と氣虚となり

黃芪 人參 白朮

陳皮 半夏 當歸

川芎 藁本 升麻

黃柏 細辛 甘草

右姜枣入水煎 心痛門附腹痛

●清熱解毒湯 心痛多くハ氣鬱

小因て熱を治す 痛を治す

山梔子 枳壳

川芎 黃連 香附子

陳皮 乾姜 黑炒各五分

蒼朮 甘草 三分

右姜入水煎

●開鬱導氣湯 一切の腹痛を

治す 承總司かり

蒼朮 香附子 薑便水浸

川芎 白芷 茯苓

山梔子 神麴 滑石

陳皮 乾姜 黑炒各五分

甘草 右水煎



○脇痛門附腰痛臂痛

●疎肝湯 左の脇に下痛肝積

なり或ハ怒リ或ハ轉物ハ輕下きて

痛を治す

柴胡 當歸各五分 桃仁

枳壳 青皮各 川芎

白芍各 紅花五分 黃連黄連の

煎汁煎汁 右水煎

●通氣防風湯 肩背痛て首

の動動を治す

羌活 獨活各 藁本

防風各五分 蔓荊子 甘州一分

右水煎す 補陰湯 常小腰痛者を治す

●起腎虛なり

人參五分 芍藥酒炒 生苧

熟苧 陳皮 茴香塩酒

破胡紙酒炒 牛膝酒炒 當歸

茯苓 杜仲酒炒 知母酒炒

黃柏酒炒 甘州三分

右末入水煎 痛甚きふ乳

香砂仁沉香と加へて芍藥生苧

陳皮と去る

●烏藥順氣散 方ハ中風邪小

因て臂痛しを治す

●五積散 方ハ中寒邪小因て

臂痛を治す

○痛風門 附麻木痺痛痿痺



● 羌活湯 遍身骨節之痛

と治す

羌活

蒼朮

黃芩酒

茯苓

芍藥

半夏

香附子 各一分

木香

陳皮 各一分 甘草 三分

右姜入水煎 ○ 風邪小因て痛小

ハ防風を加ふ ○ 濕小あたら痛小ハ

蒼朮を加ふ ○ 血虛痛小々生芩

を加ふ ○ 痛甚き小ハ乳香を加ふ

○ 手臂痛小々桂枝を加ふ

● 疎經活血湯 遍身走てわと

る痛刺が如く左の足痛尤も甚

く是血小屬す多ハ酒を飲淫欲

わハハ小々ハ因て得所かり

生芩

蒼朮

牛膝

陳皮

威靈仙酒

桃仁 各一分

川芎

防己酒

羌活

防風

龍膽

白芷 各一分

茯苓

當歸 二分

芍藥酒 一分

甘草 三分

右姜入水煎す

氣虚小々人參龜板を加ふ ○ 血

虚小々四物湯倍す

● 開鬱舒經湯 婦人手足麻痺

々々情ハ鬱滯なり此方宜

紫蘇

陳皮

香附子

烏藥

川芎

羌活

南星

半夏

當歸 各一分



桂枝四分 甘草二分

右姜入水煎或竹瀝姜汁少

一を加

○脚氣門

●當飯拈痛湯 濕熱脚氣手

足の節骨ふくく痛肩背かこ

く遍身疼脛赤腫或ハ瘡をな

者治

羌活

當飯

猪苓

知母酒

白朮

澤瀉各

人參

苦參

升麻

葛根

防風

蒼朮各

茵陳洗酒

黃芩酒炒

甘草炙

右水煎

●羌活導滯湯 脚氣初發

一身ふくく痛手足腫痛小先

此方を用い後小當飯拈痛湯と

用也

羌活

獨活各

防己一分

枳實一

大黃酒炒

右水煎温服す

袖珍醫便卷之二終



袖珍醫便卷之三目錄

眼目門

初

口齒門

七

咽喉門

九

喉痺門

十

耳病門

同上

中毒附骨硬

十一

癩癧門

十二

○外科

癰疽門

十三

疔瘡門

十四

癬疥門

十五

癩癧門

十六

痔漏門

十六

脫肛門

十七

損傷門

十七

十八

袖珍醫便卷之三目錄



袖珍醫便卷之三

○眼目門

眼ハ五臟六腑の精華なり血と  
 得てよく視し明らる然る小心  
 此臟ハ血と主とる肝の臟其血を  
 うけて諸經へめぐらし賦る故小  
 眼と肝小屬すと云り血の眼を養  
 ふ小大は過しあはる又ハ足ぬとあ  
 る時ハ必ず眼病と成るなり凡そ  
 血不足の時風邪ノ侵ま病こと  
 多し虚眼ハ水耗て眼の養不足  
 して病なり先五輪八廓の分を  
 合點して審小療治すべきなり



△五輪圖



○大皆小皆ハ血輪とす心ハ臟の主なり

所なり

○鳥睛ハ風輪と肝

ハ臟の主なり

○瞳子ハ水輪と腎ハ

臟の主なり

○白仁ハ氣輪と脾の

臟の主なり

○上胞下臉ハ肉輪と

上ハ胃ハ腑下ハ脾の臟の主なり

○大皆の赤ハ心ハ實の赤ハ心の虚なり

△八廓圖



○天廓ハ大腸小腸

傳送肺金乾の卦

○火廓ハ心小腸

命門ハ經離の卦

○地廓ハ脾胃小腸

水谷乃海坤の卦

○水廓ハ腎經小腸

會陰坎の卦

○山廓ハ膽經小腸

清淨艮の卦

○風廓ハ肝經小腸

養化巽の卦

○澤廓ハ膀胱經小腸

津液兌の卦



○喜ハ心と傷ル其氣散す  
 ○怒ハ肝を傷ル其氣緊一  
 ○憂ハ肺を傷ル其氣聚  
 ○思ハ脾を傷ル其氣結  
 ○悲ハ心胞を傷ル其氣急  
 ○恐ハ腎を傷ル其氣怯  
 ○驚ハ膽を傷ル其氣亂  
 右七情の傷タル所と云々  
 ○汗ハ心液なり  
 ○涙ハ肝液なり  
 ○涎ハ脾液なり  
 ○唾ハ肺液なり  
 ○精ハ腎液なり  
 是五臓の液なり

△大眚赤脉付睛

赤脉睛に穿ル大眚  
 起る者も心の實なり  
 是心邪肝を侵すなり  
 ○小眚より赤脉睛ふ  
 傳ルハ心液虚なり



●洗肝明目散 一切の風熱眼  
目小中赤腫痛と治す

- |     |     |     |
|-----|-----|-----|
| 當飯  | 川芎  | 赤芍藥 |
| 生苳  | 黃連  | 黃芩  |
| 山梔子 | 石膏  | 連翹  |
| 防風  | 荆芥  | 薄荷  |
| 羌活  | 蔓荊子 | 菊花  |



白蒺藜 草決明 桔梗等各

甘草少 右水煎 痛はく

ハ眼烏頭を加ふ。翳障わはば

蒺藜倍 木賊を加へ芍薬と

去へし大便實して通せんと大

黄と加へ川芎桔梗と倍す

○努肉睛と攀ものハ大

皆赤脉の症と同一

○雞冠蜆肉とと雞の

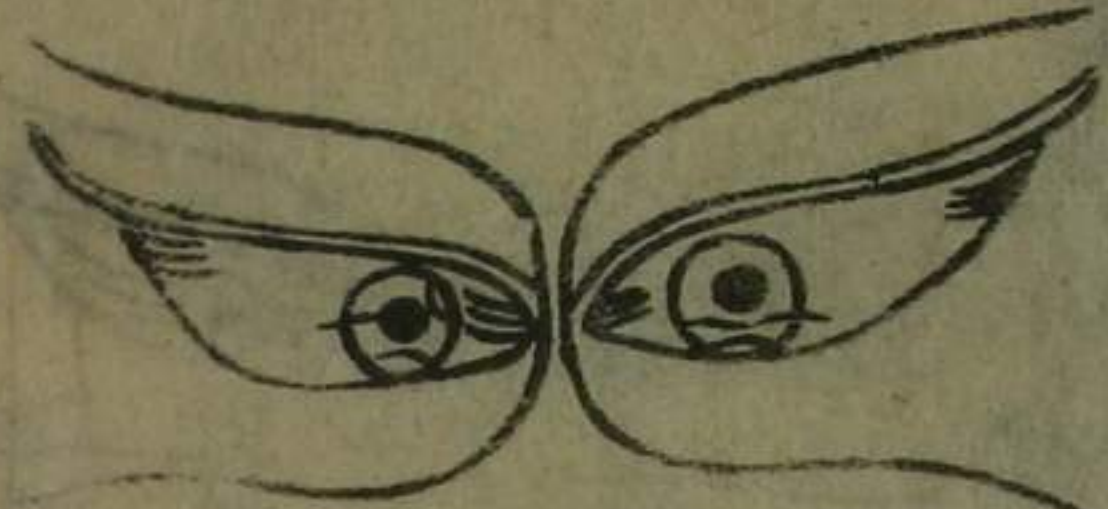
冠又蜆の肉の如くを

内翳黒睛ふかふを

心熱酒乃毒を

肝の臟熱と積でるを治す

○瀉肺湯 肺經小脾熱と得く



白仁小雞冠蜆肉と生じりと治す

桑白皮 地骨皮 黄芩

桔梗 甘草三分

右水煎して食後小服す

○腎水衰へ眼中小

くと黒花のやうを

もの見へ又ハ蠅の翅

れやうをもの見を

と蠅翅黒花と云ふ



●滋腎明目湯 久病目くらま

腎經の虚かりと物と見たり

かく内障黒花と見瞳子ひろ

る等々血少く神と勞し腎水



の不足るを此方こそと治す

當飯 川芎 芍藥

生苳 熟苳各 桔梗

人參 山梔子 黃連

白芷 蔓荊子 菊花五分

甘草三分 右細茶燈心五分入

水煎す○熱しうす○龍膽柴

胡加○腎虚加黄柏知母加

加○風熱加防風荊芥加○

風熱加紅腫加連翹黃芩加

○酒毒加黄連倍○翳

障加○木賊加

●還精神腎丸 目翳 花と生

人參 白朮 茯苓

茯苓 羌活 杜賊

菊花 防風 肉苻蓉

密蒙花 川芎 青箱子

山藥 牛膝各 兔絲子六

甘草三分 右細末一蜜少

丸用或ハ煎服す極妙

ある方なり



○胞肉瘡と生むる常  
小云目瘡なり此脾  
胃熱毒の



●八正散 目ノ病と治す

大黃 瞿麥子 木通

滑石 山梔子 車前子

篇蓄 甘草

●右竹葉燈心と入水煎

●利眼湯 目瘧血滯と疼

其外膿氣あり眼と治す

大黃 當歸 木通

升麻 黃芩 川芎

●黃連 連翹 右水煎

●治瘧散 赤膜努肉目瘧を

治す秘傳方なり

白礬 辰砂 牡蠣

石膏 虎肉 龍腦

●右細小粒一蜜みく煉はく極て

効あり



○天行赤眼俗ふ云やみ  
めなり此天時流行  
の障氣小相染の  
かり腫痛重とくも  
黒睛腫人々傷ら

●洗肝湯 マムめ暴小發赤く

腫痛を治す

大黃 山梔子 防風

薄荷 當歸 川芎

羌活 甘草



右水煎食後小服す○或ハ香蘇散敗毒散を用也

●大明散 一切れ暴小發を赤眼日と怕き明み出でがくらづり

て開ひくら涙なみカレ腫は痛い忍おべ

障さ黒く花は新しん病びやう久きう病びやう小せうくらづき

當飯

川芎

赤芍藥

生芩

黃連

黃芩

黃栢

山梔子

連翹

薄荷

防風

荊芥

菊花

蔓荊子

牛蒡子

柴胡

羌活

獨活

右燈心入水煎○赤腫痛小大黃

芒硝と加く○擊障小ハ賊莖荊

と加く○頭痛ハ川芎荊芥菊

花蔓荊子倍一用也

●即効湯 病目痛腫ふと治す

蓬葉黒燒 黃栢同前 明礬燒

紅花三分 右細末湯小ク

き立洗せとり又常レ煎藥の

如ク小拵ハ熱湯小振出ハ鴨の羽

小シ洗せ

○打目撞目胞臉珀仁

ハ害ハカク人ハ鳥ハ疔

ハ大事ナリ





● 沒藥散 打目撞目と治す又  
目痛ふと用也

大黃 芒硝 各多  
麒麟竭 中  
沒藥 右散藥とあり 食後

● 小茶湯 少く用也

● 羚羊角湯 打目刺目と治す

柴胡 黃芩 當歸  
羚羊角 羌活 各  
甘州

右水煎す ○ 凡そ打目撞目小先

生辛と搗たらう 餅と那烘り熱

とやて貼る一日小一度はかあぐ

一痰血と散するなり 生辛か

ハ芙蓉葉と用也葉ハハ根を

用也粗皮を去る白皮と用るなり

又撥實とかりんこまうふ鯨と

たらー乳少くとき付も



● 退赤散 目瘡と治す

黃芩 黃連 白芷

當歸 赤芍藥 山梔子

桑白皮 木通 桔梗

連翹 各等分 右水煎食後小服

● 止痛湯 目瘡甚と疼と治た

と疼此藥服し止とも用也

偷針俗云目瘡  
其背れ上小細  
紅點あり瘡の如  
これと針と刺  
まバ瘡ふかり



當飯

白芷

川芎

薄荷

地黃

芍藥

香附子

黃芩

大黃等各

右水煎食後小服す

●五黃湯 目瘡疼て泪多く

熱は頭痛も治す

山梔子

黃柏各

大黃五

黃連二

黃芩二

右同前

○旋螺尖起して螺の

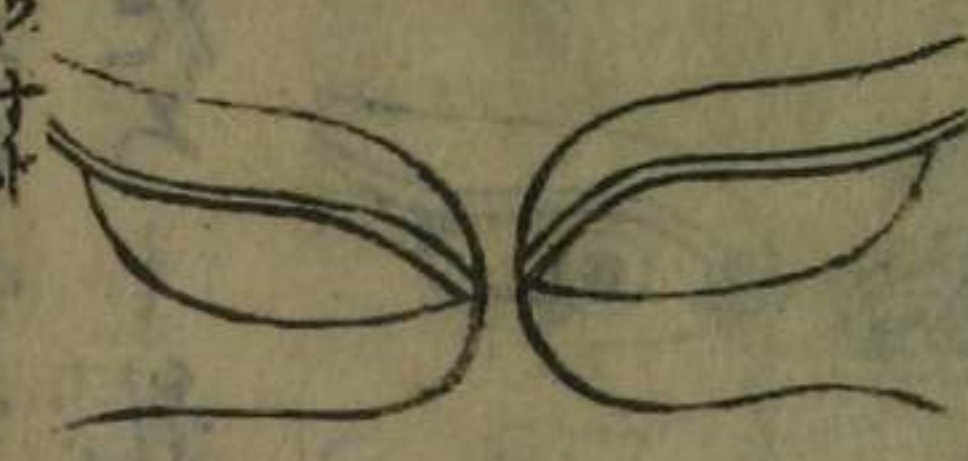
尾れ旋る状の如く

なるもの小大起て睛

と攻痛腫子漸々小

變して青凸小起

血絲ありは熱肝胆の二經



小積膈門を壅故なり

●鬱金酒調散 旋螺尖起て治

黃芩

鬱金

大黃

防風

山梔子

當飯

川芎

赤芍藥

龍膽州

右散藥を温酒少く食後

小服す

○突起睛高くと黒睛

高く突起腫子正

しん大事証な

り多く治

此五臟の毒風を蘊

こころ熱極くと眼小充つなり

初起 麻木疼痛次第小





病勢重くなるかぎり

●酒調散

黒睛高く突起と治

當飯

赤芍藥 菊花

羌活

桑螵蛸 羌藟子

防風

荊茶 木賊各等分

甘草

右水煎 食後小

酒を加へて服す

●洗眼湯

同証洗ひ藥

白芷

細辛 當飯

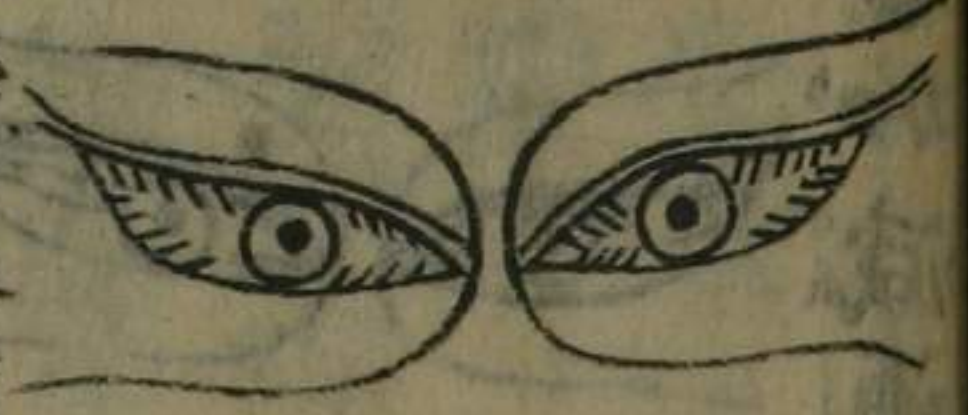
蒼朮

麻黃 防風

羌活各等分

右水煎して時々小洗ふへ一五

粒の類腥ものとき



の拳毛倒睫俗小云さ

うまらげた毛拳

て睫が倒ふるなり

是脾肺の風熱を

得故なり

●細辛湯

まはつげを治す

此藥をほくろめて服する毛れ

のづゝ外へ向て愈ふなり

細辛

防風 知母

羌藟子

大黃 桔梗

羚羊角

黒參

右等分水煎服す

●防風飲子

まはつげと治す

黃連

細辛 蔓荊子各



葛根

防風各

當歸七

人參

甘州少

右水煎食間遠く服すべし

大抵の少一わ倒睫ハぬきこも

治すべし拔去ども又一面小逆

小生て目刺時ハ腫子溢疼

翳膜生ト物目かく害を

かすり多し此藥服すべし

○飛塵蛛絲眼小入

て粘付て出れ痛

溢て開く後障膜

と生もこを致す



●加減酒調散 飛塵目小入

出づと治す

當歸七 大黃七 赤芍藥

菊花 桔梗 蒼朮

桑螵蛸 麻黃 羌活

羌蔚子 連翹各 甘州少

右散藥温酒用也

●修肝散 諸の塵芥及び珠の

絲目小入を治す

防風 羌活 當歸

生芩 黃芩 山梔子

赤芍藥 大黃 蓬蘽子各

甘州少

石水煎服す





人の兩目日ハ翳小  
至て鬼まじりとの俗よ  
鳥目と云此腎じんの虚  
なり内障ないぢやう係かゝりなり

●補腎明目丸 諸凡内障鳥目

の証と治す

川芎 當飯 熟苳

菊花 山藥 知母

石菖蒲 黃柏 青鹽

遠志 白茯苓 巴戟

五味子 芍藥 桑螵蛸

菟絲子 青箱子 肉苁蓉

密蒙花 枸杞子

石決明 右細小末一窰小

て・あまじり小丸一三十九粒

●鹽湯あく用也



小兒の通睛俗小  
ゆみふと云へり此  
風熱肝かんと傷魂目  
小應おたがひせん風邪かぜ黄仁  
と壅故おとがひなり

●五七犀角飲 通睛と治す

犀角 人參 茯苓

遠志 龍膽 黃芩

麝香 甘州かんしゅう各

●右水煎服す





痘疹眼小入る症二  
あり痘瘡初て起り  
眼閉て開ず眼上  
小痘あつて點黑精  
の上ふあゝ治しやす

急益母草の煎湯とて燻洗  
す一痘瘡バ眼開き眼中に痘  
も亦疹なり又一症あり痘瘡も  
痂も落しとて眼中忽ち紅溢る  
是餘毒肝小鬱して發せり  
大事に症なり急小車前草を  
用て水に搗て頻小あゝ益母  
草の煎汁あて洗之能治せり

●紅花散 痘瘡眼小入る治す

紅花 連翹 當皈

生芩 紫艸 大黃

赤芍 各等分 甘艸 少

右燈心竹葉入水煎す

●通神散 痘疹眼小入る治す

菊花 谷精草 密蒙花

蒼朮 藜豆皮 石決明

黃芩 蟬退 木賊 各等分

甘草 少 右水煎食後服す

●加減四物湯 痘瘡目小入る治す

當皈 芍藥 蒼朮

菊花 葛根 香附子 各等分



甘草 右水煎服す又散

藥ふして用せ

●秦皮湯 痘疹眼小入る洗藥

秦皮 秦朮 防風

細辛 等分 茸 少

右水煎 温洗ふ

小兒雀目ハ申酉此

時小至て物と見ざ

るは是肝虚して

邪を受熱小傷きて

致す所なり

●蝙蝠散 小兒雀目と治す

蝙蝠肝 石膏 五苓 黃丹 煨

石決明 煨 白茯苓 炒各

右散藥を米の湯やう用ゆ

蝙蝠の肝をくハ夜明砂と用ゆ

●一方 雀目と治す 江州野田 山岡傳

雀腦血 麝香 右雀を生か

が頭と破血をらり麝香小和し

合せ指とく妙方なり

○小兒赤爛眼の症三

あり産の時惡血眼

小入るこまを洗ふと

淨かすくと爛ふこ

とあり又母ハ胎小あり

時母食物と忌す五辛の類其外

毒あり物を食して産まて後兒

此症と煩ふなり是兒母の母血と





飲て血毒のらん所なり又乳母壯盛の人ありて兒と抱て乳と哺す時兒いゝと嘔乳脹て其乳自然と發し出兒の眼中入らば必ず此爛とす面ふあされ瘡と生じり此三症通ども胎風赤爛と云なり

●小防風湯 小兒爛目眼

醫と生じりを治す

大黃 山梔子 赤芍藥

防風 當歸尾 羌活各等分

甘艸少 右水煎 食後小服

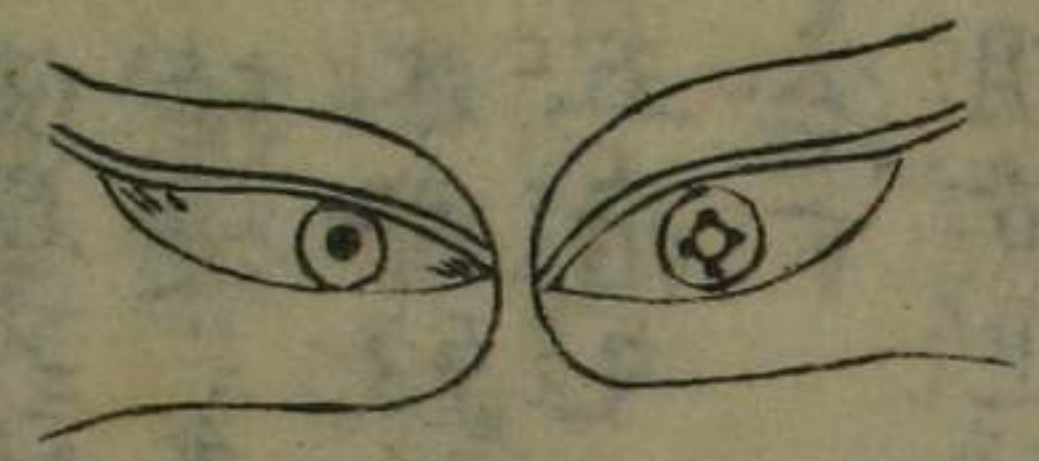
●小養氣湯 小兒爛眼を治す

大黃 薄荷 杏仁

當歸 羌活 天麻 赤芍藥 防風各等分

甘艸少 右水煎

○小兒疳病久しき時ハ疳蟲眼目と上り攻初ハ紅溢り次第小變して黒き翳わす珠の如し急小療治すべし



●除熱飲 小兒五疳眼とせし

子と治す

大黃 知母 防風

黃芩各一各 黑參 羌蔚子

菊花 木賊各二分五分



右水煎食後小服す

●小兒地黄湯 瘕のり攻眼  
小赤筋多く臉くれ日暮り視

ざる治す

地黄

芍藥

茯苓

使君子各三分

牛膝

陳皮各一分

桔梗二分

枳壳

半夏

木香各五厘

右水煎す

●五疳丸

五疳目と攻くも

を治す

胡黃連各五分

牛黃一分

彌陀僧

夜明砂

綠礬二分

右散藥と

な、束と加へ糊す丸用也妙



ト眼は、大事に證なり

●内障湯

一切の内障を治す

遠志

獨活

細辛

五味子

當歸

桂心

芍藥

五加皮

柴胡

地黄

黃柏

香附子

蛇骨

黃芩各等分

甘州各等分

●玉明湯

一切の内障を治す

其中白黒青色膿血多き小如なり

○内障主目黄赤白黒の  
別あり、其の虚より發  
するなり、其の詳  
く小述す、急小療  
治せ、これハ腫子損



沉香 木香 人參  
 蓮肉 白檀 連翹各  
 取州ハ 右水煎 服す  
 ●内障升麻湯 一切の内障と  
 治す

干姜 五分 五味子 各  
 防風 芍藥 柴胡 各  
 當歸 二分 人參 白朮  
 升麻 葛根 黃芪  
 甘菊 花湯 内障外障一切の  
 ●眼疾を治す神れ如し  
 菊花 升麻 旋覆花  
 川芎 大黃 石決明 各

石膏 羌活 地骨皮  
 木賊 炒 黃芩 葶藶子  
 防風 荊芥 草決明  
 黃連 山梔子 各 甘州 一分  
 右水煎食後服す  
 ●二和湯 一切の内障黑白と

毛ハ 山岡家傳  
 人參 白朮 草決明  
 當歸 車前子 枳壳  
 白芷 川芎 茯苓  
 石斛 各等分 右水煎温服す  
 ●内障散 五色の内障と治す  
 麝香 麒麟竭 各二朱  
 草決明 赤石脂 各一分 雀子 三朱



石決明四 代赭石二 龍腦一 朱

右極て細末して眼ふゆりかす

●九種龍腦散 内障と治るゆ

の秘藥なり

石膏一分 辰砂 貝齒半 朱

鹽砂 石決明 丹砂

蜜貝一各 龍腦 草決明各

右細末し眼ふ振かくる

●一方山岡家傳 内障腫子

損トとと治す

車前子 生地黃 麥門冬各

右細末し蜜少く●是を丸二廿四粒一用也秘方なり

○口齒門附舌瘡虫牙

●清胃散 胃熱少く唇裂或ハ

口中小瘡と生ト或ハ齦腫痛之

又ハ膿爛て痛となすを治す

黃連炒 生芩 升麻各

牡丹皮八 當皈二分

右水煎し服す○發熱わ者

ハ柴胡山梔子を加ふ是を加味清

胃散と名く○齒腫痛し甚だ

しくハ石膏細茶大黃細辛を加

ふ○はく腫くハ防風荊芥と

加ふ○牙れ齦の肉わらへ血出さ

ふハ白藜豆栝葉黃芩荊芥山梔

子を加ふ○小兒の牙疳ハ天花

粉玄參白芷を加へ母と兒も俱



不服す

●當飯連翹湯 胃熱さんし

て牙齒甚いたる口を開て風

めこれバいろく痛く或ハ口中臭

し甚しきを治す

當飯

生芩

川芎

連翹

防風

荊芥

白芷

羌活

黃芩

山施子

枳壳

甘草

細辛

右水煎服す。痛

止ざるハ大黃を加て是と瀉す

●獨活散 風毒少く牙痛或ハ

眼腫痛しを治す

獨活

羌活

川芎

防風

細辛

荊芥

薄荷

生芩

甘草

右水煎し服す。少くハ口

中。小含て漱くやうみ。後熱

こじべい

●加減涼膈散 口中又ハ舌小瘡

と生ト痛裂て咽喉腫痛と治す

連翹

黃芩

梔子

黃連

桔梗

薄荷

當飯

生芩

芍藥

枳壳

甘草

右水煎す

●定痛散

しを治す

生芩

細辛

當飯

生芩

細辛







母をお加ん玄ん參んと倍す

○喉痺門

●通關散 喉痺腫痛之言語

こくたうきんかんと治す

人參 白朮 茯苓各

防風 薤白 薄荷

干姜五分 桔梗二文 甘草一分

右水煎

●拔萃桔梗湯 熱少く腫喉

痺こしんと治す

桔梗 連翹 山梔子

薄荷 黄芩各 甘草五分

右竹葉入水煎

○耳病門

●滋腎通耳湯 腎虚して耳

聾鳴を治す

當歸 芍藥 知母

川芎 生苜 黄柏

黄芩 柴胡 白芷

香附子各 右水煎一方六

連翹あつく黄柏かのう胸膈

快くんん青皮か枳壳を加ふ

●通明利氣湯 虚火のう痰

氣耳の中小鬱一或ハ閉或ハ鳴

氣鬱一痞滿一痰盛小咽ハ中

心を治す

貝母三 陳皮三 鹽麩 黄柏酒浸

山梔子 玄參各 蒼朮



白朮 香附子 生苳

梧柳子 黃連酒 黃芩酒炒

川芎八分 木香五分 甘艸二分

右姜入水煎 竹瀝を加服す

此方ハ氣鬱して痰火さるんや

て耳聾なる者不用也

●防風通聖散 厚味と常小食

一胃火盛すと兩耳聾る者と治

す又ハ瘡毒愈て後餘毒少く耳

聾るふと加減して用也

防風 川芎 當飯

芍藥 連翹 薄荷

麻黃 大黃 苦硝各

石膏 桔梗 黃芩各

白朮 山梔子 荆芥各

滑石四分 取艸二分

右姜入水煎す 耳鳴と酒と過

す人なるハ柴胡枳壳桔梗青皮

南星荊芥と加ふ 酒小浸 煨

る大黃と加へ又ハ藥調合して

後一所小酒に浸しわがり用ひ

て尤も功のなり

●諸れ虫も一取小入ハ藍汁

とそまき入まばり又ハ葱の汁と

入て尤も一 蜘蛛耳小入る小

鹽少しをとりと取れ内小搽ハ即ち

化して水こめたり 蜈蚣耳小入

小雞の肉と以て耳の邊に置ハ自



出るなり又ハ猫ハ小便しててけハ  
即ち出るなり猫ハ牙ハ生姜搗て  
付きハ小便してそのまじりておる

○中毒門附骨硬

●薺菴湯 諸毒ハ中へて治す

黑豆 薺菴 甘草 等分

右水煎 服す○又菘豆甘草二

味水煎 服して諸毒を解す

●諸の毒を解すハ急ハ香油を  
灌飲して尤も良

●諸の菌ハ毒ハ中へてハ甘草と

香油と煎して冷して服して

●河豚ハ毒ハ中へてハ急ハ香油

と飲べ○又ハ胆礬の末を湯ハ

うき立て飲ハ其まじり吐逆して愈

○又蘆根ハ汁と飲して枯る

蘆根ハ煎して服して

●骨鯁ハ象牙の末と吹込して

○又橄欖木或核と吞べ○

又鳳仙花の實を吞べ○或ハ實

莖を焼して用ひては効ハあり

○又ハ鉛と大口ハ嚙て

撥くハハ益智又ハ縮砂と

さへ給ハけり口中ハ含て其汁

と吸べ自然ハ絞るなり

○癩癩門

●清心益膽湯 癩癩氣血の虚

ハ屬して痰火とかなと治す



當飯 芍藥 白朮

茯苓 陳皮 半夏

竹茹 枳實 石菖蒲

黃連 香附子 麥門冬

遠志 川芎 人參

甘草 右姜入水煎 ○怔忡

健忘驚悸狂氣等痰火とらる

小ハ皆これと用也

●寶鑑沉香天麻湯 癩症と治

す。主方なり小兒あも用ひて

沉香 益智 川烏頭

天麻 防風 半夏

附子 獨活 羌活

當飯 白強 各一各

甘草 五分 右水煎服す

●清心化痰湯 精神其舎を

守らん常り以笑ひ言語と分

となく高處へ上り人としさこ云

り色々れ物目不見かりと治す

天南星 半夏 陳皮

茯苓 黃連 黃芩

當飯 生芩 川芎

人參 酸棗仁 炒 石菖蒲

甘草 二分 右姜入水煎服す

○外科

○癰疽

●千金內托散 癰疽瘡癤未

腫やれむ口のあさるもの已す



膿潰へく口八明く。との皆治す

人参 黄芪 當皈各二各

川芎 防風 桔梗

白芷 厚朴 肉桂各二各

甘草五分 右水煎或ハ酒二

加て煎す或ハ散薬二なり酒

みく服す。癰疽腫痛しハ白

芷二倍 腫痛二ハ肉桂二倍す

○飲食進二ハ縮砂香附子二加

ハ○痛甚二ハ乳香沒藥二加

○水乾二ハ知母貝母二加ハ○

瘡穿二ハ皂角刺二加ハ○大

便通二ハ大黃枳壳二加ハ○

○小便澀二ハ麥門冬車前子二木

通燈心州二加ハ○小兒の瘡瘡

色紫黑熱毒二屬二ハ肉桂

と去紫艸紅花黃芩二加ハ○瘡

瘡淡白灰の色ハ如く陷二虚寒

小属二ハ丁香二加ハ○

貫膿す時節二ハ貫膿二ハ人参

黄芪二當皈二倍す

●托裡散 癰疽氣血二ハ

ハ惡寒發熱二ハ又ハ肌肉二生

さよと治す

人参 黄芪各二各 白朮

陳皮 當皈 地黃

茯苓 芍藥各五分 甘草一分



右水煎服す。膿と云ふこと或膿  
 てと潰へざる。氣虚なり人參白  
 朮と倍。肉桂を加ふ。腫赤や  
 て痛む。血凝るとんる。わり乳香  
 没薬を加ふ。肉赤やして愈肉を  
 ちうとふ。小ハ地黄牡丹皮を加ふ。  
 肉黯やして愈肉の上と。小ハ人參  
 黄芩と倍。肉桂を加ふ。肉白く  
 膿多し。て愈肉の上と。小ハ人參  
 黄芩當飯白朮と倍す。寢起  
 小汗出。小ハ五味子を加ふ。  
 ●十六味流氣飲 氣鬱して  
 腫物と生。瘡瘍と生。皮肉の  
 間。小枝を生じ。と治す。

人參 黃芩 當飯

川芎 肉桂 厚朴

防風 烏藥 枳榔子

芍藥 枳壳 木香各

紫蘇 五分 桔梗 三分 甘草 二分

右水煎或ハ青皮を加ふ

●補中益氣湯 癰疽元氣不足

の者。小方。か。加減して用也

○一方。小麥門冬。五味子。加用也

下疳門 附便毒 楊梅瘡

●龍膽瀉肝湯 肝經ハ濕熱して

囊癰下疳便毒懸癰腫痛小便

澀。或ハ婦人前陰の瘡痒。治す

柴胡 二分 澤瀉 車前子 各



木通

生甘草

當歸各

龍膽 五分

右水煎 ○回春の

方、山梔子、黃芩、甘草ありて

柴胡

●消疔敗毒散 下疔瘡並り

便毒を治るる方あり

防風

獨活 各

連翹

薤白

黃連

蒼朮

知母 各

黃柏

赤芍藥

赤茯苓

龍膽 各

木通 各

柴胡 五分

甘草 稍二分

右燈心入水煎 ○便毒ありて人の

の虚と實とを量て大黃を加ふ

●搜風解毒湯 楊梅瘡を治す

或ハ輕粉と服一筋の骨

痛之身節かなハ等々

土茯苓 各

薏苡仁

防風

木瓜

木通

白鮮皮 各

皂角子 四分

右水煎服す ○外

科選粹ハ防風カウテ當歸

白芷 甘草 金銀花 あり

○癬疥門

●升麻和氣飲 瘡疥手足不發

一痛之痒く寒熱あつて前陰の

あつて濕り痒く治す

升麻

葛根

白芷

陳皮

蒼朮

桔梗 各

當歸

茯苓

半夏



枳壳

干姜黒く炒る 大黃各九分

芍藥酒炒七分

甘草五分 右水煎服

●當歸飲

血熱ふく手足又は

身ふく小なる瘡を發し痛し痒

或ハ膿發熱もふく治す

當歸

芍藥 川芎

生苜

防風 荊芥

白茯苓各一分

黃芪

何首烏各一分

甘草三分

右水煎服す

●活血四物湯 諸れ痒疥年々

經て愈さざると治す

當歸

川芎 芍藥

生地黄各一分

桃仁 蘇木各一分

紅花一分

連翹 黃連

防風各一分

甘草三分

右水煎服す

●一方 疥瘡膿痛之或ハ膿か

くして痒と治す

土茯苓十分 金銀花五分 白芷

當歸

川芎 大黃二分

右一服之五六々の目ありて水も其

片もつふ入煎し一日ふ二服を

ば用也奇妙の方なり膿瘡も

用ひく効ありあまのり松下法順入道の傳

○癩瘡門

●五香連翹湯 一切れ惡瘡結

核癩瘡無名の瘡癩を治す



大黃酒炒 連翹 射干

升麻 桑寄生 獨活

木通 乳香各三分 青皮

木香各一分 甘艸五分 射香各一分

右水煎服 惡物と下すと度とん

●益氣養榮湯 鬱症少く瘰

瘰癧と生ト手足腫肉色變セハ

或ハ日晡小發熱トト治す

人參 黃芪 白朮各一分

當飯 川芎 芍藥

生苜 陳皮 香附子

牛膝 柴胡 桔梗

地骨皮各五分 甘艸三分

右水煎服す ○脇の下刺が如く小

痛ハ青皮木香を加ふ ○膿水

清ト人參黃芪當飯ト倍す

○婦人經水通セムハ當飯を

倍し牡丹皮桃仁ト加ふ

●消解散 咽ハ結核と生ト桃

の如く或頸項脇の下かと腫ま

硬く石れ如く或ハ痛と頸と同

すト治す

天南星 半夏 陳皮

桔梗 柴胡 前胡

黃連 連翹 赤芍藥

防風 獨活 紫蘇

莢木 蔓荊子 木通各一分

甘艸 右姜燈心 入水煎す



○凡そ瘰癧の症小十六味流氣  
 飲用して効を得ると多し久しく  
 用ひざれば効一なるとのなり方  
 瘰癧門  
 小あり

○痔漏門

●秦朮羌活湯 痔漏塊つを  
 かし或ハ垂下り頻小痒と治す

羌活二分 秦朮 黃芩

防風七分 升麻 麻黃

紫胡五分 藁本三分 細辛

紅花 甘州各少 右水煎服

●秦朮防風湯 痔漏毎日大便

の時疼むと治す

秦朮 防風 當飯

白朮各五分 澤瀉六分 黃柏酒炒五分

大黃 陳皮 柴胡

升麻各三分 桃仁四分 紅花少

右水煎服す

●當飯連翹湯 痔漏と治す

分主方なり

當飯 連翹 防風

黃芩 荊芥 白芷

芍藥 生苳 山梔子

白朮 人參 阿膠

地榆 烏梅各五分 甘州少

右水煎服す

○脱肛門

●參芪湯 脱肛と治す



人參 黃芪 當飯

生苳 白朮 芍藥

茯苓 升麻 桔梗

陳皮各五分 甘草炙三分

右姜朮入水煎○虛寒の症ハ

干姜加ハ

●升陽除濕湯 脫肛外ハ 糞

出ハ 治す

柴胡 升麻 防風

猪苓 蒼朮 陳皮

神麴 麥芽各等分 甘草少

右水煎○胃寒テ 腸鳴ハ 益知

半夏加ハ ○凡ク 勞倦ハ 房事

と過リ 又ハ 産後ハ 用ひキ 疝癪ノ

後又ハ 虚症ハ 小兒トモ 此症

あり 人參 黃芪 當飯 升麻加

之ハ 血虚ハ 芍藥 地黃加

ハ ○肺熱ハ 八肛門閉

ハ 肺寒ハ 八肛門脱出

ハ 肺ハ 温メ 胃ハ 補之

補中益氣湯 小訶子 枳殼 根少

ハ 加ハ 用也

○損傷門 附 破傷風 金瘡

●導滯湯 打撲體ハ 損内

ハ 瘀血滯ハ 痛ニ 腫

とカレ 治す

地黃 赤芍藥各 枳榔子



牡丹皮各一分 當歸尾五分

桃仁八分 紅花三分

右水煎す或ハ酒少ク蒸大黃少

加ハて尤モ一

●羌活防風湯 破傷風ト治す

破傷風ハ癰疽ノ口又ハ金瘡ノ

口より風邪ヲ引こみ少ク多クハ

多ク出て少ク出て目トはしん

等ハ症ノり

羌活 防風 川芎

藁本 當歸 芍藥各

地榆 細辛各五分 甘草三分

右水煎す○熱ある又ハ大便通

風實邪ハハ荊防敗毒散ハ

用ゆるもあり虚症ハ四物

湯補中益氣湯ナク加減して

用也一殊外大事ハそのり

●白朮湯 破傷風ト汗止す

筋ハ手足搐搦ト治す

芍藥四 白朮 葛根各

升麻 黃芩各 甘草各

右水煎服す

○金瘡ハ産後ハ療治ト心得て

藥ハ用ゆる當座目トまらんこ

きハ當歸川芎等分ハ人參了

簡次第ハ加へて用ゆ或ハ四物湯

小加減して用ゆ一龍王湯白朝



散ちりかきときん瘡そうのき氣け付け血けつ止と痛いたみ  
 とと止とるし妙めい方ほうなりな家い々く秘ひ傳でんして  
 幾いく色しきももああれれとと多たくくハハ藥やく味あじ不ふ  
 同どうああるる源げん氏しのの三さん種しゆ藥やく云い秘ひ方ほうの  
 ● 疵きず藥やく鹿ろく茸じゆん生せい粉こな亂らん髮はつ黑くろ燒やう柳りゆう枝し黑くろ燒やう  
 右みぎ三さん種しゆ等とう分ぶん小せう合がせくとと香かう油あぶらをを  
 煉あ合あせせとと疵きずのの口くち小せう付けりり若わか  
 疵きずのの口くち乾かわハハ輕かろ粉こなとと少すくしし加くふふわわるる

袖珍醫便卷之三終

袖珍醫便卷之四目錄

○婦人科

調經門てうけいもん 丁てい初しよ  
 虛勞門きよらうもん 丁てい二に  
 臨產附催生藥りんさんふくわいせいやく 丁てい七しち  
 斷乳門たんにゅうもん 丁てい六ろく  
 經水門けいすいもん 丁てい二に  
 產前門さんぜんもん 丁てい五ご  
 產後門さんごもん 丁てい八はち  
 斷產門たんさんもん 丁てい一いつ

○小兒科

初生門しよせいもん 丁てい五ご  
 初生通用方しよせいつうようほう 丁てい廿にじゅう  
 視眼口訣しげんくつげつ 丁てい同どう  
 虎口三編圖こくしさんぺんず 丁てい同どう  
 小兒脈法せうじやくぽう 丁てい廿にじゅう  
 急驚風門きゅうけいふうもん 丁てい同どう  
 洗兒法せんじやくぽう 丁てい上じやう  
 面部形色圖めんぶしきしよくず 丁てい廿にじゅう  
 觀面口訣くわんめんくつげつ 丁てい廿にじゅう  
 手指脈紋圖しゆしゆめくもんず 丁てい廿にじゅう  
 外症之口訣がいしやうしやく 丁てい廿にじゅう  
 慢驚風門まんけいふうもん 丁てい廿にじゅう



驚癇門

疝疾並走馬

癰疾門

感冒門

變家門

胎熱門

食傷門

嘔吐門

泄瀉門

痢病門

夜啼門

不乳門

喉痺門

停耳門

滯顛門

丹毒門

癩病門

痘瘡門

痘瘡日數

同禁忌

防痘瘡法

同治方

痘後餘毒

麻疹門

袖珍醫便卷之四目錄畢

袖珍醫便卷之四

婦人科

調經門

●調氣養血湯

婦人室女血氣

和之凡產前產後の諸病を治す

凡そ婦人以諸病ハ多くあり

氣盛あり血虚あり故なり

香附子

烏藥

砂仁

當飯

川芎

芍藥酒炒

熟苜

甘州

右姜枣入水煎或ハ丸藥又ハ

散藥あり用也良氣痛

小は呉茱萸を加ふ痰盛なり

か二陳湯と合方なり



●千金調經湯 女人月水調ら

す或、小産の後帯下腹痛口乾  
發熱、大腸調らん時々血と下

久し、懐孕するを治す

當歸 芍藥酒 川芎各

人參 阿膠 牡丹皮

吳茱萸 肉桂各 麥門冬

半夏各五分 甘州五分

右姜入水煎

●四物調經湯 女子十五六歳

あり、經水行ら日夜寒熱往來

手足痺食進ら頭痛惡心く

嘔吐、腹中塊ありて久く痛

を治す

香附子二分 當歸

川芎 芍藥酒 黃芩

枳壳各 熟苳 陳皮

莪朮 三稜 白朮

白芷 茴香 延胡索各

青皮 砂仁 紅花各

甘州二分 右姜入水煎 遍

身痛ふら羌活獨活を加ふ。咳

嗽ありふら杏仁五味子を加ふ。

肚痛ふら乾膝を加ふ。瘧、反

草葉常山を加ふ。泄瀉、枳

壳、去て肉豆蔻を加ふ。

●大補經湯 婦人氣血く血

海冷、經水調らん時々腹痛ふ



或ハ白帶下シ顔の色々す黄  
と手足力弱く體やて立く候  
かどしふん治す

當飯 芍藥酒 香附子各

熟苳 川芎各 白朮

茯苓 黃芪 延胡索

陳皮各 人參 砂仁

阿膠 沉香 小茴香酒

肉桂 吳茱萸各 甘州二分

右姜枣入水煎

經水門

●四物湯方ハ虚症凡そ經水來居  
んとて腹痛と血實して氣滯不

附子延胡索牡丹皮莪朮香皮と

加ハの經水行く後痛をハと者

ハ氣血の虚なり四君子湯小合し

て用○經水期小先つハ血虚熱

オとりの黃芪香附子阿膠知

母黃柏甘州艾葉を加ハ○肥人

經水期過カレ疲カレハ二陳湯

と用ハ南星蒼朮滑石川芎當

飯香附子と加ハ

●經驗調經湯 經水或り前

或ハ後或は多く或は少キハ

治す

當飯 熟苳 香附各

芍藥酒 吳茱萸 紫荊皮



肉蓯蓉 大腹皮各 川芎

黃芩各七分 甘艸各三分 右姜朮

入水煎 經水の至る日より服

一初じ

○虚勞門

●滋陰至寶湯 婦人の虚勞の

証を治す

當飯 白朮 芍藥酒

茯苓 陳皮 貝母

地骨皮 知母生 麥門冬

香附子童便炒 薄荷

柴胡酒炒 甘艸二分

石煨生姜 入水煎す 婦人の虚勞熱

あつて熱汗かたれ者も治す男

子小用すも亦良

當飯 川芎 芍藥酒

熟苧 陳皮 半夏

茯苓 桔梗 枳壳

前胡各一分 葛根 紫蘇各七分

人參 木香各五分 甘艸三分

右姜朮 入水煎す

●逍遙散 血虚發熱 或朝

熱自汗盜汗頭痛怔忡やせり

頬赤く口乾き 經水調らぬ或は

腹痛 内熱 咽かしく等乃

証を治す

當飯 芍藥酒 白朮



茯苓

柴胡酒炒 甘草三分

右煨姜入水煎す 山柰

子牡丹皮を加へ 加味道遙散

云手足の裏に胸と小熱あり

ば麥門冬地骨皮を加ふ 經水

閉行ふ 桃仁紅花を加ふ

○腹痛延胡索を加ふ 咳嗽

肝五味子紫菀を加ふ 咽か

まは麥門冬天花粉を加ふ

遍身痛防風羌活川芎を加

吐血阿膠生草牡丹皮

自汗黄芪酸枣仁を加ふ 左の

腹血塊あり 三稜莪朮桃仁紅

花を加ふ 石の腹氣塊あり

○産前

●紫蘇和氣飲 産前諸病小

加減用也

紫蘇

川芎

芍藥酒炒

陳皮

大腹皮

當飯

香附子各等分

甘草少

右姜入水煎 氣虚小人參を

加ふ 胎氣和胸へ上り 腹痛

あ木香を加ふ 嘔吐止む

惡阻かり 茯苓白朮半夏縮砂藿

香神麴丁香を加ふ 胎漏あり

産前血あり 小多く下る あり

地黃阿膠白朮黄芩砂



仁艾葉糯米を加ふ○物ふあり  
 或ハ苦勞しとらると胎動不安  
 かハ血を下して胎墜んことふ  
 了と地黃人參白朮茯苓黃芩  
 阿膠砂仁を加ふ○咳嗽痰と  
 吐しと桑白皮杏仁貝母を加ふ○  
 泄瀉ハ白朮茯苓を加ふ○瘧ハ  
 ハ換椰子草果青皮良姜半夏茯  
 苓葛根 胎痛く産前氣のけ  
 きくやう小一とらげ腹痛  
 とありと色ふと阿膠延胡索  
 黃芩砂仁を加ふ○産前七八箇  
 月小面目浮腫くふと地黃茯苓  
 澤瀉白朮黃芩山梔子麥門冬厚  
 朴を加ふ○口開て物言ず人を  
 見分と分をたさくと云ふは  
 生半夏茯苓麥門冬遠志石  
 菖蒲竹茹を加ふ○心痛ハ延胡  
 索乳香を加ふ○腰痛ハ破故紙  
 茴香牡仲を加ふ○白濁白帶ハ  
 地黃半夏茯苓蒼朮牡蠣龍骨  
 と加ふ○小便通せくふと木通滑  
 石車前子を加ふ○大便通せり  
 ちと地黃黃連枳壳を加ふ  
 ●達生散 懷妊八月九月の時  
 分小此藥を二十服ぐり服すと  
 ハ平産しとらると難産の患百  
 一人をたし妙方なり



大腹皮三 人参 陳皮

紫蘇 當飯 芍藥

白朮各 甘草三分

右姜入水煎服す。春六 夏六 秋六 冬六 川

芎防風各 加一。夏六 黃芩六 黃

連五味子各 加一。秋六 澤

瀉各 加一。冬六 砂仁六 加一

○胎動不安各 加一。金銀花

野苧麻根各 加一。氣六 加一。心

小六 紫蘇地黃各 加一。性

急六 柴胡六 加一。多怒六 加一

黃芩六 加一。食進六 砂仁六 神

麩六 加一。咽六 小麥門冬六 黃

芩六 加一。能食物六 進六 黃揚腦

を六 加一。黃揚腦六 長六 加一

●當飯順血散 産前産後の諸

病六 加減六 用也

人参二分 沉香二分 當飯一分

芍藥一分 川芎五分 白朮一分

甘草五厘 右姜入水煎。子

腹中六 死六 牡丹皮六 加一

○産前小便通六 澤瀉六 猪

苓六 加一。逆産六 手足六 出六 本

方六 用六 産前血六 生

か六 當飯六 沉香六 倍六 川芎

芍藥六 喉六 血

出六 芍藥六 沉香六 當飯

を倍六。産前六 呃逆六 陳皮



香附子を加ふ。○産前の吐逆する  
小六沉香當飯を倍し丁香を加ふ。○  
産前身骨痛ふハ當飯沉香を倍し  
て牡丹皮を加ふ。○産月小節々氣  
を取先小六沉香當飯を倍す  
○細藥を青皮を加ふ月をえ  
小用ひく。

○臨産 催生藥

●催生飲 産ふ臨て産せざる

小用ひ催生

當飯 川芎 大腹皮

枳壳 白芷 各

右水煎温服す

●催生湯 難産の

桃仁 赤芍藥 牡丹皮  
肉桂 白茯苓 各等分

右水煎温服す

●催生散 同前

白芷 百草霜 滑石 各

右散藥をくして用ひ。○子と腹

中やく死らふ小六平胃散小芒硝

を加へて用ひ。○交骨開す産

加れ。陰氣の虚かり。芍飯湯ふ

龜板婦人ハ頭髮を加ふ。○産

て後産門閉るハ氣血の虚な

る十全大補湯を用ひ。

●五積散 産つて産らぬ。小

大服。牛膝を倍し用ひ。



○産後

●芍药湯又佛手散 産落し其此方を用ひたる如何様の變症あるに皆加減して用ひて血を調ひ時諸症あつて愈ふなり

當飯川芎七分 右水煎す

○一方より益母草あり○産後必し氣虚す又惡血とこり故に人參紅花を加へく大効あり芍药調榮湯と云ふ○後腹痛小延胡索香附子桃仁莪朮等を加ふ●芍药調血飲 産後一切乃諸病氣血虚損脾胃弱く古血

下す或は血を下すと多く或は發熱惡寒腹痛目まへ耳鳴乾等の症を治す

當飯 川芎 白朮

茯苓 熟苳 陳皮

烏藥 香附童便 乾姜炒 黑

益母草 牡丹皮 各等分

取草右 右姜枣入水煎服

○産後加減の法○惡寒發熱頭痛體痛脈大かつかたを人參黃芪を加へ川芎牡丹皮益母草を加ふ○惡露けり胸腹痛或は腹小塊あり惡寒發熱七月桃仁紅花肉桂牛膝枳壳



木香延胡索を加へ熟苜蓿を去る  
○惡血去て後腹滿す硬かき  
一々虚熱退きふも人參を加  
牡丹皮益母草を去る○惡露  
けりて瘀血上つてせも目よて醒さ  
腹滿硬く痛むを桃仁紅花肉桂  
延胡索牛膝を加ふ○古血けり  
古血流きこへ肝と胃との二經小入  
或ハ腹脇刺やうし痛く或ハ腫氣  
かどを發せりふ遠志紅花厚朴  
延胡索肉桂青皮木香を加へ熟  
苜蓿を去る○血去まじ止むは  
血虚血熱かり人參黃芪生薑山  
梔子荆芥阿膠烏梅を加へて益母

州牡丹皮烏藥を去る○血甚し  
と止むんハ地榆を加へ茅根汁  
と入用也○血去と多くして大  
腸燥て大便通せしんは麻黃生  
苜蓿仁杏仁黃芩枳壳厚朴紅花  
を加へ川芎白木茯苓烏藥乾姜  
益母陳皮を去る○氣大脱し  
血虚きハゆり目ゆりして醒さるを  
バカるハ呼驚さるる人眞氣  
を驚し散し死すもあかり人  
參黃芪を加へ牡丹皮益母烏藥  
を去る先醋を焼石ふけり其  
煙せし鼻と薰へ即ち醒かり○  
産後の泄瀉は脾虚しく腫て發



人參蒼朮砂仁厚朴猪苓木通大  
腹皮芍藥加熟苳川芎烏藥  
益母牡丹皮去瀉甚  
止止人肉豆蔻訶子烏梅  
加厚朴去○惡心嘔噦  
止止血去多多  
是脾胃虛寒少故故  
人參半夏烏梅加益母牡丹  
皮香附子烏藥去○惡露去  
少少嘔嘔惡心胸脹或痛  
方方肉桂砂仁厚朴紅  
花加熟苳白朮茯苓去  
○怒小因因肝傷胸脇刺如  
痛飲食進進發熱熱砂

仁木香厚朴青皮延胡索茴香  
加加熟苳白朮茯苓益母牡丹皮  
加加○血虛煩燥驚悸  
眠寧寧事事  
人參酸棗仁竹茹山梔子麥  
門冬辰砂加烏藥牡丹皮  
益母乾姜去○目口口  
足引引驚悸或寒熱  
脈大力或虛  
細細氣血小虛  
人參黃芪辰砂加烏藥乾姜  
益母牡丹皮去脈脈  
力有血虛中風風  
黃芪辰砂加防風荊芥羌活



を加全く風を治して八治と云  
身を疼あらし竹瀝姜汁を引半  
夏を加小黄芪と去て二三服用  
て後防風荆芥羌活と除本方小  
加減く療治と下○産後の狂亂  
も心血の不足なり人參竹茹酸棗仁  
麥門冬山梔子貝母枳實辰砂竹  
瀝姜汁を加へ川芎烏藥乾姜益  
母丹皮を去○心血空虚一言ハ  
下わさく精神短少は人參酸棗  
仁石菖蒲遠志茯神生苧桔梗麥  
門冬竹瀝姜汁を加へ丹皮益母烏  
藥乾姜香附子と去○惡血去と  
止ハ脾經へ流入る腫滿を發

紅花大腹皮厚朴砂  
仁木香猪苓木通を加へ益母烏藥  
白木茯苓と去○脾虚く痰喘  
氣急を發せし沉香木香紫蘇子  
厚朴芍藥砂仁枳實貝母竹瀝姜  
汁と加へ益母牡丹皮乾姜白木香  
附子烏藥を去○瘀血と去と  
多小因て遍身骨節痛起るハ  
生苧芍藥紅花人  
參牛膝乳香肉桂と加へ益母  
牡丹皮烏藥乾姜を去○血と  
去と多小因て血虚く瘧と發  
るハ人參黃芪生苧芍藥と加へ  
益母牡丹皮烏藥と去發熱ハ柴



胡黃芩計と加ふ痰ありハ瓜蒌貝  
母枳實竹瀝姜汁を加へ熟芋と  
去凡加味の竹瀝姜汁ハ○形ハ  
壯伸かみり手足遍身痛え  
て風痰あり貝母枳實肉桂  
牛膝黃芩羌活蒼朮芍藥竹瀝  
姜汁と加へ益母牡丹皮乾姜烏  
藥白朮を去る

●當飯順血散方ハ産前産後の  
諸症を治す

○産後熱あり小陳皮香附子  
と加ふ○産後吐逆あり小丁香と  
加ふ○同ゆあり小ゆありと

驚驚と入る温酒やく本方を用

○同下と冷り又水水を飲て

瘀血瘀が手手にあり牡丹皮を

加ふ○同血久しく止止まらざる麒麟

麟竭と●是是は小丸ト本方と

用ふ○同子宮外へ出出るハ川芎

芍藥と倍倍一一女女レ帶帶と緩め羌活皮

を衣衣ふ衣はみみををれれやくやくとと推

入入るるなり○同舌血下舌ハハ遍身

腫腫ふふあり牡丹皮生生みみ加ふ

ととここみみくく血下血ハハ生生半分炒

ととるる半分ととりて用用ふ○同の

ととここ痛痛あり牡丹皮と炒て加ふ

○同齒と痛痛を多く産産時時齒齒を



くひいれんきりうとしく其故痛り  
當飯沉香を倍す。○同髮の毛れ  
ぬくぬく悪血の故なり。川芎芍薬  
と倍し。五六服用。其後當飯沉  
香と倍し。用也。○同ぬくひり來て  
氣さくし。しつふふと牡丹皮生ふ  
て加へ人參と倍し。用也。大事れもの  
かろ。○同吐逆の心あり。古血れ  
ある故なり。丁香牡丹皮と生ふく  
用也。○同腹帯といふ事あり。其  
時を本方と用いさて帯とくべし  
苦が凡て帯のけり。いふをし  
枕と高し。横小むを苦がさる。  
あり。○同夢など見驚き。煩

ふし。あり。人參をせし。當飯沉香  
と倍し。用也。古血れをぬく。牡丹  
皮を生ふく加て。○同食乃  
なり。ぬくは縮砂を加。○同胸れ  
痛あり。人參と炒て當飯沉香を  
倍し。用也。○同頭痛。くく。○小  
川芎芍薬と倍し。三服用。用  
其後當飯沉香を倍し。牡丹皮  
を加て。古血を下さる。○同氣ち  
がひ。ふ。牡丹皮を生と炒く。○  
二色。か。加。○同大熱氣あり。  
ぬくは陳皮香附子を加。○同白  
き。の。久。下。事あり。古血  
か。ゆ。く。白。下。ふ。か。る。牡丹皮



を生ずく加ふ。○同味噌汁とつゝ  
がれ人參を炒て用ひし。○同喉  
を乾し如何程も湯水を飲せ  
あり牡丹皮を生と炒と二色に  
て加ふ大事の症なり必じ腫氣に  
くものありし身腫れふ大黃を  
少し加ふ。○同前陰やふきく肛門  
を少くふぬるありあり本方を  
黒炒しく胡麻の油あくとき付  
べし汁出く付くと靈天蓋  
を粉おくと少し加へく付べし。○同  
胞衣子宮へ入る事あり其見やう  
り産婦をきり小轉矢氣を  
延胡索炒牡丹皮少加ふ。○同白

帯と煩く少く牡丹皮炒て延胡索生  
やく加ふ。赤帶下白帶下や牡丹  
丹皮生と炒と二色しく加ふべし  
そまてととゆらぬふと麒麟竭  
を少し加ふべし

●仙金湯 産前産後の諸病と  
治と加減の法と考へ療治とべし

當飯 川芎 芍薬  
黄連等各 甘草少

○産前加減法 産前の咳漱不食  
あり陳皮大加ふ。○同頭痛胸痛小  
は車前子加ふ。○同胸支小便結  
し腰冷痛ふと茯苓車前子乾姜  
を加ふ。○同腰痛足冷腫氣あり



みは車前子木通を加ふ○同大便

結腫氣のぬふ車前子干姜と

加ふ○同血下て其人冷んたみは

茯苓を加ふ○同血下て其人弱ふ

と車前子茯苓を加ふ○同依小血

下て留かこささる五八草燉人中

白燉等分みく前湯みく用也

○産小臨横生ぬる腰冷小

便ちやふと車前子干姜を加ふ

○同逆子小生ぬ子宮冷小便結

とぬ小車前子干姜を加ふ○産

前小胞衣二三日も前小下て小便

溢痛ぬ干姜車前子茯苓を加ふ

五八草燉人中白燉等分白湯みく

用也○同胞衣二三日も先小

下て小腹冷痛ふ干姜桂心茯苓

車前子加ふ八草中白散薬を

前の如く用也○腹痛小黃連以

加ふ○産前子胎少く乳房とる

き動苦じふ厚朴干姜茯苓加ふ

○同母のひてと又と食違やも

子乳房と離き動母の胸をせりく

痛むは厚朴茯苓車前子加ふ○

同吐逆ぬひけあくと熱の指ひ

きのぬふは當飯黃連を倍し肉

桂紅花煥椰子を加ふ○同をき

小胸痛ぬ積壳厚朴加ふ○同

胸支吐逆のぬゆる陳皮煥椰子



枳壳肉桂を加ふ○同兩の脇腹痛  
ゆわ柴胡枳壳陳皮を加ふ○同  
熱氣往來腹ひく下溢ふ陳  
皮白朮干姜厚朴を加ふ○同風  
を引頭痛ひく陳皮香附子  
を加ふ○同冷てゆひ來ふ陳  
皮肉桂を加ふ○同痘疹出ゆ人  
中白栝椰子紅花を加ふ○同血  
納る瘰癧瘡を發する雷丸  
栝椰子を加ふ○同小便はる痛  
ひゆわ茯苓車前子木通を加ふ  
○同大便はる痛ふ當飯川  
芎を倍し大黃を加ふ  
○産後加減法産後腹腰ひきり

振げあふ厚朴延胡索を加  
ふ八草中白比黑炒て白湯うく用  
ゆ○同頭痛上氣しく咳嗽痰  
あふゆ陳皮を加ふ散藥前の如  
く用ゆ○同齒をくひん中風  
して手足ひく干姜を加ふ散  
藥前比如く用ゆ○同古血ミ  
こころ腹痛ゆ延胡索茯苓厚  
朴を加ふ○同血上て鼻血出て留  
どて茯苓を加へ前の如く散藥と  
用へ○同胸支常小虫氣あり  
て腹痛ひく栝椰子枳壳と  
加ふ散藥前比如く○同腹冷痛  
み瀉るゆ厚朴干姜を加ふ○



同腹熱く痛瀉ふる葛根厚

朴加ふ○同古血はる二七日を過

て血塊あはれ々々厚朴紅花加ふ

○同痘疹出熱さうんふおりさを

あらふは大黃紅花加ふ散藥前

の如く用かへし○同三四五月を過

て血をさまずす遍身腫て癩瘡

さらふは本方を用し散藥服す

をし○同風腫風毒腫め紅花

大黃木香加ふ○同眩暈ゆら

けらふは陳皮肉桂加ふ○同

腹脹腰冷脹満し小便結とふ

ハ陳皮肉桂茯苓加ふ○同胸むき

き吐逆のりく下冷め肉桂干

姜椒加ふ○同咽渴去血下

と小便溢る肉桂茯苓人中

白加ふ○同血納ら身中風らろ

と出るふは陳皮木香椒加ふ

加ふ○同血上る久し目上ふ

こぬありと發るこも血をさらふ

痛ふ茯苓木香附子加ふ○同冷て舌

血下る小腹痛る肉桂椒加ふ

加ふ○産後癩瘡又常の癩瘡

ふを用む本方を小木香加ふ山

椒子加ふ大黃加ふ楊梅瘡乃瘡

殘し用ひく尤も効ある秘さふ

方を用む○一説ふ當飯川等香附

子加ふ紫胡甘艸と仙金湯と云ふ



○斷乳

産婦子と外へやらし或は早く死  
て乳をうけ煩ふ時乳をあがんと  
思ふ大麥れ葉二兩炒て散薬  
と取五分ほど白湯やうくゆ  
を

○産後子乳を嘔吐するを痛  
みをとらんとふハ神麴炒て散薬  
ふね酒少く二々ほど一日小二度  
用也一則効あり

○斷産

産二や小難産又も多くなり  
み氣血と小弱くは婦人産を  
斷て産は下さと思ふとれは

子故紙を黒焼少く散薬を  
一酒少く服しとハ身を終りて  
子を産む○既産子故紙と既産の  
子と一の付て置とる故紙を  
○又鳳仙花の實産後小吞こ  
きと又いふ

●胎下しと時々當飯順血散

小前方産代赭石を加ふ

○凡そ婦人の腫物雜病男子比  
病門を考へ治る

○小兒科

○初生

○見初て母の體をいかに生出  
乳と其軟る縮又も綿



指をばくみ口中の惡汁穢毒を  
拭去べし前方より水飛の辰砂  
を蜜少々煉てちち産て聲を發  
せざる前小飲ししべし胎毒を下  
し痘疹を輕くしむるなり

●産出の衣類を年老る人  
曰し衣類を用ひく裁ねひと著  
を一兒壽く無病なり富貴の  
家なりこと心と綾羅錦繡の類  
を用ひべし惟病を生むるのみ  
ふわしと聊福ひを失す云々

○洗兒法

小兒小湯をあひも時兒の背と  
大事ふと風邪入ると風を

ひく時を癩疾とせむるなり

●五根湯 小兒の胎毒を氣と

皮ひ瘡疥を生ぜむるなり

能根 柳根 梅根

桑根 槐根

右小苦參白芷を加へ一貼十文  
片くぬし行水の湯れ中へ煎  
して洗ふし諸の不祥の氣を  
さくぬるなり

○初生通用方

●甘連湯 産出く其まし用ひ

し胎毒下し妙方なり

黄連 首州六分

右縮小し熱湯ふ振出し用ひ



又煎用也尤之

●五香湯 初生毒氣腹小入を治す凡て此方を用ひく胎毒下す

す

丁香

木香

沉香

乳香各一分

麝香三分

家傳小麝香

右水煎

●丁香と去藿香連翹を加へて小五香湯と云つ

●加味五香湯 小兒頭瘡軟癩

其外口れ邊遍身小名もろも瘡

を發し心治と是皆胎毒乃

沈香 木香 乳香

丁香 藿香 升麻

葛根 連翹各一分 木通

大黃各五分

右水煎用也又熱湯小振出

一ても用也

○此方を大人も毒腹小入

小を用ひく効ある

○本方に五香湯小連翹青皮甘

艸を加へて常小兒用ひて脾

胃を清く吐逆や心火を

清く蟲積を治し瘡癩痘疹の

患はゆかす

○面部察形色圖



門 額



○左の腮は肝小屬一○右の腮は肺小屬一○額の上は心小屬一○鼻準は脾小屬一○下頰は腎小屬一

○視眼口訣  
○眼胞と脾小屬と痒爛は風熱は  
○烏珠と肝小屬と青は肝の臟

○瞳人も腎小屬と睛を轉るは腎水の虧る  
○眼角眼尾と心小屬と紅は心小熱あらば  
○白睛と肺小屬と白は肺の冷氣を受る

○觀面口訣

○左の腮は肝小屬と色青を順は白と逆は色赤は肝經小風熱發熱拘急と主る青黒は驚風腹痛と主る淡赤は潮熱痰嗽を主る

○右の腮は肺小屬と色白を順は赤と逆は色甚きは



横悶亂を主る

○額と心小屬と色赤を順とん  
黒を逆とん青黒は驚風腹痛啼  
哭と主る微く黄わると盗汗髪  
燥驚疳と主る

○鼻と脾小屬と色黄ると順  
とん青を逆とん赤は脾經の虚熱  
と主るこく黄ると小便閉て  
血血と主る

○頰と腎小屬と色黒を順とん  
黄ると逆とん赤は腎と膀胱  
と熱あつて小便通せざると  
主る

○虎口三關圖



小兒三歳より内ハ男ハ左女ハ右  
の手れ虎口三關の紋理を見て  
病と知る人々指の本れ節と  
風關と寅の位なり中ノ節は  
氣關と卯れ位なり第三の節を  
命關と辰の位なり其紋本節小  
あきハ病治やと中節と過ハ病  
重一三節と過ハ病治やと  
紋青驚と主る○淡紅ハ寒熱



表ふあり。○深紅、傷寒又、痘疹  
 ○紋亂、病久し。○紋細、病  
 腹痛、多く啼乳食の滞あり。○  
 紋あらく、直小指甲小入、驚  
 風と主。○惡症あり。○紋黒して  
 墨の如き、治し難し。

○手指脈紋圖

∩ 魚刺の形、驚風、痰熱あり。  
 ∪ 縣針の形、傷風、泄瀉、積熱あり。  
 ∩ 水字の形、食積、嘔驚、疳あり。  
 ∪ 乙の字の形、肝病、驚風あり。  
 ∩ 蠶の形、疳蟲、大腸積、積あり。  
 ∪ 環の形、疳積、吐逆あり。  
 ∩ 亂の形、紋と蠶を主し。

○小兒脈法

小兒三歳以上、三關の紋を  
 見の外、指一印を用ひて寸關尺  
 の三部を轉てうらふ。一息の  
 中、小六七動と常とん、それより  
 益とん、熱とん、すくなく、時、寒  
 とん、浮とん、洪とん、風盛たり。  
 とん、數たり、驚たり、沉遅たり、虛  
 沉とん、實たり、積たり、十三歳  
 以上、大人の脈をとり、同心得を  
 得、斯く内と右に如く心得て  
 勝べきなり。

○小兒の脈氣和せざる時、弦



急なり食傷の時も沈緩ありて  
虚なり驚ハ促急なり風ハ浮時  
冷も沈細あり脈亂ハ治せん  
○小兒半歳半歳の間病わ  
所々額の眉端髮際の間を無  
名指中指食指の三川を以て輕  
按せし兒の頭左小わハ右此手  
を用ひ右小わハ左此手を用ひ  
食指と上しん三指と小熱も  
を風邪とん三指とも冷ハ外感  
内傷發熱吐瀉を主る食指中指  
熱も下冷を主る名中の二指  
熱すはは驚風を兼食指熱す  
ふ乳食滯かり是又知んハわ

ふべし事なり

○外症之口訣

○牙を咬むも甚し驚  
を發せし延沫とそきて啼ハ虫  
の痛かり○うかこく腫るハ  
たもるハ瘡疹あり吐瀉つ  
しく能睡り腫子とわらんハ虚  
熱かり腫子とわらんハ胃  
實熱かり○移き涎をこき血を  
こくハ肺熱かり○糞毒白く化らんハ  
胃の冷なり○吐瀉ハ乳とんは  
乳ハ食傷かり下りてハ頭をふ  
て眼をひけりハ肝ハ風熱ガ々  
○涙多し明やるハ三焦の



積熱なるを○清く湯をたふせ  
 肺寒なり○盜汗ハ五臓の虚熱  
 なる○腫て丹毒を生ずる肺熱な  
 る○土と喰ハ脾痛なり○項こむ  
 て歩むる腎の不足なり○年長ま  
 して齒之をくも腎不足なり○  
 髪久く生ぜざるも腎衰なり  
 ○心と痛水を吐ハ虫に痛なり○心  
 痛と水と吐と多くと冷く痛なり

○急驚風

急驚風ハ牙關とくハ先熱さる  
 ん小延を流し上驚ハ反張搐

擲首ハ口中之氣熱ハ頬赤く  
 唇紅ハ脈浮洪數なり此肝經の  
 血虚火動ハ風を生ずるなり宜  
 く肝血と滋ハ脾氣と養ふべし  
 ●加味敗毒散 急驚風初起  
 了發熱ハ手足搐搦上驚ハ反張  
 了治す并小一切れ感冒頭痛發  
 熱或ハ痘疹出んとく搗搦を  
 發し小宜く此方を服とべし

- |     |    |     |
|-----|----|-----|
| 人参  | 羌活 | 獨活  |
| 柴胡  | 前胡 | 茯苓  |
| 桔梗  | 川芎 | 枳殼  |
| 地骨皮 | 全蝎 | 姜蚕  |
| 白附子 | 天麻 | 甘州虫 |



右姜入水煎服す

●南極壽星湯 急驚風之候

の症をあらうんと治す

午膳

南星

防風

薄荷

白附子

蟬退

甘草

右水煎服す

●芎活湯 急驚風及張目と

視は先牙とくひ心をも治す

人参

黄芩

杏仁

石膏

麻黄

肉桂

川芎

葛根

升麻

當歸

獨活

甘草

右姜入水煎

●鎮驚散 急驚風搐搦振嗽喘

熱をあらうと治す

南星

防風

蟬退

薄荷

右姜入水煎○凡急驚風初發

は敗毒散小天麻強蚕地骨皮と

加て用之

●參朮柴苓湯 急驚風と治す

人参

白朮

茯苓

釣藤鈎

陳皮

柴胡

升麻

山梔子

甘草

右姜束入水煎

●瀉青丸 肝熱急驚風及搐搦等

の症と治す

羌活

大黃煨

川芎



山梔子 龍膽 當歸

防風各等 右末と一蜜少く

丸下竹葉湯せく用也或ハ煎湯

用くも用也

○慢驚風

慢驚風之病後或ハ吐瀉或ハ脾

胃と損して起り急驚治す

之變トク慢驚風ト云々時治

か一大事ハ症於

●醒脾散 小兒吐瀉止ト慢驚

風ト脾ト物ト食ト治す

人参 白木 茯苓

木香 全蝎 白附子

強蚕 天麻各等 甘州炒

右姜枣入水煎〇一方小天麻強

蚕ト去南星半夏陳倉朮ト加

●釣藤飲子 吐利ト脾胃の

氣虚ト風ト發トを治す

釣藤鈎ニ蟬殼 天麻

防風 全蝎 人参各

麝香五分 麻黃 強蚕

川芎各五分 甘州三分

右水煎〇虚寒ト附子ト加

●補脾益真湯 小兒產落ト

質ト外ト實ト裡虚ト乳

之ト蠶ト色青ト慢驚風ト

目を見れば手足ト



或之變蒸客忤等之症治す

木香 當飯 人參

黃芪 丁香 訶子

陳皮 厚朴 肉豆蔻

草果 茯苓 白朮

肉桂 半夏 附子各分

全蝎五分 甘艸二分

右姜入水煎○渴きしゆに附子

丁香肉豆蔻と考し人參白朮と倍

○瀉より丁香訶子と倍す○吐

逆わよは陳皮丁香半夏と倍

○腹痛より厚朴良姜と加ふ○腹

脹より厚朴前胡枳壳と加ふ○

嘔吐より前胡五味子を加ふ○足

冷より附子丁香厚朴と倍す

●加味和中湯 慢驚風と治す

主方

人參 白朮 茯苓

陳皮 全蝎五分 細辛三分

薄荷 甘艸二分

右姜枣入水煎乳母やと用也

●烏沉湯 慢驚風と治す

驅胃と助ふ

天麻 人參 川烏頭生

全蝎 南星 木香

沉香一分 取艸五分 右水煎

○驚癇



●養心湯 心血虚一驚癇驚悸

怔忡盜汗發熱の多きを治す

黄芩 茯苓 茯神

半夏 當歸 川芎

肉桂 栝子仁 酸枣仁

五味子 人参各三錢 甘草四錢

右姜枣入水煎す

●清癇湯 諸癇を治す

陳皮 半夏 酸枣

茯苓 栝梗 栝實

瓜蒌仁 山梔子 黄芩各

木香 辰砂各五錢 甘草二分

右姜入水煎服す 時竹瀝姜汁を入辰砂を調へ服す

●導痰釣藤湯 癇症痰火肝火

不屬すとの候治す

半夏 南星 陳皮

茯苓 黄連 枳實

强蚕 釣藤 天麻各等分

右姜入水煎

癇疾 並走馬疳

小兒直訣曰 肝疳は白睛を遮

了或ハ血を下して瘦ハ心肝ハ面

黄小頬赤く身體熱の多ク脾疳

と體黄小瘦皮膚乾し瘡疥あり

て腹大く土を喰ふなり

腎疳は體削り小瘦あり

瘡疥を生じ濕り地臥す



○肺癆喘嗽口鼻小瘡と生むる時り  
 ●消瘠湯 瘠疾面黃小瘦腹大  
 小なり青筋出糞の色白く小便  
 白く少く多を治す

山查子 芍藥 茯苓  
 白朮 黃連 澤瀉  
 青皮 甘草 生

右姜枣入水煎

●消瘠退熱湯 瘠積發熱肚大

小青筋出骨瘦手足細く多  
 と治す

山查子 烏藥 燈心州  
 竹茹 枳榔子 蕪荑仁  
 史散子 木通 黑牽牛

大劑 柴胡 莪朮  
 枳壳 黃芩 葶藶

右水煎  
 ●生熟地黃湯 瘠少く眼目

が開くを治す

川芎 赤茯苓 枳壳  
 杏仁 黃連 半夏

天麻 地骨皮 各二分  
 生苳 熟苳 各五分  
 甘草 炒

右姜并小黑豆十五粒入水煎  
 ●清肺湯 肺癆少く咳嗽鼻

と搽甲を咬寒熱を治す  
 桑白皮 紫蘇 前胡  
 黃芩 當歸 天門冬



連翹 防風 赤茯苓  
桔梗 生朮各五分 甘州炙

右水煎

●肝痛湯 肝痛頭暈目眩

いろいろ白膜睛をくまきり筋青く

體瘦みと治す

地黄 神麴 地骨皮各

川芎 茯苓 枳壳

黃連 柴胡各 右水煎

●大蕪荑湯 脾痛之發熱渴

をぬく大便調不行久髪ぬる

面黒く鼻以下小瘡を生じ土を

くらくと治す

蕪荑 山梔子各 黃柏

黃連 防風各 麻黃

羌活 柴胡各 白朮

茯苓 當歸各 甘州炙

右水煎

●消痛飲 疝疾身熱一面きらみ

肚大ふりく青筋出瘦れと治す

人參 白朮 茯苓

胡黃連 唐 神麴 黃連

青皮 陳皮 砂仁各

甘州炙 右水煎 食傷む

山査子を加ふ 蟲氣のれゆ史

君子を加ふ

●肥兒丸 食積脾疝目赤

り口小瘡を生じ齒の根たき瘦



やうく吐大おれり 遍身ぬる瘡  
を生む等一切の痲病を治す

黄連 蕪荑仁 神麩

麥芽 等各 右散薬をなす糊

みく丸をなす 白湯少く用ゆ

● 蘆薈消痲飲 走馬牙痲

齧腐たき唇腮をくさるる大事

のしれぬり急小此方を用ゆ

蘆薈 銀柴胡 胡黄連

玄参 牛蒡子 黄連

桔梗 山柰子 羚羊角

石膏 薄荷 升麻

甘草 各 右竹葉入水煎

清胃升麻湯 齒腫腮を治す

升麻 川芎 芍薬

半夏 白朮 石膏

葛根 黄連 酒炒 防风

甘草 五分 白芷 三分

右水煎し服す又別小白朮半夏

を去て水煎し是と合嗽ぎく

吐出しん

○ 痲疾

● 淨府湯 痲塊發熱増寒口か

らこ小便あらく大便瀉し或は

腹脹食を思ひ面黄を瘦せしる

へしんを治す

柴胡 茯苓 猪苓



三枝藤

莪朮

山查子

澤瀉

黃芩

白朮

半夏

人參

胡黃連

甘艸

右姜朮入水煎服

消癰湯 癰疾發熱 七口乾

尿前 〇〇〇〇〇〇〇〇

人參

白朮

茯苓

半夏

柴胡

黃芩

猪苓

澤瀉

麥門冬

山查子

三稜

莪朮

胡黃連 等分

甘艸

右姜朮入水煎

抑肝扶脾湯 癰疾久消

元氣 〇〇〇〇〇〇〇〇 脾胃 〇〇〇〇〇〇〇〇 肚 〇〇〇〇〇〇〇〇

黃連

白朮

茯苓

龍膽

白芥子

山查子

陳皮

青皮

神麩

人參

胡黃連

柴胡

取艸

右姜朮入水煎

枳實

痞之 〇〇〇〇〇〇〇〇 食之消

胃 〇〇〇〇〇〇〇〇

白朮

枳實

右散藥 〇〇〇〇〇〇〇〇 荷葉の煎汁小

糊 〇〇〇〇〇〇〇〇 白湯 〇〇〇〇〇〇〇〇 不香

〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇

痰を消す



○感冒 並發熱

●惺惺散 小兒風寒小感下咳  
兼發熱...を治す

- 人參
- 茯苓
- 桔梗
- 細辛
- 薄荷
- 枳實
- 甘草

右水煎服...初て風を引く...小用  
中時先人參を去べし

●參蘇飲 方大人の咳 小兒感冒  
嗽を治す

●脫甲散 小兒發熱一頭痛又  
く愈...を治す

- 麻黃
- 柴胡
- 當歸
- 龍膽
- 州各二分

加人參  
甘州... 右姜枣入水煎の嬰  
童百門小麻黃... 葱白連を

○變蒸

全嬰方論小云變蒸を兒は氣血  
を長むる故る... 二十日毎小  
一變... 變蒸の多... 後

●柴胡湯 變蒸骨熱... 啼煩  
を治す

- 人參
- 麥門冬
- 龍膽
- 防風
- 柴胡
- 甘草
- 炒黒



右水煎 服

●當飯飲 變熱寒のつく熱

き症を治

當飯 木香 肉桂

人參 甘草

右姜枣入水煎

●調氣飲 變熱吐瀉

乳を嘔吐し驚を發せんとす

乳を治す

人參 木香 香附子

陳皮 藿香 甘草

右姜枣入水煎

○胎熱

壽世保元小云胎熱は母懷胎ま

中小熱毒の物を食らうと多し

小産ふ子身熱一面赤く眼閉て

啼きまゝと大便通じず

●釀乳湯 胎熱の兒小乳母先

乳を飲せしむ此湯を服て後

小乳を飲せしむ

生草 澤瀉 猪苓

赤茯苓 天花粉

茵陳 甘草 右水煎

○食傷

●大和散 乳食小のくりき腹脹

痛其止小風を治す

紫蘇 陳皮 香附子

羌活 蒼朮 川芎



枳壳 山查子 神麩

麥芽等分 甘艸少

右姜入水煎

●香砂平胃散 乳食小傷らま

脾胃とそこまらるるを治し小兒大人

らも小食傷の主方なり

香附子 蒼朮 陳皮各

枳壳 藿香各 縮砂各

木香 甘艸各

右姜入水煎 肉食小傷ま山查

子を加ふ○麩類かまふ傷まは神

麩麥芽を加ふ○生るるの又冷た

る此菓小傷ま干姜青皮を加○

吐瀉つゝもして止むんハ茯苓白朮

並百鳥糞を加ふ

●消食散 小兒食傷腹痛食消

せと面黄く白睛多く脾胃くは

と治す

山查子 神麩 縮砂

麥芽 白朮 陳皮

青皮各 甘艸少

右姜入水煎○寒を受て腹痛

ゆり蕪荳香呂宋菓更を加ふ○熱

あつく痛まは黄芩を加ふ

●啓脾丸 乳食傷と瀉瀉腹

又吐逆を止癒を治 腹の痛と

定元氣益脾胃を健ふと

人參 白朮 茯苓



山藥 蓮肉 陳皮

澤瀉 甘草

右散藥 煉蜜 丸 白湯

小兒の食傷 大人の傷 食門を 諸疾

を治す

● 小兒の食傷 大人の傷 食門を

嘔吐

● 人參散 脾胃よく 乳食を

嘔逆を治す

人參 白朮 半夏

乾姜 桑白皮 陳皮

● 甘州少 石姜 東入水煎

● 定吐飲 乳の取 食をかくす

小諸薬を用て効りて治す

● 乾姜 半夏 肉桂

右姜入水煎

● 定吐紫金丸 乳食と嘔吐を

を治す

丁香 木香 藿香

人參 白朮 半夏 各

右散薬 姜の汁と糊を

せ丸 辰砂と衣を 白湯

少用也

○ 泄瀉

● 參苓白朮散 方 大人の泄 小兒

脾胃弱く 常小腹下やらく 食す

中 腹脹色こりて 治す



益黃散 脾胃虛寒 吐瀉

瀉痢 治す

陳皮 青皮 訶子各

丁香 甘草

右水煎 各醫方考 小兒吐瀉 去

木香 砂仁 加 砂仁 益黃散 名

はく 泄瀉 少 陳皮 厚朴 加

ふ 痢病 少 當歸 覆葉 散 加

●錢氏白木散 小兒吐瀉 治す

慢驚風 治す 或は 病後 津液 足

十口 乾渴 治す

人參 白木 茯苓

藿香 木香 葛根 各

甘草 煨 右水煎 小兒吐瀉 治す

瀉痢 慢驚風 治す

山藥 白扁豆 肉豆蔻 加 治す

慢驚風 已 小兒 吐瀉 細辛 天麻 全蝎 加

●助胃膏 小兒吐瀉 脾胃

弱 飲食 不 腹脹 腹中 鳴 寒 久瀉 治す

人參 白朮 茯苓

丁香 木香 砂仁

白豆蔻 肉桂 藿香 各

陳皮 山藥 甘草 各

右散藥 治す 蜜 丸 白湯

少 用 或は 硯 乳 糞 毒 治す

夜啼 腹痛 治す



●小兒泄瀉大人泄瀉門考へく  
治さく

○痢病

●清熱化滯湯 痢病と治さく  
主方なり

白芍藥

黃連呉茱萸の煎汁

陳皮

茯苓

枳壳

黃芩各

石姜入水煎○痢

病血のほらふハ黃芩酒當飯地

榆を加ふ○白痢より厚朴枳壳を加

ふ○赤白痢より下すハ川芎當飯

桃仁紅花滑石乾姜炒を加ふ○赤

痢久下虚よりみゆるハ黃芩黃

連を去り川芎當飯白木阿膠

と加ふ○裏急後重より木香檳榔

子を加ふ○腹痛より芍藥枳壳を

倍し當飯正胡索を加ふ○黑豆

の汁に如ゆるを下しより白木蒼

朮防風を加ふ○久しき痢病より

氣血とくと虚よりみゆるハ人參黃芩

當飯川芎升麻肉豆蔻を加ふ○

凡そ小兒の痢病大人の痢病門

と考へく治さく

○夜啼

●釣藤釣散 夜啼と治さく

釣藤釣

茯神

茯苓

川芎

木香

當飯各

甘州五

右姜東入水煎



●六神散 夜啼面青く口入氣  
冷或ハ泄瀉乳ノ飲ミ之ヲ治ス

人参 山藥 白朮各  
茯苓 白扁豆各 甘州二分

右姜枣入水煎

○不乳

産出て口拭き清くハ穢汁  
腹不入腹満痛シ乳を飲ざりト

●茯苓丸 児産て乳をのほぎ  
を冷す

赤茯苓 黄連 枳壳各  
右散薬ミル一窠ゆく乳汁

て用ひ下す

○喉痺

●魁危湯 喉痺れ主方好り大  
人ハモ用也

桔梗 山豆根 牛蒡子  
甘草 荊芥 玄参

防风各 升麻二分 竹葉青  
右水煎一頻小用也

○停耳

●升陽散火湯 風熱少く耳の  
内腫痛ニ膿汁ト出トを治す

升麻 葛根 羌活  
獨活 芍薬 人参各

柴胡三分 防风五分 甘州二分  
右姜入水煎



○滯頤

滯頤に兒涎と常小流して頤乃  
間爛ふは是脾胃の虚冷の故なり  
●通心飲 小兒常小涎を流すと  
治す又夜啼ゆえ用也

- 木通 連翹 瞿麥子
- 山梔子 黄芩 甘草各等分

右水煎用也

●温脾丸 小兒脾胃虚冷と

常小涎を流して治す

- 半夏 白朮各十各 木香
- 白強蚕 陳皮 青皮各

汁と糊小まを丸と白湯中用也

秘方あり

○丹毒

●升麻葛根湯 丹毒發熱一面

紅小啼驚くを治す

- 升麻 葛根 芍藥
- 柴胡 黄芩 山梔子各

木通 甘草各五分

右水煎母子と小服と

●犀角消毒飲 丹毒壯熱在燥

く咽喉痛遍身血心と睡卧  
かきとを治す又と痘疹已小出  
て熱解せん未出くと快く

る用ひく

- 荊芥 防风 黄芩各



犀角 煎各 牛蒡子炒  
右水煎す犀角をくわくハ升麻  
を用也

●大連翹湯 小兒丹毒其外一  
切の諸瘡痘疹疫疔等を治す

- 連翹 瞿麥子 滑石
- 車前子 赤芍藥 牛蒡子
- 山梔子 木通 當飯
- 防風 黃芩 柴胡
- 荊芥 蟬蛻各 石膏
- 燈心草 甘草各

右水煎母子とも小用也

○魁病  
龍膽湯 兒姪婦の乳と喫

て煩ふを魁病と云此方を用へ

川原柴胡 龍膽草  
黃芩 釣藤鈎皮  
白芍藥 茯苓各五分 大黃五分  
蟬蛻 甘草各

○痘瘡

○凡そ傷寒の初發と痘瘡の初  
發とはさるるべきものなり何  
れをも發散の風藥を用ひて誤る  
下か其内痘疹は温平小を  
を立らぬかを痘疹と傷寒の  
かきさる大藥左れ如  
○乍ら寒く乍ら熱一悶へ呵欠



驚悸軟嘔兩の腮紅く耳涼と  
 のを痘疹の熱と或ハ渾身熱  
 さん小妄物たりと或ハ口  
 鼻より血を出し驚搐き目内  
 して死さんとして又甦へるは痘  
 疹に實熱内小なりと或ハ  
 ○男と體重く面黄女と面赤喘  
 息各憎寒口中氣熱悶れと  
 傷寒とん○頭と身れ節々や痛  
 下時たれよの時疫傳染の熱  
 とん○面赤汁出て清く涕を  
 流ると傷風の熱とん○午の後  
 發熱し頭と吐と熱し額小紋あ  
 るは食傷れ熱とん

○痘瘡日數

○初熱三日 ○報痘三日

○起脹三日 ○貫膿三日

○收靨三日 ○落痂三日

右保赤全書れ説るる回春を小  
 十候小分らたり ○證治準繩

去世俗小謂幾日ありて發熱し  
 幾日小く出形し起發し作漿收

靨と此大略の言わ痘小疎密  
 あり毒小微甚あり人小虚實あり痘

疎出とのハ其毒微しくやくを旬  
 日と待ど痘密出るとのハ其毒甚

一日數の外小く延引し何  
 一藥小論とて去す



○痘瘡禁忌

○房中淫犯の氣 ○婦人經水の氣 ○狐臭の氣 ○醉酒の氣 ○葫蘆韭などを食したる氣 ○硫黄と燒氣 ○物の爛穢の氣 ○誤て油髪を燒氣 ○大小便の氣 ○一切の腥氣 ○油のけ又油をき魚鳥を煮燒氣の道を行汗トミこる衣帯の氣

○如此の類とんとも忌さく奪其外受服のく僧尼等と避べ一房室掃きききとん伽羅燒物の類を心も燒べん只蒼木乳香等を床帳の近く焼べ一瘡毒出さしとて輕し是張仲景の法なり

○防痘瘡法

世間小痘瘡時行と去り兼て是藥を服せし多とのハ少く重ものハ輕く輕ハせん小まじりなり更小大事及と去るなり

●三豆湯 痘瘡を防ぐも一

- 大黑豆
- 赤小豆
- 菜豆各一盞

甘草細切

右四味を煮熟せし先毎日兒豆を食せし豆を煮湯を飲しじべ



● 遡源解毒湯 兼て痘を防  
ど方なり

當歸 川芎 生苜  
芍藥 人參 連翹  
黃連 陳皮 木通  
甘草 竹葉 各  
少生 十枚 等分

右水煎温服

痘瘡治方

● 升麻葛根湯 發熱の初痘瘡  
傷寒見分りし時此方を用て  
解散

升麻 葛根 芍藥 各  
甘草 右姜入水煎

● 寒月ゆれ紫蘇と加へり

痛を是痘と知、桂枝を加ふ

● 加味敗毒散 痘瘡初起發

熱もる時此方と用べり  
柴胡 前胡 羌活  
獨活 防風 荊芥  
薄荷 枳壳 桔梗  
川芎 天麻 地骨皮 各

右水煎熱服して汗出と佳

○ 古方の人參茯苓と去り補  
まると早けれバ火邪を助けんを  
を恐てかり 壽世保元の方六

柴胡獨活天麻各五分外麻葛根  
紫蘇牛蒡子蟬退山查子甘草各五分  
○ 又一方小葛根五分紫艸



あり熱甚しきハ柴胡黄芩と  
加ふ冬は麻黄と加ふ夏は香  
薷を加ふ泄瀉ハ猪苓澤瀉  
を加ふ毒氣盛るハ紫艸  
と加ふ

●神功散 痘已小出て毒氣  
多し血紅一片地界を分す  
とて遍身あり紅く血  
界の分ちも紅く一はあや  
不見も或ハ吐血衄血吐瀉  
を治し是大事の証なり

- 人參 黄芪 芍薬
- 紫艸 生苳 紅花
- 牛蒡子 各等分 煎胡

甘州半分 右水煎 ○熱甚し  
く黄連黄芩と加ふ猶もいざ  
ハ大黄を加ふ 驚搐あり  
退を加ふ ○痘の頭粒今黒ハ寒  
のいざり肉桂を加ふ ○腹痛  
も毒盛るハ紫艸牛蒡子倍す  
○地界を分ちか小前胡と加ふ  
●消毒飲 痘出さ或ハ已小出  
ても熱退らん毒氣さかん  
しらく紅く粒あや小かん  
ば急小此方を用ふ

- 牛蒡子 四分 煎胡 一分
- 防風 五分 甘州 三分
- 右水煎 ○本方小黄芩一分 犀角 五分



を加へて犀角消毒飲と名く尤  
 能熱毒を解散と云ふなり。○虚  
 熱も地骨皮を加ふ。○熱さ  
 るるに黄芩紫艸を加ふ。○寒  
 快のり或は痒むに蟬退を加ふ  
 ○氣虚少るに人参白朮を加ふ。○血  
 虚に当飯川芎を加ふ。  
 ●人参透肌散 氣弱して痘出  
 て齊くならん肌膚の間ふく  
 る者治す

人参 白朮 茯苓  
 當飯 芍藥 木通  
 蟬退 糯米 紫艸各等  
 甘草半分 右水煎

●保元湯 痘起脹せざるを治す

黄芪 人参 甘草  
 右姜入水煎

起脹時節おぼろ  
 てさもかくは穿山甲と炒て加ふ

○血弱して起脹せんに丁香肉桂當

飯川芎を加ふ。○頭額起脹せんに

みは川芎を加ふ。○胸のたより起

脹せんにみは桔梗を加ふ。○腰

膝起脹せんにみは牛膝を加ふ。○

兩れ手起脹せんにみは桂枝と

加ふ

●起死回生湯 痘七八日お至

て忽ち黒く變り腹の内へ收り

入遍身を抓やがり死せんとす



治す

當飯

川芎

白芍藥

生苜

升麻

紅花各

右水煎或は酒少く加へて煎す

○上階ふく白芷を加ふ

○下階ふく牛膝を加ふ○遍身

黒く階ふく麻黄を加ふ

●參芪四聖散 痘已小出て六

七日長ぐん膿を生ぜん或は痒

塚まふと治す

當飯

芍藥炒

黃芪

川芎各

白芍

茯苓

木通

紫艸

防風各

糯米夏

右水煎子母とも小

服と○痘出て三日の内頂階之

のく虚小あは神功散を用ゆ

べー○身己小涼て汗止るは

血氣隨て溢るる當飯五酸枣仁

炒黃芪三水煎服とては立と

まろ小止○遍身疼るは木香一

味煎服とて

●參芪内托散 血氣虚損

或は風邪穢ふゆは痘毒内

小伏くきく出で或は出ても

句く快く治す

黃芪

人參

當飯各

川芎

防風

桔梗

厚朴

白芷各

煎州



木香 肉桂各

右糯米少入水煎○と紅紫

みく燥黑陷熱毒わら肉桂と

去て紫艸紅花黃芩と加ふ○淡白

け陥伏ふは虚寒わら丁香と加ふ

○貫膿小當り膿とはらふは六

人參當飯を倍と○泄瀉あけ

は丁香乾姜肉豆蔻を加ふ

●牛蒡子湯 痲落て餘毒臍臍

小あつゆと熱をねら腹痛者と

治す

牛蒡子 前胡 黃連

黃芩 連翹 白附子

玄參 赤芍藥各

羌活 防風 甘草各

右水煎○凡そ痲落て血を氣を

虚を力をけられら補中益氣湯を

物湯十全大補湯の類考服とふ

●安胎散 妊婦に痘瘡に此方

を以て主とふ

人參 大腹皮 陳皮

白朮 芍藥 當飯

川芎 砂仁 香附各

紫蘇 茯苓各 甘草少

右燈艸糯米と入水煎○痘出て

血虚の者に芍飯湯に芍藥を

加ふ○氣虚の者に保元湯に

芍藥を加ふ



○痘後餘毒

●仙方活命湯 痘疹餘毒輕

きと肌表津溢 痒重くは

肢節腫痛等と治す

白芷 防風 沒藥

赤芍藥 當飯 皂角刺

穿山甲 天花粉 乳香

貝母 各 陳皮 金銀花 各

甘草 五分 右酒少加水煎

●活命解毒湯 痘後餘毒

色々の害とせしを治す

防風 荊芥 生芥

赤芍藥 當飯 連翹

牛蒡子 黃連 紫草

蒼朮 薄荷 川芎

木通 各 甘草 右水煎

●清胃湯 痘後の牙疳腫痛と

治す

升麻 當飯 黃連

生芥 牡丹皮 各 ○或ハ犀

角と加水 右水煎服す

○麻疹

疹の初發傷寒小類す只疹と面

赤く手の中指冷を以て知す

○初て發熱との療治痘瘡の

初發小同 升麻葛根湯敗毒散

の類考へ治す

●犀角解毒湯 麻疹已小出大



小便血吐血衄血 疹多熱渴赤痛 治す

犀角 牡丹皮 赤芍藥

黃連 黃芩 黃柏

山梔子 生苳五分

右水煎 吐血衄血のハは炒黒

の山梔子童便を加ふ

瀉白消毒散 麻疹發熱痛

痒や輕き者小用也

桑白皮 地骨皮 牛蒡子

荊芥 桔梗 浮萍

甘草 右水煎

加味金沸草散 麻疹初起

荊芥 赤芍藥 半夏

麻黃 旋復花 前胡

牛蒡子 浮萍 甘草

薄荷 右姜入水煎す

芩連玄參湯 疹後の咳嗽腹

脹煩燥泄瀉聲啞唇口青黒

と治す

黃連 黃芩 連翹

玄參 知母 桔梗

杏仁 芍藥 麻黃

葛根 陳皮 厚朴

牛蒡子 甘草

右水煎服す

十仙湯 疹後の餘毒を治す







萬膏藥方 一貫  
屠蘇酒方 一貫

袖珍醫便卷之五目錄畢

袖珍醫便卷之五

○雜方部

○圓類

●蘇合圓和劑局方小出諸の急病目暈  
たる氣付なり或ハ痰咽ふゆさ  
？或ハ心痛鬼魅のたふふわい  
物狂く又ハ赤白の痢病小兒  
の驚風搐搦と治す

沉香 麝香 訶子

香附子 丁香 安息香

草撥 白朮 白檀香

薰陸 龍腦 蘇合油

香の内和 各十五 辰砂

烏犀角



右何きと一味げ粉薬とて一安  
 息膏又蜜と入煉合せ乳鉢にて  
 かなふと久しく搗合すべし  
 或ハ丸薬おもするなり。病か  
 きふ常々多く服すべし真氣  
 と散す又風邪ある人服すべし  
 ず只急病と救ふべきなり  
 ●香波萬病圓和劑局方水腫脹  
 滿積聚痔塊心腹痛下血疝氣  
 白痰嗽胸の中は瘀血赤白の痢  
 病小兒の疳疔虫狐臭耳聾鼻  
 塞等の證と治す  
 當飯 芍藥 蒲黃  
 川芎 肉桂 茯苓

乾姜 防風 山椒  
 細辛 桑白皮 草豆蔻  
 桔梗 人参 藜蘆  
 前胡 黃連 黃芩  
 犀角 取遂 大戟  
 雄黃 辰砂 牛黃  
 菟花 巴豆 烏餘糧各  
 芫菁七枚 石蜥蜴三節  
 右散薬とて煉蜜ふく搗合せ  
 丸薬とて又煉薬とて用ひこも  
 わり

●保童圓本香齋丸と名く小兒  
醫學正傳出つ  
 五疳と治す又ハ食と滯積虫肉  
 積腹脹大ると治す其外小兒



の病何...用ひくも...

三稜 莪朮 青皮

陳皮 麥芽 神麴

龍膽 枳椇子 白朮各

川棟子 史君子 黃連

胡黃連 各八分 木香四分

蟬蛻 一个

右別々小散藥...熊の膽と

糊ふ和せ細く丸薬とす。按

と古今醫鑑小右の薬味小

縮砂山查子各一々と加て五積

餅と云小兒疳積肉積冷積腹脹

大いて鼓の如く青く黄みして

肌瘦泄瀉發熱ありて薬應せ

と云と治す云つ

●五疳保童圓 小兒五疳鼻の

下赤爛と瘦けり疳少く瘡癢

出き虫吐腹脹又ハ痛じ等

の證と治す

蘆薈 黃連 夜明砂布

乾蟾 龍膽州

苦楝根皮 蠟退

青黛 蕪荑仁 五倍子生各

麝香少 右別々小散藥かし

糊ふ丸。按古今醫林集要

醫學入門名醫指掌卷下小五疳

保童丸と云わり其小ハ白麩青皮

雄黃天漿子熊膽胡黃連わつ



て蠟退蕪蕪仁（此万何この  
書（出さしを知らず

●秘方保童圓 小兒五疳やせ  
腹くり不食腹（くさくさと治  
就中疳ふく目（はぶき又ハ雀目  
小方（と治す甚（ど効あり

黃連（三分 乾膝 青皮

我木（三稜 丁香

人參（宿砂 使君子

靛黛（薏苡仁（各 麝香（白 朱

右十二味別々小細（粉一隨

分（こり小細（く丸（ト小兒の年（れ

數（や日（小三度用（べ一

○保童圓（の方世間（小秘方（とて

さほくありとゞと今（是小載（る

所（小勝（ぶ方（々

●丁子圓 氣付痰嗽精（れき（呢

逆頭痛腹痛虫積立暗等（と治す

丁子（五分 良姜 肉桂

乾姜 人參（各 香附子

遠志 川芎 木香

陳皮（各 桔梗 當歸（各

黃芩（三分 熊膽（一 地骨皮（六

右十五味細小末（一蜜（や煉（す

●一方丁子圓 坂道林傳

丁子 縮砂 神麩

檳榔子 我木（各一 良姜

白木（各四兩 沉香 桔梗（各二兩



白檀 半兩 乾姜 三々

右十一味細小末一蜜少煉

○丹類

●延齡丹 道三翁 諸の頓死れ氣

付たり或中風痰咽小ぬさる或

心痛腹痛癩癩瘡疾霍亂痢

病婦人血塊等と治す

丁香 沉香 肉桂

縮砂 辰砂 白檀

草撥 甘草 桔梗

木香 各二分 龍腦 八分 麝香 一分

訶子 乳香 各一分

右十四味細小末一蜜少煉

●及魂丹 道三翁 心痛腹痛食傷

痢病泄瀉積聚霍亂吐瀉又小兒の

諸疳驚悸癩癩等の症と治す

木香 鶴虱 菝葜

三稜 陳皮 大黃

胡黃連 黃連 各三分 七厘

雄黃 枳殼 青皮

黃芩 各二分 乳香 丁香 各二分 三厘

甘草 知母 黑牽牛子

熊膽 水小浸一腥氣去り蕎麥粉

麝香 一分 二厘 白丁香 少

赤小豆 生あく用

右二十一味細小末一麩麩蕎麥

粉れ糊あく丸す○又麝香丸と



名く

● 萬金丹 紫金錠 壽世保元 出づ 諸の毒

と解し 諸れ悪瘡を療し 食傷

霍亂赤白痢病をきり 腹痛瘧

牙痛打撲傷くらき 毒虫 螫た

る及び小兒に急慢驚風五疳

婦人の月もく血塊 其外牛馬

の病小用て

山茨菰焙

五倍子焙各

續隨子油と去

麝香細小研

大戟 蘆頭と根と去り洗淨り

右五味別々小粉み 前方

製衣へ端牛七七夕々重陽の日に

糊みく丸す 金箔と衣とん〇合

やうハ前日 齊戒沐浴して

新き衣服と著し 醫者も

直綴と著す 官醫ハ袷束と著

とべ 俗ハ上下と著し 清淨

座敷みく香と焚前の五味の

末を清器小入置紙みく蓋とな

し 出入りし必ず手と洗ひ香と

薫ト合とくき日の未明小起粉

薬と陳天地と拜し 禱心と清淨

小もら敬と存し 修合とべ

乳鉢みく搗合とく 久しく

光の潤へみとかりとん合とり時

喪あし 出家孤臭あし 人悪瘡あし

人又女人犬猫雞小見すこと忌へ



●豊心丹 南都西大寺 秘傳の方より 霍亂吐逆  
 食傷腹痛心痛泄瀉痢病瘧眩暈  
 氣のけさ呃逆惡心嘈雜と治す  
 又諸れ毒けし小用也

人參 縮砂 木香

丁香 藿香 沉香

檳榔子 草撥 白檀 各五分

桔梗 川芎 各一分 甘州 二分

麝香 五厘 樟腦 龍腦 各三分

細茶 三年の者 十五文

右細末を一分一年久き餅と糊  
 とり丸し辰砂と衣せん

○丸類

●六味地黄丸 腎虚瘦弱より

盗汗發熱咽うらさ腰痛と耳鳴小

便のころ遺精をとりと治す

熟苳 八十目 山藥 山茱萸 各四

白茯苓 澤瀉 牡丹皮 各三

右別々小末とね煉蜜あく搗合

と或ハ丸薬とるし鹽湯とて用也

●六味丸小肉桂十文と加へ七味

地黄丸と云腎水不足し虚火の

びりと口舌と瘡をを生ト牙齦

膿爛を咽痛の形マセ盜汗發熱

とらと治す 或ハ五味子四十目

●六味丸小肉桂熟附子各十を加

へて八味地黄丸と云命門の火

衰へて脾胃虚寒と致し飲食



頻りに大便やううふ臍のあたり  
痛く夜小便へ行くと頻く腰力  
かたきと治す

●雲林潤身丸 万病回春肌瘦氣萎

うく飲食進まず精氣のほそた  
ふと治す此薬と久しく服すれ  
ハ手足がづと體肥健となり食  
を進氣根ほくろなり凡て火  
と清し痰を化し鬱と開き脾と  
健より胃と理り血と養ひ氣と和  
す百病と忌所なり勞役の人常  
ふえんと服すとす

山査子 陳皮 枳實  
白茯苓 黃連 芍藥

神麴 香附子 童便製  
山藥 連肉 人參 各  
廿五 廿五 各 廿五

甘州炙 當飯 白木 各  
廿五 廿五 各 廿五

右細末して荷葉の煎汁を  
飯と炊糊とを丸ず山椒の目  
れ大さ毎服四五十九白湯又ハ酒

みく用日小二度とす

●保和丸 食傷吐逆泄瀉胸支

惡心嘈雜酒の二日酔等と治す

山査子 神麴 半夏  
茯苓 蘿蔔子 陳皮

右細末 糊うく丸ず山椒目の

大さ毎服三三粒白湯みく用也



○壽世保元小此方小白木びやくまを加て大  
安丸あんがんと名づく○食傷赤白痢病の  
裏急後重うらきごじゆう小用ひく効のかり

●木香丸 諸の腹あはら痛食傷鬱氣  
胸の支し小兒の虫積疳氣と治す

香附子かうぶし 炒 黃柏わうはく 黑炒 胡黃連こわうれん 和  
炒炒 青木香せいもくかう 五文火と

右細小末さいせうま糊かく山椒目さんしょうめを丸  
丸ト一度いちど廿粒にじゅうりゅうを白湯びやうとうで用也

●養胃丸 酒積胸の痞腹ひふくの痛氣  
鬱食傷泄瀉うきじゆうせりやく虫積不食等と治す

檳榔子べいろうし 木香もくかう 火ひと肉桂にくけい 同  
陳皮ちんぴ 白朮びやく 茯苓ふくろう  
厚朴こうはく 香附子かうぶし 莢木けいぼく

三稜さんれい 各各 甘州かんしゅう 各各  
右細小末さいせうま糊かく山椒目さんしょうめを丸

ト一度いちど廿粒にじゅうりゅうを白湯びやうとうで用也  
○此家傳の秘方このけだんのかくはうなり常小服じょうせうぶくして

脾いと健けん胃いと養やう食じきと消しょうし  
鬱うきと解げ虫むしと殺ころす

●長命丸 小兒五疳せうじごかん夜啼やてい草  
瘡下腹そうげふく赤痢せきり腹の痛塵氣ちんき癖せき雀

目爛めらん目め或ハ腹はら大小脹たうせう驚風きやうふう食じきた  
ころと治す

木香もくかう 大黃たいかう 各各 煨榔子ゑいろうし 各各  
肉豆蔻にくとう 巴豆はとう 油あぶら 各各 六分りくぶん

甘草かんさう 三分さんぶん 人參じんじん 一分いっぶん  
右細末さいせうま 是こゝにこゝ丸がんト二歲にさい以上



の兒こハ一度二ニ三ニ五粒リ用ヒカ

一ノ小兒こ疳下かんげ草下そうげ小こ妙方めうほうなり

●一方ひと秘ひ方ほう家か疳かんの虫むしを治じすべ

妙方めうほうなり

沉香せんじやう少す 人參じんじん少す 藜蘆れいりょ炒しょう

赤せき犬けん膽たん炒しょう 木香もくかう中ちゆう 熊膽くまたん中ちゆう

右みぎ細末さいまつ 熊膽くまたんと水みづ小解せうかい其汁そのじゆ小

て・是こはこ丸わんト小兒この年としハ數かず

ををげげ白湯はくたうをを用もち也

●又方また大和たいわ左近さじん五疳ごかん草下そうげの妙

方ほうなり秘ひ方ほうト

丁子ていし 牽牛子けんぎうし 田生丸石てんせいがんせき

古ふるく白しろけけとと佳よし 巴豆はとう売油うりあぶらと

右みぎ細さい末まつト糊かちちく・是こはこ丸わんト

ト一歳いちさいの兒こハ二粒にりつ二歳にさいハ六

粒りつ三四歳さんしうさいハ十粒じゅうりつ五歳ごさいハ

ハ十五粒じゅうごりつをを用もちカ一ひと嚙かみみずす

服はくヤヤト

●桑山そうざん小粒丸せうりつわん 小兒こ五疳ごかんの妙

藥やくなり

苦參くさん 白水はくすいハ一夜いちや漬洗じくせん 莪朮おじやく四分

黃栢わうはく八分はちぶん 黒燒くろやきトト 麻あし沉しん白はく泉せん

ト一夜いちやつけつけ敷敷 右みぎ細さい小粉せうこなト

是こはこ丸わんト小兒この年としハ數かずハ

ト用もちカト小兒こハ諸病しよびやうト

●又方また家傳かでんの 小兒こ諸病しよびやうト治じす

赤せき蛙わ 日干にっかんトト 史君子しきんし五分

胡黃連こわうれん五分ごぶん 麻あし沉しんト



蕪荑仁三 栝椰子二 熊膽一

右細末 熊膽と水小とき其汁

て・是れ丸ト小兒年の數

と用也 疳みく色々病を

症出さ小何小用ひくと妙あり

●九虫丸 一切れ虫みく腹腰を

痛め息絶すと治す常小腹の痛

虫積支疝氣小用ひくと

南木香 栝椰子 莪朮

三稜 苦辛 黃柏各

右細末 一はくられ煎汁と糊

ませて・是れ丸ト一度小十粒

かきつ用也 又散薬みく用

●百粒丸 大酒と飲と思ふとき

前方より服用すればや々と飲

ても悪く酔す二日酔とせぬる

又大小酔正體なく又二日酔

みく頭痛心もろき小用ひくと其

きく醒るなり

葛花大 茯苓 葛根

天門冬 木香 縮砂

薺菴 牡丹皮 肉桂

-5 305 35 685" data-label="Text">

枸杞子 陳皮 澤瀉

-45 305 5 685" data-label="Text">

小豆花 各等分 甘草少

-85 305 45 685" data-label="Text">

鹽少 右細末 蜜又ハ

-125 305 85 685" data-label="Text">

糊みく・是れ丸ト每用十四

-165 305 125 685" data-label="Text">

五粒づ用也 飲酒の人常小用也



一酒毒小中...云々

○散類

●安神散 一切心氣不足怔忡

驚悸健忘夢遺目赤立止

或八産後血虚一氣...用之

又常小精の...用之

茯苓 茯神 黄芪

遠志 人参 桔梗

山藥 木香 辰砂

甘州 右細末一薄茶一...

ら白○是本辰砂妙香散と云方

かりこれ八麝香あり麝香去

ひか...用之

●黑神散 産後の一切の病

或ハ胞衣の下さるも子腹中

少く死さるも其外あり目

ひか...用之

黑豆 炒半 熟苜 當飯

肉桂 乾姜 炮 芍藥

蒲黄 各等分 甘州 三分

右細末一每服二文...白湯又

ハ酒みく用之

●香薷散 暑氣と...霍亂

吐瀉腹痛と治す夏の暑氣に

よ中ハ毎日一二服...用之

服

香薷 百目 厚朴 五十 陳皮



茯苓各三 甘州三々又去て

右散藥を冷水又ハ白湯を

一度一々用也

●益元散 暑氣をくく霍亂

小便通せざると治す暑熱のつ

き時分水と飲さき此藥を服す

べ俗是と水飲藥と云リ

滑石 白之の赤色 甘州十々

右散藥を水又ハ白湯を

用也

○煎湯 并諸家の秘方

●蘇人湯 諸病を加減して用

也奥小詳なり

陳皮 紫蘇 香附子

白朮 人參 元氣よくきか

茯苓 各等分 甘州三分

右水煎常れ如し

○加減法

○頭の痛ハ川芎白芷と加ふ○

咳ハ杏仁五味子桔梗と加ふ○

腰痛ハ杜仲茴香と加ふ○腹脹

ハ枳壳と加へ香附と倍す○胸

の内痰たまりハ莪朮縮砂と

加ふ○脇筋張ハ枳壳半夏と加

ふ○大便通ぜんハ大黃芒硝と加

ふ○小便通ぜんハ澤瀉木通と加ふ

○腹痛ハ芍藥肉桂と加へ香附子

と去○痘疹ハ外麻葛根と加ふ



○瘡かさハ常山じょうざん栝柳くわりゅう草果そうくわを加ふ  
○口乾くちかん身煩みわづらハ葛根くわこん柴胡さいこを加ふ  
○冷ひやて腹痛ふくうハ乾姜かんきやう肉桂にくけいを加ふ  
○身みづづづハ桂心けいしん麻黄まわう芍薬しやくやくと  
加ふ○足浮腫あしうしゆハ大腹皮たいふくひ木此もくし  
五加皮ごかひを加ふ○食進じきんすハ縮砂しゆくさ白  
豆蔻とうこうを加ふ○吐逆とぎやくハ丁香ていこう縮砂しゆくさ  
と加ふ○腹はらはららはららハ白木はくもく  
を増干姜ぞうかんきやうと加ふ○小瘡せうさうハ大  
黄わう黄連わうれん黄芩わうじんと加ふ○久ひさき嗽せきハ  
桑白皮そうはくひ柴胡さいこと加ふ○熱氣ねつき目めハ  
大黃たいわう荆芥けいがいと加ふ○冷ひやの目めハ桂  
心けいしん細辛さいしんと加ふ○血目けつめハ川芎せんきゆう地  
黄ぢわうと加ふ○ほけの目めハ黄連わうれん地

黄わうと加ふ○ままままと目めハ枳壳しやくかく  
川芎せんきゆうと加ふ○目の後前あごさきハ肉  
出でハ川芎せんきゆう地黄ぢわう細辛さいしんと加ふ○う  
ハ地黄ぢわう車前子しやぜんし川芎せんきゆうと加ふ  
○中障ちゆうしやうハ兔絲子うしし石櫟せきれき川芎せんきゆうと加  
ふ○くくくく目めハ川芎せんきゆう車前子しやぜんし  
と加ふ○目舞めまハ川芎せんきゆう細辛さいしんと加  
ふ○松風しょうふうのややハ頭の鳴なハ細辛さいしん  
白芷はくしと加ふ○蟬せみの鳴なハ頭のな  
ハハ川芎せんきゆう白芷はくし桂心けいしんと加ふ○と  
んくと頭の鳴なハ川芎せんきゆう麥門冬ばくもんとう  
と加ふ○痢病りびやう白はくハ木香もくかう訶子かし肉豆  
蔻とうこうと加ふ○香附かうぶと去さ○水みづ下くだハ白  
木もくと増厚朴ぞうこうはくと加ふ○寸白すんはくハ胡椒しやくわ



三稜さんりょうと加くわ小せう○疝氣せんき小せう車前子せんぜんし木香もくかう  
茴香かいかうと加くわ小せう○長血赤ちやうけつせき小せう牡丹皮ぼたんひ蒲  
黃ぼと加くわ小せう○長血白ちやうけつはく小せう黃芪わうぎ當歸たうき  
と加くわ小せう○脚氣けうき小せう烏藥うやく茯神ふくじんと加くわ小せう  
○腰こしちくく小せう桃仁とうじん杜仲とちゆうと加くわ小せう○  
傷風しやうふう小せう人參じんじんと去きリ本方ほんかうと用よう  
也なり○傷風汗しやうふうあせ出でるる小せう麻黃まわうと節せつ  
ななと用よう也なり○傷寒しやうかんにには藿香くわかう前  
胡ぜんこと加くわ小せう○謔語せつご云いふふ小せう柴胡さいこ遠志えんし  
束たばと加くわ小せう○積聚せきく小せう大黃たいわう枳し榔らう子し  
と加くわ小せう○氣積きせき小せう茴香かいかう縮砂しゆくさ丁子ていし  
と加くわ小せう○血塊ちやくくわい小せう莪朮おじやく三稜さんりょうと加くわ小せう  
○疔てい小せう五香ごかう一いつ小せう乳香にゅうかう木香もくかう香藿かうかう  
香かう沉香せんかう丁香ていかう香かう大黃たいわうと加くわ小せう○内

癰おん小せう黃芩わうじん黃連わうれん大黃たいわうと加くわ小せう○ひ  
ううと加くわ小せう五香ごかう防風ぼうふうと加くわ小せう○黃疸わうたん小  
小せう柴胡さいこ藜蘆りり遠志えんしと加くわ小せう○節せつ々々腫しゆ  
痛いた小せう五香ごかう小せう乳香にゅうかうと増ぞう黃芩わうじんと加くわ小せう  
小せう○齒草しやくそう小せう乳香にゅうかう黃芩わうじん地黃ちわうと加くわ小せう  
小せう○小兒せうじの手て足あし小せう瘡そうああるる小せう○括くわ婁ろう  
根こんと加くわ小せう○小兒せうじ口くちより虫むし出でるる小せう○丁  
香ていかう縮砂しゆくさと加くわ小せう○舌ぜつ小せう瘡そう出でるる小せう○地  
黃ちわう乳香にゅうかうと加くわ小せう○唇しんと瘡そう出でてて愈いふふ  
小せう○小せう黃芩わうじん木瓜ぼくわ黃連わうれんと加くわ小せう○白  
芥かいと加くわ小せう○小せう荊芥けいがい地黃ちわう黃芩わうじん乳香にゅうかうと  
加くわ小せう○黑くわいかかままららまま小せう荊芥けいがい威靈いれい仙せん  
と加くわ小せう○仁にんとくとくとくとく小せう荊芥けいがい白強はくかう蚕さん  
麻黃まわうと加くわ小せう○とととと小せう前胡ぜんこ車



前子黃芩ぜんしきやうせんと加ふ○痔漏しりゅうは川芎きやうきやう黃芩きやうせん地黃ぢきやうと加ふ○癩病らいびやうの黒くろ小せう白花蛇はくはなへび大黃だいきやう黃芩きやうせんと加ふ○同赤どうせき小せう烏蛇うへび黃芩きやうせん黃連きやうれんと加ふ○凡たゞ癩病らいびやう小せう烏蛇うへび白花蛇はくはなへび靈れい天蓋てんがいと加ふ○同眉どうめい小せう烏蛇うへび何首なにくび烏う大黃だいきやうと加ふ○同瘡どうそう小せう五香ごかう大黃だいきやう黃連きやうれんと加ふ○切きり草くさ小せう五香ごかう黃芩きやうせん大黃だいきやうと加ふ○穴あな草くさ小せう五香ごかう黃芩きやうせん大黃だいきやうと加ふ○草くさ中風ちゆうふう手足てあし不ふ用よう小せう黃芩きやうせん木もく瓜うり白強蚕はくきやうさんと加ふ○手足てあし不ふ用よう小せう黃芩きやうせん木もく瓜うり白強蚕はくきやうさんと加ふ○小せう黃芩きやうせん蒼草そうそうの葉はと加ふ○月つき

口引くちひき小せう薏苡仁ぎいじん麻黃まきやうを加ふ○金瘡打疵きんそううちしのうづうづ小せう黃芩きやうせん莪が木もくと加ふ○同疵どうし小せう地黃ぢきやう阿洗藥あせんりやくと加ふ○疵癰ししやう小せう五香ごかう大黃だいきやう黃連きやうれんと加ふ○疵し小せう大黃だいきやう黃芩きやうせんと加ふ○疵血しけつ小せう小せう麒麟竭きりんけつと加ふ○亦粉よくこな小せう細辛さいしん川芎せんきやう蒲黃ぼきやうと加ふ○鼻血びけつ出でて止とどまま小せう山梔子さんし烏梅うまいと加ふ○鼻び小せう赤草せきそう小せう大黃だいきやう黃芩きやうせん山梔子さんしと加ふ○女人陰内腫にんないしゆ痛いたし小せう車前子せんぜんし菝葜はくせつと加ふ○セビセビ小せう犀角せきかく遠志根えんしこんと加ふ○



かろ多く小こ地ち黄わう芍せき藥やくと加く小こ○  
走そう草そう小こ前ぜん胡こ乳にゅう香かうと加く小こ○膈かく  
症しやう小せう蕪わう荑てい仁にん木もく香かう丁てい香かう皮ひを  
加く小こ○じじやや小せう良りやう姜かう丁てい香かう縮しゆく  
砒びと加く小こ○こころろひひ小せう訶か子し木もく香かう  
と加く小こ○こころろひひ小せう羌かう活かつ桂けい  
心しん木もく瓜かを加く小こ○小せう舌しやう小せう地ち黄わう苦く  
韋わい前ぜん胡こと加く小こ○中ちゆう風ふう齒しとくひ  
けけじじ小せう獨どく活かつ桂けい心しんと加く小こ○同  
身しんろろづづくく小せう芍せき藥やく肉にく桂けいと加く小こ○  
同どう下げ小せう藿くわく香かう肉にく豆とう蔻かうと加く小こ○  
同どう腦のう入にゅうろろづづくく小せう香かう附ふと増ぞう川せん芎きゆう  
と加く小こ○同どう手て足そくすすくくじじ小せう附ふ子し  
麻ま黄わう桂けい心しんと加く小こ○同どう腰ようたたくくぬぬり

八はち鳥ちゆう頭とう附ふ子し木もく香かうと加く小こ○肩けん背はい  
痛いたくく小せう芍せき藥やく肉にく桂けいと加く小こ○同どうせ  
んせんとくとく小せう麻ま黄わう桑そう白はく皮ひと加く小こ○  
腰ようろろ下げ小せう瘡そう疔りゆう小せう骨こつ碎さい補ほ  
川せん芎きゆうと加く小こ○  
○産さん前ぜん小せう藿くわく香かう當とう飯はんと加く小こ○  
同どう腰よう痛いたくく小せう白はく木もくと増ぞう遠えん志し椒けう  
と加く小こ○同どう身しん腫しゆ小せう桑そう白はく皮ひ木もく  
通つうと加く小こ○同どう血けつわわりりとくとく小せう芍せき  
藥やく當とう飯はんと加く小こ○同どう血けつたたりり黄わう芩きん  
當とう飯はん枳し殼かと加く小こ○同どう吐と逆ぎやく小せう陳ちん  
皮ひ縮しゆく砂さと加く小こ○同どう身しん老らう瓜か小せう姜かう黃わう  
羌かう活かつ麻ま黄わうと加く小こ○同どう足そく浮ふう腫しゆハハ五ご  
加く皮ひ木もく瓜か大たい腹ふく皮ひと加く小こ○同どう小せう瘡そう







升麻各二分 胡椒火と 甘州各一分

右水煎一用也

●濃州山田振藥 金瘡產後并

小血留氣付内藥付藥みか此

一義と以て療治ゆるなり

當飯川芎 芍藥

地黄人參 青木葉

右霜み葛粉各等分小合せ

幾度も飲すべし一疵ふらら肉わ

りてりり次第く小加へ葛の

粉等分はとも少白こが

ら小合すべし

人參芍藥 川芎

桂心當飯 木通

川骨甘州

右摠の三增倍入能わづり温湯

小振出一用也又煎しても用也

ふかり

●山田振藥五香湯産後産前血

の道をいり狂氣大熱目眩打

身手負一切の症小良

人參肉桂 桂心

川骨黃連 黃芩

當飯山藥 川芎

大黃木香各等分甘州少

○虫氣ある小ハ換柳子加上

右常の如く小調合一給ふ出し

一五度り用ひ後常に如く煎



ト服す

●白朝散 家秘の産前産後此諸  
症金瘡打身くらきの主方なり

人参 木香 大黃

當皈 川芎 益母

芍藥 地黃 鬱金

陳皮 丁香 乳香

茯苓 蘇木等各 甘艸少

右常此如く小合セ振出一用也

○血留少り麒麟竭と少加ふ

●神保血縛藥 産前産後手負

の妙方帶ととも寝せてと吉

あ かしげ 十八角豆生春

河骨五 藜 百草

黒胡麻各三分

右黒焼み細末一用也

●あひす藥 打身の妙方

百草酒み 河骨鉄と忌

十八角豆去皮と

右細小粉み又ハ黒焼と丸〇

右此内へ紫荷車黒大豆の葉二

色の黒焼等分と右三色の藥一

兩み分みバ二分みり加へ服す

時焼鹽少一入上戸下戸も

酔み酒み用みなり〇手

負産後ものぐらいすと忽ち治

するみなり

●甘投散 赤白痢病如何なり



小大事及がと治す秘傳

罌粟二兩 荊芥穗二兩

茶同量茶と用也

右細末一茶一服赤痢少は

胡桃の大さ蓬と煎ト其汁

小き立て用也白痢あるば

飯れ湯みく用也痛しふハ

生姜入煎ト用也煎どし時

三色の薬等分小調合一用也

小兒尤も

●腹薬和州三輪赤白痢病と治す

久く愈す毛がう痛し用

也

罌粟二兩 阿膠二兩 甘州妙

右水二盃一盃煎ト

用也

●又方勢州多氣國司痢病いろ

くと薬用ひく驗ると治す

柘榴皮 人参 甘州各

右粉りく硫黄と三分一加へて

米れ粉みく一々服と一應

すバ三度まで用也一愈す

云し

●又方賢聖寺傳痢病妙薬

黄栢黒焼粉 同生の

酢将百草黒焼

右三色等分小合と麩糊又と

葛糊みく榎の實と丸ト



粒蓬の莖煎汁みく用也

●又方 小兒の痢病尤も

朱砂 巴豆 各等分

右粉みく小麦粉糊みく是

丸ト五歳まで三粒

用也ト大秘方なり神仙丸萬

億丸ト云リ

●こころり腹の藥の相傳

丹雞糞 多少みかりん

右の糞と土器不入炭火上置

て少煙の立りて焼て粉み

茶一服み用也ト無上秘藥

なり焼過せば効さなり色み

なり焼過り中れ分ハ生焼ると

搥へませ合せて粉み用也ト

●霍亂の振藥 霍亂腹痛吐

瀉と治す

木香 藿香 益智

右等分一及二三分の重み合

せ温湯小振出し用也ト

●瘡の妙方 色々として落

ゆき瘡小用ひく妙なり殊小

虫瘡小良

檀榔子 蓬莖 三年み

常山 右等分常の如く煎

ト用也

●又方 日發虫發の秘藥なり

菖蒲根 土氣と能洗て好酒



小一夜せしめて服す若落と牛  
膝の根とそききりぎく前  
菖蒲にけける酒同くせし  
て吞べし神便方なり

●又方 菖蒲の根とたき  
しきく酒ふせし其汁中  
脂糟と炮て粉ふらす糊  
とわらじ煎して星の影  
けして發日れ朝服す

●又方 落しひる瘡小用  
驗わり摺して瘡ハ三發  
て落とく早落セハ害あり  
遅々色ハ草卧出るなり  
柴胡 陳皮 各等分

右一々五分なり合せて常  
如く煎し發日れ朝用也  
和して老人虚人などの瘡  
用ひく良

●又方 富樫民部少輔傳  
黃蘗 厚朴 良姜 各等分

右三味濃煎して服す水ハ寅  
の刻小南と向て汲べし東へ  
向て吞むなり

●瘡の秘灸 五年三年ふさ  
瘡と根と切じし云々  
男ハ左の足女ハ右の足の  
真中の陷れ所と三火五火灸す  
若落すハ七火十一火灸す



奇妙の灸なり

●疝氣の妙方

胡桃肉 黑胡麻 紅花

右各等分常々如く煎下服す

●又方 疝氣年久しき愈さ

すと治す秘方なり

人參 柴胡 川芎

紫蘇 肉桂 橙<sub>子</sub>

覆<sub>盆子</sub> 樵<sub>節</sub> 杠<sub>葉</sub>

鼠尾<sub>艸</sub> 仙草<sub>各分</sub> 甘<sub>艸</sub> 少

右常々大服して煎下用也

●虫腹妙方 虫腹頻小痛とき

上て息と引けしと治す

良姜<sub>三兩</sub> 厚朴<sub>二兩</sub> 乾姜

桂心 胡椒 楊梅皮<sub>各</sub>

甘<sub>艸</sub> 二分

右細末粉薬少く用也又八糊

て丸せり

●又方 虫胸へありし痛と

し身よりし働さぬやうふ苦し

と治す奇妙の方なり

薏苡根<sub>剉濃煎</sub> 服す

●又方 箏<sub>籟</sub> 黑燒 鍋炭

右二味等分鹽<sub>水</sub> 入服す

●又方 安氣散 虫腹冷痛食た

すあく腹痛し小良

楊梅皮<sub>針</sub> 胡黃連<sub>和</sub> 胡椒<sub>五分</sub>

右細粉<sub>水</sub> 白湯<sub>水</sub> 用也又



丸薬不すもい

● 齒齲の薬 藜蘆根と米泔水

不十日はけ竹筥みく對こ日小干

石臼みくひき細小末しあいて齒

痛じ方の耳れ内へ管みくいも

けり吹入へし少くあつて痛ま

ひりり藜蘆ハ鐵氣と忌なり

● 又方 鹿の角といふを細く

粉みく髪れ油みくこき齒の痛

じ方の耳へ入るなり

● 又方 枚のやふと虫の食

齒れ中へ入て置ハ痛止るなり

● 口中痛哈藥

薄荷 各等分

右黒焼し水ホリ立合じか

ア若吞ニムとと之苦りん

● 舌爛 妙藥

白朮 黒焼 干葷 同各 廿州 少

右細小末と紺色と含なり

● 齒草藥 凡て口中痛又ハ

腫爛 付て妙なり

紫檀 地黄 川芎

丁香 乳香 礬石 各

細辛 二分

右細小末と蓮の葉と黒焼し

て前の粉藥は黒色ふるふふ

合せ銀ふねなり

● 喉痺の薬 鳳仙花の實五つ



毛十も吞へし其まゝ頓えし

●又方 芥子とまろ一味粉りて用  
ゆゑし但し皮と去用なり

●耳の痛又痒ふ妙薬 鳶の羽  
と黒焼ふし麝香と合せてし

みの油ゆくととき石菖の根とあ  
ためくそ乳を耳へ指なり

●疣妙薬 石灰と酒小五日浸  
て日小干粉りて酒ゆくととき疣  
の上へ付るなり

●又方 木鼈子と温り疣を  
すゝなり又有馬の温泉を以てさ  
いく洗へば自然に落るなり

●黒癩風の薬 合磁

呉茱萸

輕粉

右等分細小粉りてすい物草の  
汁あくととき湯風呂あくと垢を  
かきこ此薬とくすり付て暫くた  
きく洗わし幾度とすなり

●又方 白癩風紫癩風ともし  
治す妙方なり

肉桂

膽礬

輕粉

硫黄

右四味細小末と葱の白根と  
五六本手一束小切其切口小粉薬

とぬりてすり付るなり如何やう  
の治しごときを愈すやふ

しんま



●胡臭藥 青礞石 石灰

白物 右等分細小粉りして

すい物草の汁みくとき下とす  
て洗うて後ほくもなり

●同灸の方 下は墨

と一へんぬり其まう胡臭のくさ

き穴見ゆるのかうり其あまの

以小常の艾三灸五灸七灸ま

でまじへて尤も効あまなり

●田虫の藥 泥鰌と黒焼りて

水ふとき付るなり

●又方 鐵炮の筒藥と油を

ときはくると奇妙の方なり

●蓮花の藥 小兒の頭瘡なり

が書小軟癬とあり

松篔 黒焼りて髪油

てとき付るなり

●又方 車前筋と黒焼りて

酢みくとき付る秘密の方なり

●焼どの藥 浮萍河の黒焼り

して油みくときはくると生るなり

ぢらみすり付てなり

●又方 生粟とまらして髪油

と灰入水みゆり合せく付るか

又粟と黒焼りて髪油

てとき付るなり

●萬腫物痛と止藥 天南星

細末 酢みくとき付る



●霜燒の妙方 蝨の黒燒ふ末と  
少し合して水小とき付るなり又  
の皮に陰干粉をく付るなり又  
海鼠とあつめ付るなり

●生持の藥 熊膽水小とき付  
る又麒麟竭と少し加へるなり

●又方 雞のこさらの血と付べし  
妙かり其まじ痛と止るなり

●又方 榧の實黒燒して髪  
の油みく付るなり

●又方 馬の油と温て諸の痔  
小付べし其まじ痛と止るなり

●又方 鮫の頭と黒燒して髪  
の油みく付るなり又穀飯ハ谷べし

妙方なり

●淋病の妙藥 男女とも小用也

男女の亂髪各等分黒燒みて  
一度小茶一服をば白湯を

用也酒と好め人小ハ温酒と  
用也奇妙の方なり

●又方 木通三兩 煑御子二分  
甘草少

右常の煎藥三服をばけり  
て煎し用也

●口氣の臭よ妙藥 丁香半兩  
甘草三兩 川芎二兩 細辛

桂心各二兩半  
右細末し蜜みく●是なり小



丸一、夜臥しき二三粒と合せて臥  
べし常あも一粒は口ふ含あへ  
●諸の毒消れ妙方 青鴉の黒  
燒諸毒と消なり又くららみう整  
まことあも吉なり

●又方 棋椰子と粉りて吞べ  
一又他ふ出るこゝ 此藥と一服吞  
て出まハ其日一日の中毒ふわ  
らぬるり第一小兒の虫より

●又方 毒除散 櫻櫚の葉と干て  
剉と粉りて白湯みく服とべし

●又方 唐の赤豆と細小剉て  
白湯みく吞べし又山梔子と煎  
とて吞べし

●消毒散 無上の毒消なり

田稗とく稻小雜つとく人の食  
とく神小く似る草あり其と  
粉りて白湯みく服とべし

○搥とて毒小中まバ目一向  
小見ぬものなり又唾を水ふ吐  
せと見小毒入中まバ唾沈む  
ことなれバ唾浮ものなり是  
等と以て知べし

●山科金屑丸 又しての并毒消  
の秘方なり

菊銘石二兩 硫黃一兩半  
葛粉 右細末一丸ト  
金箔と衣とん秘すべし



●下疳の藥 阿仙藥 黃柏

蛇骨 楊梅皮 朱少

白粉 腹中虫 黑燒

右細小末一髪の油ふくこまほ  
くふたり又そのまひ移りかた  
しとあり妙藥なり秘とす

●下疳瘡洗藥

黃連 黃柏 當飯

白芷 獨活 防風

芒硝 荊芥 烏梅各

右錢五十文と鹽少一加常の

如く煎とさしく洗ふべし藥

冷く又温びべし

●横痃の藥 遠志の粉と酒

一夜浸て細小もろく上小浮を

少一内へ服下と鳥の羽あく

細々付るなり上皮へ少一物吹

出て愈るなり

●諸の草瘡の妙藥

黃柏 黑燒 款冬根 たくまき水

みくは 輕粉加

右鳥の羽あくこ一付べし但熱

大なる輕粉とすこま

●合掌散 遍身小瘡と生ト

色々の療治効あると妙なり

煇椰子 五硫黃 五臍粉 五分

右細小粉めて髪油あてこま

付るなり



●脚氣妙藥 太田家の秘藥なり

白檀 黒焼酒消す 大黃 生粉  
榆甘皮 生粉 飯櫃茨 黒焼

さんごりの實 生粉 天南星 生粉

右等分 細ふ末 糊と梅の酢

てとと合せ痛じ上小付るなり

●又方 干蕨 三年煮 黒焼

と酢あくととき付るなり

●又方 脚氣はく痛じと治す

くの木の皮と煎と洗之

●そこまめの妙方 鯨のむげを

ふきやと粉ふくそくいあく押ま

せ付べし紙とゆとあけて置る

うは早く付べし其ま痛きを

止愈るなり

●打身くらこの妙藥 或ハ骨

とたるひよるハ違々上小付

るあり

石菖 黒焼 田螺 かき

車前の葉小搗合せ酢あくのそ

付るなり

●又方 足とくらこの手と打折

痛こうはくと治す

山椒の目と研碎て付きハ即

ちうづきを止るなり

●又方 楊梅皮 胡瓜

小麥 石等分 細小粉

て薄糊又ハ紺屋の糊あくととき



伝る妙なり

●又方 檜の黒焼又ハ牛の額  
と云草陰干して黒焼あり  
酒あり服す又酢と糊ふまを  
きほくらるなり

●手尺ふくひの立と拔薬

柚實

乾州



右等分細粉ふしてよくいそ  
祈り付べし一夜の中ふくひぬ  
けく痛く其まじり

●萬疰薬の方 家傳秘方

阿仙薬分 沉香一分 丁子二厘

右各粉ありて調合す切疰腫物瘡  
氣の類たまり或ハ毛切すりむき

灸のいぬるわらふくひせんの水

瘡たきふ元も効ありあるなり

腫物おかしきあわバ白粉とせ

かへく用ゆるなり

●草鞋の喰く妙薬

黄栢の粉油ありとまきほくら

又ハ其まじり移りかくるすりび

きよも良

●衝目打目の薬

龍腦 麝香 朱砂

右三色研合せと女の乳汁

とまき入る妙なり

●龍腦散 間嶋流極意の秘

方一切の眼病あり



石膏 其儘 爐岩石 同 燒 白礬 同 燒

辰砂 水飛 丹 其儘 燒 焰硝 其儘

芒硝 朱妙 中 貝石 燒 真珠 其儘

寒水石 妙 蛇骨 燒 麝香 研

龍腦 朱研 二 古肉 黑燒 古丹 其儘

牡蠣 燒 白龍骨 燒 樟腦 一分

右極て細ふ末し 子藥とん又白

蜜ふく煉指藥とともすなり

●眼病洗藥 病目爛目血目と

まつげ溢目萬ふ

沉香 少 荊芥 中 五倍子 中

黃連 大 黃栢 中 開元錢 十文

右常の如く煎し縮み浸し

く洗之

●明眼地黃圓 虛症少く眼花

まひ物見かきと治す

熟地黃 兩 生地黃 杏仁 各

牛膽 枳殼 石櫛

防風 一兩 右細末し蜜ふ

是れ丸ト三十粒げ用

●小兒疳目秘方

龍腦 麝香 各 雀子

赤石脂 各 雀貝 二朱

真珠 代散石 角石 各

右能くすりて粉こなりかき又

白蜜ふく煉指とん

●乳癰妙藥 聖養傳 神仙氏



散と名づく

瓜蒌實一兩 沒藥二錢 乳香二錢

甘草一分 右酒水各半常の

如く煎服 畢て夜とみこ

きく睡りて汗とみこ

●同付藥 天南星 貝母

右等分酢ふくとき付る

●小兒急驚風妙藥 留庵傳

丁子 藿香 沉香

木香 鬱金 升麻

葛根 大黃 黃芩各等分

紅花右搗藥半

右常の如く煎用也○乳とわ

まらふハ桔梗半夏縮砂と加ふ○

かゝい出ふハ青皮三棱芍藥

と加ふの腫氣あるハ大腹皮

を加ふ

●同五疳小妙藥

初赤蛙田又ハ野の草村あり

中阿仙藥其まき粉あり

後干漆かて煙とけくして

右香やうハ先一番小初やあふ

藥と小きじよ一まきひ又ハ二す

くひやう白湯ふく用也一驗

一もたうハ中藥後藥と前の如

く用ひそれありも効たうハ三味

と等分ありて煎うりも多く用也

人ふり日ハ一度二度三度まで



通用也 藥云り

●小兒頭の瘡此妙藥 雜奴傳

蒼葦葉 黑燒

右藍らうふく餅り合之付るなり

●同面口邊頭の草瘡の妙藥

生ず蔓草なり小さい 赤き實なるなり

右胡麻の油みくとき付る奇妙

小愈るものなり

●小兒のくもき瘡此妙藥

虎皮 毛をもふくろやま

右髪のおみくとき先鹽湯みく

洗ひく後付る奇妙なり

●同瘡の虫此妙藥 井関氏傳

煎土肉 燒 木香 檳榔子 各

はくろ 莪朮 各

青蛙 半兩 色よわろ

右るるや 細お粉みして 是や

ど糊あく丸ト甘州と衣とん

●孫仙少女膏 顔容と洗ふ

黃栢皮 三寸 土瓜根 三寸

末七 右同く研細り

して膏こし常小朝起 ころひふ

湯よ化面と洗ふ旬日の後容少

女の如く麗しこれと以て洗浴

す尤と神妙なり

●楊太真紅玉膏

杏仁 滑石 輕粉



右三味等分細末し蒸過し龍

腦麝香ウツクりウツクとウツク入ウツク雞子の清

とウツク以ウツク調ウツク早起ウツクて面ウツクと洗ウツクひウツクて後

匙ウツクとぬウツク旬ウツク日ウツク後ウツク色ウツク紅玉ウツクの如ウツクし

●白髪ウツクと黒ウツクくウツクすウツク方ウツク 烏麻ウツクを

九ウツクとウツク蒸ウツク九ウツクとウツク晒ウツクしウツク末ウツクとウツクすウツク一ウツク束ウツク

の肉ウツクとウツク以ウツクて丸ウツク服ウツクすウツク古ウツク今ウツク医ウツク統ウツク

●又方 髮ウツク脱ウツクて生ウツクせウツクらウツクと治ウツクす

甜瓜ウツク葉ウツク 搗ウツクらウツクりウツク水ウツクを塗ウツクる

古ウツク今ウツク医ウツク統ウツク  
み見ウツクりウツク

●又方 髮ウツク脱ウツクて生ウツクせウツクらウツクと治ウツクす

桑ウツク白ウツク皮ウツク四ウツク分ウツク 水ウツク二ウツク椀ウツク煎ウツクずウツク

とウツク五ウツク六ウツク沸ウツクしウツクとウツク津ウツクとウツク去ウツクりウツクと洗ウツク

ハ自然ウツク小ウツク落ウツクずウツク落ウツクるウツクものハ又ウツク生ウツクる

かウツクりウツク 古ウツク今ウツク医ウツク統ウツク  
み見ウツクりウツク

●婦人ウツク前ウツク陰ウツク痒ウツク妙ウツク藥ウツク 井ウツク関ウツク傳ウツク

荊ウツク芥ウツク 蛇ウツク疔ウツク子ウツク各ウツク 白ウツク芷ウツク

明ウツク礬ウツク五ウツク分ウツク 防ウツク風ウツク五ウツク分ウツク

右常ウツクの如ウツクく煎ウツクどウツクてさウツクいウツクく洗ウツク

クウツクベウツク

●龍王湯ウツク 伊ウツク州ウツク赤ウツク井ウツク 産ウツク前ウツク産ウツク後ウツク金ウツク

瘡ウツク打ウツク身ウツクくウツクらウツクとウツク落ウツク馬ウツク目ウツクまウツクひウツク等ウツク

十ウツク切ウツク小ウツク良ウツク

人ウツク參ウツク 柴ウツク胡ウツク 陳ウツク皮ウツク白ウツクと

薰ウツク陸ウツク 沒ウツク藥ウツク 白ウツク木ウツク炒ウツクる

棋ウツク榔ウツク子ウツク 鬱ウツク金ウツク 姜ウツク黃ウツク

枳ウツク壳ウツク炒ウツク 宿ウツク砂ウツク 香ウツク附ウツク子ウツク炒ウツク

肉ウツク桂ウツク 木ウツク香ウツク火ウツクと 黃ウツク芩ウツク炒ウツクる



各一分  
 升麻  
 當歸  
 防風  
 生苧酒の夜浸  
 白芷各分  
 沉香  
 甘州炒  
 川芎  
 莪朮  
 黃芪  
 丁香俱小  
 滑石生  
 桂心  
 紅花  
 芍藥各

右三十一味細小判之給の袋小入  
 熱湯みく振出し用口五度ほど  
 振出しあそを常の如く煎し  
 用口一入秘方なり

●保々振藥 血道打身くまき

瘡一七瘡白血長血産前産後  
 或ハ胞衣下らざる小金瘡血止  
 萬小妙なり

人參炒 川芎生 茯苓炒  
 黃連炒 黃芩同 白朮同  
 良姜同 當歸同 木香火を  
 縮砂生 地黃炒 大黃生  
 桂心火を忌む 甘州少  
 右細小判之絹一包之熱湯み振出  
 一四五度も用ひあそ常の如く煎  
 下用口〇但女の白血は時ハ白  
 桃の花は干すと加ふ長血の  
 時ハ白雞頭は花と加ふ  
 ●紫野五靈膏 萬小まこ眼  
 藥なり

龍腦一分 麝香二朱 硼砂二分  
 蘆岩石二分 寒水石同 黃連八兩



熊膽一分 杏仁二兩 防風同

赤芍藥同

右をふるやど 細く粉やして白蜜  
みく煉なり

●又五靈膏 同前

黃連 四兩 防風 一朱 芍藥 一朱

杏仁 一分 右細末 一水二分

八合一 升ふるやど 煎下

能々 漉焼物の藥鍋 入五合を

うり 小なるやど 添りて 又緝りて

漉能加減 小煉て

龍腦 一朱 麝香 一朱 蘆寒石 一朱

礪砂 一朱 熊膽 一朱 澤と二一七

右五味なるやど 細く粉やして

煉う ぐんぐん 調合せらるなり

●大明膏 まけそこひ 萬小良

目藥なり

辰砂 三朱 蘆岩石 中麝香 一朱

龍腦 一朱

右をふるやど 細く末 一白蜜と

以て煉なり

●紫金膏 内障外障 けり目

たき目まけ 努肉血目病目

すこ目目疣 一切の眼病 小ま

くく 妙藥なり

沉香 一分 白檀 一分 紫檀 一分

黃連 六兩 地黃 二兩 鬱金 二兩

大黃 一分 黃芩 一分



右ハ味水二升八合入き四合をうりみ  
煎ド布み、漉さく又絹み漉念  
と入焼物の藥鍋ふ入煉なり

金薄七枚

銀薄二枚

紫根洗居さ

杏仁二兩

右四味細末して前の煎藥の内

へかへさく又

龍腦一朱

麝香一朱

樟腦一分

焰硝二朱

明礬一分

蘆石一分

右なるを細小粉して右の煉  
藥の火氣とさゆいて後み加  
ふなり

○膏藥部

●萬病無憂膏一名ハ神祕萬金膏と云リ

風寒濕氣小傷らも或ハ打身く

りさ金瘡一切の痛と治すみか

患るどころ小貼るなり或ハ心腹

肩腰痛じ小貼じ上小貼る又喘

息痰嗽ハ心と背と貼るなり

泄瀉赤痢は臍の上貼る頭痛又

眼痛じ小兩の采と小貼るなり

摠トて一切の名も知さぬ腫物癰

疔瘡灸瘡と小瘰癧濕毒腫瘡

等と治す凡そ腫物初て痛と痒さ

しを覺はするら其患る處小貼

きバ即ち消す已小腫物さたりも

と能痛とを止膿とくハ肉と

長し愈肉と生トてかたむなり



其功は... 述...

川烏頭 草烏頭 大黃 各

當歸 赤芍藥 白芷

連翹 白蘂 白芨

烏藥 肉桂 木鱉子 各

槐枝 桃枝 柳枝

桑枝 束枝 各

○苦參 皂角刺 各五錢 加方

○蘇合香 二錢 加方 尤も妙

のりを云り

右判... 香油と二斤を用ひ  
前の藥を一夜浸し火を用て  
熬藥焦色小至て生絹と以て漉  
渣と去油を以て再び熬一沸小

へく水飛の黃丹百二十目と入を  
炒過し槐柳の木れ棍を以て手を  
もみぐ攪煉て水の中へ落し  
て珠をふる時火と離し乳香  
洗藥の粉と各四錢と入攪を  
のり收り貯へ火毒とよくやうな  
して用ゆるなり

●神仙太乙膏 癰疔其外之

ろくの惡瘡軟癰新久と問す  
並ふこれと治す或ハ獸咬虫  
小螫まじ或ハ切疵燒びと皆外  
貼べく内へ吞べ

○癰疽ハ先湯みく瘡を洗ひ  
軟るる絹みく拭乾し膏藥と



貼水ちすいやう内うちへも服用くわんりやうせよ一血いっけつ  
氣通きつうせどんどん温酒おんしゆかゝ用也

○赤白帶しやくはくたい下したふふ當飯たうはんの前湯ぜんたうお  
て用也

○咳嗽がいさう及及び喉痺かいびふふ綿わた上うへ膏藥かうやく  
と包つつくく口中くちゆう含くはくく化くわす

○一切いっせつの風眼ふうがん赤眼しやくがんとくく眼痛がんどう  
じふじふ兩りやうの米こめううみみ貼内ちうちへへ山さん

○打身落馬うちしんらくばななの痛いたふふ其處そのところ  
ふ貼内ふちうちへへ陳皮湯ちんぴたうかゝ用也

○腰膝こしひざの痛いたふふ患あはる處ところ貼内ちうち  
へへ鹽湯しんたうかゝ用也

○垂つふふ血ちゆゆららりり出でるるふふ桑白皮そうはくひ

の煎湯せんたうかゝ服用くわんりやうす

○痔漏しゆろうふふ先鹽湯せんしんたうかゝ洗せんひひ淨じやうふ

して後のち貼ちるるなり内うちへへ膏藥かうやくと

丸まるト蛤粉かつかうと衣えと用也

○一切いっせつの瘡癬そうせん疥癩せうらい及及び腫痛しゆどうじ

小別せうべつ煉油れんあぶらとと灰はいととくくりりをを加かへ

膏藥かうやくと和わしてしてこれこれふ塗膏藥ぬりかうやく  
年久ねんきゆうししききややとと愈功いよくうああるるなり

玄參げんじん 白芷はくし 當飯たうはん  
赤芍藥しやくしやく 肉桂にくけい 大黃たいかう  
生地黃じちかう 各かく十じゆ五ご  
右判みぎはん胡麻こまの油あぶら二斤にしん但た三百さんひゃくを  
用もちて浸ひそそぐぐと春はる八五日はちごじつ夏なつは三  
日にち秋あき八七日はちにち冬ふゆ八十日はちじつ黒色くろしきふふるる



和と熬渣と漉去り黄丹一升但百六十  
 目とへま柳の生れ枝ハキキふく手とと  
 とやぐ攪カキマゼり水の中ミヅに落して  
 珠シヅメと手テ小黏コネけりカキマゼるカキマゼ度と  
 す焼物の器ウツロれ中ナカふ入イき同ト蓋フタ  
 して氣キのキままぬぬややふふなな樹  
 陰ツツの土ツチ中ナカへ埋ウマえ三日ミツヒあつあつととり  
 出デすすととくくくく火毒ヒドク去クるるなりなり扱アツ万  
 小用コヨウ也也一一神仙シエンの妙ミョウ方ホウあり  
 ●又太乙膏方 專撲身くらき  
 遍身痛ヘンシツク一切イチケツの瘰癧レツ惡瘡アクソウ疥癬セツ  
 及び筋骨キツクの痛イタと脚氣ケツキ切疔キツ灸瘡シウソウ  
 けぬかなくふけくふ小其ま効  
 あり

黄栢 防風 玄參  
 赤芍藥 白芷 生地黃

大黃各五 麒麟竭各三 當歸各五  
 肉桂各三 槐枝 柳枝

桃枝各三

右判ハキキと香油アブ四斤一升百六と用ヨウひ  
 て浸ヒすすと四季シキの日數ヒカ前マのコト  
 く桑クサの木キを火ヒり焼ヤキて熬アウ褐カフ色シキ  
 小なりと渣シヅメと漉カキマゼ去ク再マタ油アブと熬アウ  
 黄丹ワウタン二升ニシヨウと入イき攪カキマゼりカキマゼと千チ  
 餘ヨリ遍ヘン水スイ不フ落ラクして珠シヅメとカキマゼるカキマゼと能ノく  
 ぐんとす冷ヒヤと待マツて哭ナクふ入イき土ツチ小  
 埋ウマじじと三日ミツヒ火毒ヒドクと去クて用ヨウひ  
 ●又膏藥 凡ツバその腫物シヅメとたす



なり垢切なり...  
て良

松脂 五兩 鹽 十文 胡麻油

右油と膏藥ふ...  
ま煉なり

○屠蘇酒方

正月元旦ふ...  
切不正の氣又ハ疫癘と病す或

ハ疫癘流行の時此酒と飲ば傳

染... 傷寒並び同ト

蒼朮 肉桂 各七分 防風 十文

菝葜 五文 山椒 少炒 桔梗

大黃 各五分 川烏頭 各二分

赤小豆 新と用也 五粒

右剉三角の絳囊ふ入除夜并

中へ糸小けちを水より一尺

了上し釣て置元旦の夜明前ふ

取出し酒小浸し振出し家内殘

らべ東北方ふ向ひく年少者よ

了飲初め次第く二年長く家

者ことと飲なり一人ことと飲

家病なく一家飲ハ一里病ある

了藥の滓とハ井の中へ捨べきか

了此方書小依て藥味不違あ

まども今此に記す所諸方ますぐ

れて好方なり屠蘇とハ庵の名

なり昔屠蘇と云庵小居を酒と

造る者ありしなり酒の名とせ







